

日曜学校教案誌

第4号

2002年1・2・3月号



日本キリスト改革派教会
中部中会教育委員会

も く じ

まえがき	春名義行	3
巻頭説教「あなたの子にこう答えなさい」	村手淳	4
中部中会教会学校教師研修会講演		
「青少年伝道と契約の子の信仰継承のために」	相馬伸郎	6
日曜学校・教会学校訪問		
四日市教会	伊藤治郎	16
教会学校教師のための実技講座	吉田実	20
2002年1・2・3月分カリキュラム		22
聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例		23
1月6日		24
1月13日		32
1月20日		40
1月27日		48
2月3日		56
2月10日		64
2月17日		72
2月24日		80
3月3日		88
3月10日		96
3月17日		103
3月24日		110
3月31日		117
幼稚科工作		124
小学科下級工作		136
2002年4・5・6月分カリキュラム		137
2002年度カリキュラム(2002年4月～2003年3月)		138
編集後記		140

まえがき

春名義行（津島伝道所宣教教師）

この号の発刊をもって、一年分の教案誌が発行されたこととなります。一年間の発行が守られたことを、ここまで導いて下さり、支えてくださった神様に感謝いたします。

また、この働きのために中会的に援助を認めてくださり支えてくださっていることを感謝しています。また、多くの励ましをくださり、お祈りに覚えてくださったことを心より感謝しています。

現在、編集作業は新たな一年の第一歩となる第五号の発行の準備を進めています。

このように、神様のお導きと支えを、さらに中会的な資金的支えと、多くの方の励ましをいただけたことは、この働きを神様がなすようにと導いて下さっているのであることを、私たちに感じさせてくださる事柄であると思います。

さて、先の大会に於いて教会教育のことが話題となり、大会的にもこの事が今非常に大きな関心事であることを確認できました。教育の問題と言いますと何か、教会とかけ離れている事柄のようにも感じます。しかし、教会における教育は、信仰継承の問題と直接的に結びつくものであって、それ故に無視することのできない重要な問題であるのです。また、信仰継承の問題と言うとき、それは契約の子だけではなく、すべての人に対する信仰継承が問題となります。教会での教育の問題は、信仰継承と結びつけて考えるとき、主がお命じになっておられることであると言っても過言ではないでしょう。ですから、教会的に本気で教会での教育のことを取り扱うことは非常に重要なことです。

さて、教会教育という中で、私が長い間考えてきてやはり忘れてはならないと感じているのは、教会教育でまず中心となるのは何よりも礼拝であり、また礼拝における説教です。その礼拝の場でどのようなキリストが提示されることがまず第一となってくるのです。そして、そこで御言葉に聞く全ての者たちが、キリストにあつていかに子どもと、また人々と接していくか、つまり、御言葉によつていかに生かされるかが問題となるのです。その様に考えていくとき、日曜学校は「子ども礼拝」であることを、まず意識せずにはいられないはずであります。

この礼拝の中で私たちは決して自己満足に陥つてはなりません。礼拝は常に神様が中心であり、私たちが主を崇めることができるように、主が導いて下さっているからです。ですから、特に礼拝において説教や奨励をする者たちは、その説教や奨励を神様が語らせてくださっているという畏れをもって語らなければならないのです。礼拝のすべてにおいて、神様の主権が現れ、それによつて礼拝に対する、また奉仕に対する喜びが表れるのです。

私たちの教案誌の働きは、このような教会教育のお手伝いをするためのものです。それぞれの教会において教会教育のために、それぞれにあった用い方をしてくださると幸いです。

最後に、この働きに携わる私たちが、ますます、神様の御前に謙遜になり、自己満足に陥ることなく神様の導きの下にこの働きをなしていくことができるようにお祈りください。

「あなたの子にこう答えなさい」

- 申命記6章1～25節による説教 -

2001年11月23日(金) 中部中会教会学校教師研修会開会礼拝より

村手淳(太田伝道所宣教師)

旧約のモーセの昔、主は、「将来、あなたの子が、何のためですかと尋ねるときには、あなたの子にこう答えなさい」と、わが子への答え方を教えられました。今日はこのモーセの説教を通して語られる主の御言葉に耳を傾けて、日曜学校の活動にたずさわる私たちの励みとしたいと思います。

まず最初に私たちが注目すべきことは、20節、「将来、あなたの子が」といっていることです。つまり、この時点ではまだ子供はいません。1節でも「あなたたちが渡って行って得る土地で行うべきもの」と言って、まだ渡っていない、得ていない状況なのです。これは、現在まだ子供も土地も得ていない状況だけれども、将来土地を得、子供を持つ時には、という意味なのです。主はイスラエルをエジプトから解放され、ご自身の民としてくださいました。更に主はそのご自身の民に豊かな土地を約束されたのです。将来土地を、そして子供たちを得ること、それらが象徴する豊かな祝福を約束しておられるのです。

その祝福は10節で「あなたが自ら建てたのではない、大きな美しい町々、自ら満たしたのではない、あらゆる財産で満ちた家、自ら掘ったのではない貯水池、自ら植えたのではないぶどう畑とオリーブ畑」と言われているように、自分たちの労苦で得るというのではなく、恵みとして与えられるものであることを教えています。この祝福は「食べて満足する」という祝福で、必ず私たちが満たしてくれます。

そして、主がこんな約束をしてくださる根拠は、「あなたの神、主が先祖アブラハム、イサ

ク、ヤコブに対して、あなたに与えると誓われた」、この主の誓いにあります。人の心は時と共に移り変わりますが、主は時代をどんなに隔ててもご自身の契約に変わることのない誠実さをもって臨んでくださいます。この変わることにない誠実さをもって、主ご自身がその祝福を約束してくださるのですから、私たちの日曜学校の働きも決して無駄には終わりません。いいえ主が祝福を約束してくださいますから、私たちもまた一層祈りをもってこの活動に励みたいと思います。

次にその神の祝福を受けて家族とその家を持ったときのあり方を6～8節で教えておられます。「今日わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、子供たちに繰り返し教え、家に座っているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。更に、これをするしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、あなたの家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい。」

「座っているときも歩いているときも」とか、「寝ているときも起きているときも」とは、文字通りの四六時中というよりもむしろ普段の生活の中でという意味でしょう。礼拝をしに教会堂に来ているときだけでなく、寝食を共にする家族生活の中で語り聞かせなさいということです。「自分の手に結び、覚えとして額に付ける」というのも文字通りというよりは、手に結ばば何をするにしてもそのことを覚えますし、額につければ何を見てもそれを意識しますから、自分の働きや判断にいつも覚えるようにという意味なのでしょう。「戸口の柱にも門にも」は家

の中だけではなく、外にもという意味でしょう。つまり、自分の家の信仰を外部にも明白にし、自分自身の思いも業もそのしるしを付けたものとして行い、家族生活においても語っているという姿勢を教えておられるのでしょうか。普段の生活の中では語らず、礼拝堂の時だけ聞かせたり、自分の心の中だけで信仰をふせていたり、あるいは家の中だけで信仰生活を営み、外部には伏せていたり、そういう家族生活の断片的な信仰ではなく、すべての営みにおいて主をたたえ、主に祈り、主に依り頼む生活を勧めているのです。そういう営みに努める時、18～19節、「そうすれば、あなたは幸いを得、主があなたの先祖に誓われた良い土地に入って、それを取り、主が約束されたとおりに、あなたの前から敵

をことごとく追い払うことができる」のだと教えているのです。

そんな信仰生活に努める中で、最後に子供に語る教えが付けられています。それは「主が命じられたこれらの定めと掟と法」すなわち主の御言葉を、単なる教えとしてではなく、救済の信仰的体験と合わせて語るというものです。

「我々は」とあるようにこれは歴史上の先祖の物語ではなく、語る私たち自身の体験として捉えています。更にその体験は「主は我々の目の前で」と語るように主の御業の目撃者としての体験で、即ち証です。主の御言葉は単なる宗教的な教えではなく、親の証を伴う重みのあるものとして語り継がれるのです。

「青少年伝道と契約の子の信仰継承のために - 日曜学校教案誌発行の狙いと用い方 -」

2001 年 11 月 23 日 (金)、名古屋教会

相馬伸郎 (名古屋岩の上传道所宣教教師)

はじめに

本日、ひとつところに集まって、共に学び、
交わり、祈りあうひと時が与えられました。心
から感謝いたしております。今年の大会におき
まして、「青少年の教育」についての懇談会が
わずか一時間でしたが、持たれました。それを
受けて、来年の大会役員修養会の主題も、青少
年の伝道、教育となるかと思えます。これは、
日本キリスト改革派教会の総力を集めて取り組
まなければならない、最大の緊急の課題の一つ
であると思えます。しかも、この伝道を担う主
体は、各中会にあるわけですから、中部中会でも、
このために協議し、具体的に何事かを生み出
し、行動することが必要ではないかと思いま
す。その意味で、期せずして、今回の研修会
は大会の方向性と期を一にしていると思いま
す。しかも、私共の日曜学校教案誌発行も、まさ
にその一助となることを求めてなされたものに
他なりません。本日は、主題としては、日曜学
校教案誌発行の狙いと用い方としておりますが、
ただ日曜学校教案誌だけの事柄ではなく、皆様
と、青少年伝道と契約の子の信仰教育の課題を
巡ってご一緒に考え、祈るための発題とさせて
いただきたいと思います。

I. 日曜学校教案誌発行の狙いと用い方

①日曜学校教案誌発行への思い

何故、日本キリスト改革派教会には、「日曜
学校教案誌」がないのか。それは、私共が加入
へと導かれる間、大変大きな疑問として膨ら
んでまいりました。

日本キリスト改革派教会は、福音主義教会と
りわけ改革教会の源流に遡り、それを日本の地
において豊かに展開することを目指している教
会であると考えております。私は、そのような、
教会形成の筋道を持つ教会として、これまで日
本キリスト改革派教会は「果敢なる進軍」(創
立宣言)をなして来たと一定の評価を与えられ
て良いと思えます。先輩の教師、長老、教会員
の皆様心から感謝する者であります。

この高く険しい道のりを歩み抜くために、
教育の課題は、最重要のものとなると思いま
す。そして、それは成人会員の教育においては、
他教会をおそらくはるかに越える熱心さで、ウ
ェストミンスター信仰基準を中核とした教理教
育を推進してきたと思えます。それが、私共の強
みであることは疑い得ない事と思えます。しか
し、日曜学校における教育と言う点では、どう
であったのか。日本キリスト改革派教会の日曜
学校への取り組みの歴史を、大変勉強不足な者
が判断することはできません。しかし、私共中
部中会教育委員会が刊行致しました「日曜学校
教案誌」のような形での教案誌はなかったの
ではないかと思えます。

個人的なことを申して大変恐縮ですが、私の
学びました神学校の経営母体の日本ホーリネス
教団には『聖書の光』と言う季刊の日曜学校教
案誌があります。もう、かなりの歴史を重ねて
いるものかと思えます。他教会のことをあれこ
れ言う立場にはごさいませんし、比較のしよう
もないかもしれませんが、このこと一つをとり
あげても、日本ホーリネス教団が日曜学校、青

少年への伝道に力を注いでいることは明らかであろうと思います。あるいは、同じ改革教会の伝統を担う日本キリスト教会には、日曜学校教案誌があります。日本キリスト教会は、これは当然のことかと考えますが、大会がこれを発行しておられるように思います。全教会の献金によって運営されておられるようであります。さらに、日本キリスト教団の改革長老教会協議会発行の『季刊教会』にも日曜学校の教案が掲載されております。これは、教団（教会）形成には、日曜学校（教会学校）の共通したテキストが必要不可欠であると言う、基本認識があるからではないでしょうか。

例えば、どのような教団・教派であっても、責任的な教団（教派）形成をしようと志すほどの教会であれば、まず何はともあれ教派立、教団立の神学校を整備しようと励むのはほとんど常識とされていると思います。一つの信仰告白に基づく教会形成を目指す教会であればなおさらの事であります。私は、これと同じ論理で、日曜学校教案誌の作成もその延長線上に当然出てくるのではないかと考える者であります。それだけに、ひとつの不思議だったわけでありませう。さらに申しますとほとんど衝撃的ともいえるくらいにショックであったのは、いわゆる福音派の日曜学校教案誌を採用しておられる教会もあると伺ったことでもあります。もちろん、それを一概に批判することは間違っているでしょう。教師会で教案研究をきちんとし、改革教会の信仰理解、教会理解と抵触する部分を確認すれば、利用することは可能かと思えます。

私共は、加入前の5年間を単立教会として開拓伝道に励んで参りました。もちろん、改革・長老教会の伝統を生きることを目指したそれでありました。開拓伝道は、最初が肝心であります。教会形成の基本、土台を据えるところで間違ったら、ほとんど修復が困難になります。そのような最初に、先ほども触れました『聖書の光』や『成長』をそのまま教師に手渡しして、自

分達の子どもや地域の子ども、（彼らは私共の将来の最有力な教会員候補者たちであります！）を教育させることは全く考えられませんでした。先ほどのような、教師会で日曜学校教案誌を用いて教案指導、奉仕者の指導をすることは、かえって困難を極めますから、勢い教会独自のカリキュラムを作る以外にありませんでした。

②発行の経緯

その後、一昨年になりますが、この教師研修会の講師として立てられた東部中会の長島邦忠牧師の講演を伺いました。本当に、叱り飛ばされるような挑戦的なお話でした。先生ご自身が、伝道に専心してこられたそのご経験、自負がありだからこそ、まことに説得力に満ちたものでありました。特に、印象的なお話として記憶に鮮明なのは、このようなお話でした。「日曜学校のクラス担任の先生は、子どもたちを牧会しているのか。例えば、その日の日曜学校を休んだ子どものケアをすぐにしているか。もしも、その子が病気で入院しているのに、知らないままにしていたらどうなのか。もしも、その子が重篤であつたら、取り返しがつかないではないか。学校の先生だけが訪問したりしていたのでは、日曜学校の教師として証にならないではないか」ということでした。長島先生は、日曜学校教師だけに厳しく挑戦なさつたのではありません。むしろ、私共牧師に対してのものであつたかと思えます。「牧師は、本気で子どもの伝道を考え、取り組んでいるのか」。ほとんど憤りを込めた講演であつたとの印象を持ちました。そして、おそらく出席者は全員、改めて自分の使命の重さを再確認し、悔い改めと励ましを受けたかと思えます。

先生はさらに、日曜学校教案誌についても触れられました。日本キリスト改革派教会として、日曜学校教案誌がないことについても厳しい批判をなさつたと覚えております。私はそのとき、

正直に申しまして、それなら何故先生が作ってくださり、大会を動かしてくださらなかったのかと、素朴に考えたのであります。もちろん、先生ほどの方ですから、何もなさらなかったはずはないと思います。そして、一昨年から、ふつつつとこれは、誰かが本気でやらなければ、必要性を感じている人がおられる限り、どうしてもやらなければならないのではないかと考えるようになりました。

そして、今年のこの研修会で、ほとんどの兄弟姉妹方が、日曜学校教案誌の必要性を覚えておられることを知らされました。そして、直後に開かれた教育委員会で議題にさせていただき、委員の末席の私がおその道を検討することが決められたのであります。その決定を受けてすぐに、日曜学校教案誌の作成にとりかかりました。今年の信徒神学講座の開かれたその日、木下牧師と名古屋の喫茶店で全体の構成と刊行までの道のりを話し合い、12月の中部中会第二回定期会の開催前、朝早く、伊藤長老にも加わっていただき、日曜学校教案誌発行までの段取りを決定したのであります。最初は、執筆した四人の牧師たちがそれぞれ自費で、子どもカテキズムと日曜学校教案誌を刊行することに致しました。それぞれ、伝道所の牧師ですから、相当の覚悟を皆さんにお願いしたわけでありまして、皆さんはそれを引き受けて、なんとかしなければならなかったと考えたのであります。しかし、四月に開催された中部中会の第一回定期会で、中部中会として刊行する道、費用を中会で負担して発行する道が、開かれたわけでありまして。

③日曜学校教案誌の用い方

基本的に本誌は、使用してくださる教会の日曜学校教師会でご自由に、用いてくだされば良いと思います。まさに、これは、「案」なのであります。すべてこのカリキュラム通りに行ってくださいという思いは、少なくとも私の中には全くありません。むしろ、名古屋岩の上伝道

所の教師会で何度も申し上げるのは、「分級で一番大切な事は、カリキュラムを教えて満足するよりも、子どもと祈ること、子どもに祈りを教えることです。心と心が通い合うような交わりを作ってください」と言う事でありまして。さらに、これは、まだ日曜学校教案誌の編集に関わってくださる教師と良く話し合ったことがないのですが、私自身、日曜学校で最も大切なのは、礼拝式であると考えております。その意味では、日曜学校は、子どもの礼拝共同体であると理解しております。礼拝共同体は、御言葉の学びなしには成立いたしませんから、その意味で、分級が大切になるわけでありまして。

分級は、現場の教師が担ってくださいます。これは、他の、既成の日曜学校教案誌にはない、ユニークな点であります。この奉仕者が、まさに、手弁当で、忙しい日々のお仕事と生活を何とかやりくりして、原稿を記してくださいます。頭が下がります。牧師たちが、この信徒の方々の熱心を見ますときに、自分達の忙しさなどは、口に出来なくなるほどであります。本当に、心から感謝いたしております。

そして、この第4号までの奉仕者の方々は、今年のこの研修会に出席なさった方々であります。実は、裏話ですが、本日は、2002年度以降、第5号以降の奉仕者を募集し、発見し、依頼するのが、大きな目的なのであります。どうぞ、午後の分団にお残り下さい。

用い方は、皆様の自由であります。ただし、既に、本誌に記されておりますように、これは、教師の準備を助けるためにも発行されているのですが、「虎の巻き」のような使われ方をしないでいただきたいとは考えております。

ただ、聖書研究やカテキズム研究は、教師の皆様はもちろん、全ての教会員の皆様に読んで、信仰の養いを受けて欲しいと思います。これらを良く読んでいただいて、単なる小手先のようなクラス運営の準備にならないようにと考えます。そして、説教展開例の単元の狙いも良く読

んでいただければと願っております。何を伝えるのか、伝えたいのか、そこでの教理の本質をここで確認していただきたいと思います。そして、分級の展開例も、時間が許す限り、単元の全ての展開例を見ていただければと思います。また、分級展開例も同じようにする必要はありません。まさに例を示しているわけであります。あるいは、下級のものの上級で利用することだってありうると思います。中学科で利用する事だってありうるかもしれませんが。とにかく、この例を参考にしながら、ご自分のクラスの子どもたちのために、工夫して楽しい交わり、福音の喜びがつくる交わりを形成していただきたい、その少しでもお手伝いをさせていただきたいと考えております。

使い方は、私がここで何かを申し上げるよりは、採用して下さっております、皆様が後ほどの分団で、分かち合ってくださいと思います。また、ご批判など忌憚なく出していただければ、今後の為に大変助かります。

II. 青少年伝道の活性化のために

今年の大会では、大会の教育関係の諸委員会が懇談会を開催する提案を出され、わずか一時間ではありましたが、懇談会を持ちました。その中で、そして、その後、それらの委員会から、来年の大会役員研修会の主題を「青少年の教育」とする提案が提出され、受け入れられました。遂に、大会規模で日本キリスト改革派教会の教勢の停滞、とりわけ青少年の減少の問題を正面から取り上げられようとしております。神戸改革派神学校校長の牧田先生は、60周年記念宣言の草稿執筆者ですが、先生ご自身がその「終末についての信仰の宣言」よりも、緊急かつ重要な主題が青少年への教育、伝道ではないかと発言されました。私も全く同感であります。またある教師は、これは青少年の教育の問題ではなく、伝道の問題ではないかと発言なさいました。まことにその通りであろうと思います。日

本キリスト改革派教会が、今、青少年伝道をどのように考え、取り組むのが問われようとしております。そこでまさに、日本キリスト改革派教会の体質そのものの改革に取り組むことにすらなると思います。そのような覚悟をもってでなければ、日本キリスト改革派教会の将来を展望することはできないと思います。先の大会で、実際にある教師が、今後我々の中会はなくならないと予言と言いますか、警告を寄せられました。それほど危機的状況にあるのであります。

しかし大会で、一つの共通認識はお互いに確認されているように思いました。私共の先輩達の遺産、契約の子の教育への熱心、カテキズム教育は、素晴らしいし、これはそのまま継承し続け、発展させて行けば良いというものであります。もちろん、開き直つてのことではなく、これも、日本キリスト改革派教会で信仰に導かれた教師ではなく、加入なさった方のご意見として、日本キリスト改革派教会の信仰教育は、比較にならないほど、丁寧に熱心にされていることに驚かされたとの印象を語っておられました。私の印象も全く同じであります。

さてしかし、青少年への伝道、教育的伝道という点では、まさに、来るところまで来てしまったというような危機感があるわけであります。そして実は、この日曜学校教案誌とは、その打開の一つの取り組みとして発行したのであります。もしかするとそこで、誤解されやすいと危惧しております。この日曜学校教案誌がただ、契約の子の教育、これまでの日曜学校の取り組みの延長線上にあるわけではないのであります。私は、創刊号で説教、前書き、子どもカテキズムのオリエンテーション、そして、カテキズム第一部の解説を記させていただきました。日曜学校教案誌の目標、使い方は実は、既にそこで基本的なことは記したつもりであります。皆様には、許されますなら、改めて創刊号をひも解いていただければ幸いに存じます。そこで、

私は「伝道」と言う視点、地域の子どもへの伝道の取り組み、伝道そのものへの活性化の道を共にたずねることを呼びかけさせて頂きました。また、日曜学校を単に、カリキュラムを教授する「学校」として運営するのではなく、子どもの信仰共同体、いわば子どもの教会として形成する道をも主張いたしました。しかも、その最善の手段として、カテキズムを骨格としたカリキュラムの教授で担えるのだと主張させて頂いたわけでありました。そして、そこでこそ問われるのは、カテキズム教育の方法が、カテキズム教育の本質に則して行われる事でありました。そのあたりの事は、創刊号で三川牧師が論文で主張してくださったことでもあります。本日、改めてその事には触れさせて頂きます。

青少年への伝道、これこそ、緊急の課題であります。そして、本誌はその取り組みの一助となることを目指しているのです。

昨年、ここでマルコによる福音書第10章13節～45節から「子どもたちを主イエスのもとへ」と題して説教を語りました。創刊号に載せていただきました。そこで、「子どもらを私のところへ来させなさい」との主イエスの御言葉を語りました。子どもらとは、自分の力で主イエスの御許を訪ねることのできない乳飲み子、つまり、自力で救われる事のできない私共全員のことなのであると説きました。さらに、それを今日の私共の状況で読めば、契約の子よりも、地域の子らではないかと申しました。彼らは、親に連れられて来れません。親は連れて来てくれません。ですから、地域の子らへの伝道をしなければ、主の憤りを今日の主の弟子たる私どもが受けなければならない。主イエスの激しい憤り、嘆きを感じて、伝道しようと申しました。しかもその伝道は、日曜学校教師が外に出て行って勧誘することも意味があることですが、むしろ、子どもたちを小さな伝道者として励まし、育てることによって、担われるのではないかと申しました。地域の子どもたちを何と

しても、教会に取り戻したいと祈ります。

私どもは名古屋市緑区で伝道しております。皆様のご記憶にまだ新しいと思います。名古屋市緑区で日本中に衝撃を与えた事件が起きました。ぱっと思い起こされる方もおられるかもしれません。中学生による5,000万円恐喝事件であります。それは、まさに私共の伝道しております目の前で起きました。その時、私どもは社会からも地域からも責任を問われませんでした。教会は何をやっているのだと叱責されませんでした。しかし、それは喜ばしい事ではないと思います。社会が、私共の伝道、教育に期待していないからであります。ビルの一室で開拓6年目を迎えた名古屋岩の上传道所は、まだまだ地域に認知されていないと思いました。

私共の教会は、その事件から、幼子を求めておられる主イエス・キリストから、改めて日曜学校の為に、全力を傾注して奉仕しなさいと迫られたと思われました。その事件でも明らかにされたのは、子どもの心の闇、荒廃の深刻さであります。日本の社会全体の深い病であります。今こそ、教会は力をあわせて、子どもたちに、「主イエスのもとに来なさい。教会に来なさい」、教育に携わる人々に、福音の真理を伝えて「主イエス・キリストが共に働いてくださいます。望みを失わず、愛の労苦を怠らないで下さい」と呼びかけるべきであると思います。それができるのは、この福音を知らされ、生かされている私ども教会、キリスト者のみであります。主イエスの福音のみが教育を支え、社会を育てるのであります。主の教会、主の弟子のみがそれを担えるのであります。ですから、私どもは、伝道にとりわけ青少年の伝道に教会は励まなければなりません。名古屋岩の上传道所の日曜学校の働きへの力の傾注はこのような事件も与っております。

さて、それならその伝道の武器となるのは、何でしょうか。それこそが「教理の体得」であります。これも、開拓伝道当初から、自らに言

い聞かせて教会形成に励んでまいりました。教理の体得のないところで、聖書的な伝道を正しく担う事は出来ないからであります。伝えるべき福音の内容を自らが知らなければ、聖書的な伝道ではないのであります。これは、改革教会の決して譲れない筋、主張であります。既に、創刊号でこう記しました。『子どもカテキズム』と『日曜学校教案誌』は、日曜学校の奉仕者だけではなく、全てのキリスト者の教育と伝道のためにあるのです、自分の口で福音の教え、主の御業を言い表すために、福音の言葉の獲得のために読んでください。子どもカテキズムは、単に子どもや大人に文言を暗記していただければそれで良いと言うものではありません。カテキズム教育は、自分の口で、自分の言葉で福音の喜び、福音の真理を説く道をたずねるための最高の、最善の道なのであります。説教者たる者にとって、カテキズム、教理問答を学ぶことがどれだけ力になるか、その基礎となるかを思わざるを得ません。それは自分の語る福音の内容を整えることであります。救いへの道、救いの道をきちんと弁えるために、牧師は、これは改革派の牧師にとって、当たり前すぎることもかもしれませんが、カテキズムを座右にして、聖書を学び、神学することは基本であります。

III. カテキズム教育と「子どもの教会」

①カテキズム教育が生み出す「交わり」、「共同体」

『子どもカテキズム』の作成の経緯についても、創刊号で記しましたので、そちらをいただければと存じます。『子どもカテキズム』の表紙の図像は、相馬直子さん（名古屋岩の上伝道所日曜学校校長）がイメージをつくり、伊藤穂波さん（四日市教会会員）がパソコンで仕上げて下さいました。左上から小さな円が少しずつ右下に向かって広がり、右下からも左上に向かって小さな円が広がっています。これは「響き」をイメージしたものです。「カテキズム」

とは、ギリシャ語の「カテーケース」と言う言葉に由来します。直訳すれば、「下に向かって響かせる」という意味であります。

キリスト教会の信仰教育＝教理教育は、「カテキズム」と言うあり方に整えられてまいりました。これは単なる偶然ではないと思います。先ほども申しましたが、福音の本質そのものが教会の教育の「あり方」「方法」を規定したのだと思います。「カテキズム」を用いた教会の教理・信仰教育。それが正しく行われるときには、いつも「響き合い」が起こると思います。そしてそれをこそ目指して担われるべきであると思います。それならその響きとは、一体どのような響きなのでしょう。

日本語の「福音」、ギリシャ語では「ユアングリオン」です。先輩たちがそれを「福音」と訳したことは、素晴らしいと思います。「喜びのおとずれ」。福「音」という漢字にはすでに、素晴らしい音色、響きが表示されているように思います。神は上から、私共に向けて、「あなたの罪は赦された。私はあなたがたを愛している！」と語って下さいました。その時に、下から「やったあ！ありがとうございます！天のお父さま！」との叫びが挙がったのであります。そこに神の民、キリストの教会が誕生いたしました。実に、私共は主イエス・キリストの恵みの響きに「共鳴」することが許されたのであります。この共鳴、響き合いが起こると言うことは、そこに命の通い合いが起こったということの意味しております。地上で、私共は神の子とされた喜び、すなわち救いの喜びの叫びをあげています。

『子どもカテキズム』は、問1で、「私たちは何のため生きるのか」、つまり、ウェストミンスター小教理問答と同じ問いを立てました。そして問2で、「どうしたらそうなりますか」を問いました。答えは、「主イエス・キリストを信じて救われること、神さまの子どもとされることです」であります。救いの喜び、それは、

神の子どもとされる喜びであると言いました。子とされる教理、救いの喜びが、このカテキズムの基調音であります。そして、それは、いずれのカテキズムであっても、歴史を越えて教会を生かしてきたのは、この喜び、この福音の喜びの力を鮮やかに指し示すものであったのではないかと思います。

地上の神の子らの喜びの叫びを聴いてくださる、ご覧くださる神は、いよいよご自身の喜びを溢れさせることとなると信じます。そして、その神の喜びを知らされる私ども、その神の喜びにあずかる私どもは、さらに私どもの喜びを深めます。神の喜びを喜ぶと言う、喜びの質を高めます。それは、まことにこの世にない喜び、神的な喜びであります。その喜びが、神と私共の相互にこだまするのです。響き合いが生じるのであります。それは、人格的な交流であります。教会とはまさに、このような「響き合い」によって成立させられております。この響き合いが最も生じる時と場はどこでしょうか。言うまでもなく「主日礼拝式」であります。このようにして、神の教会、神の民の教会が生みだされるのです。神の愛の「響き」が、人の内にも響きを、愛の響きをたてさせる、そのようにして教会は建て上げられて行くのであります。

明治の頃、キリスト教はアーメン教、キリスト者はアーメンさんと揶揄されたことがあります。戦前まで続いたのかもしれませんが。アーメン、これは私共の祈りにおいて、礼拝式において必ず唱えられる言葉であります。未信者の人々にとって、キリスト者や教会が「アーメン」をそれこそ連発するので、そのような印象を持たれたのでしょうか。しかし、彼らがアーメンの意味を知ってくださって、私共をアーメンさんと呼んで頂くなら、それは真に光栄なことではないでしょうか。アーメンとは、主イエス・キリストの別名であります（ヨハネの黙示録第3章14節）。神は、私共に御子イエス・キリストをお与えくださいました。それは、私共に向かっ

て父なる神が「アーメン」と仰ってくださった出来事であります。それを聴いて受け入れた人はその内側から、神に向かって「アーメン」が生まれます。私共の唱えるアーメンとは、神の私共へのアーメンの反響なのです。「こだま」なのです。神の響きこそが、私共に響きを生むのです。それは、「神の真実（ピステイス＝信仰）」のみが、私共の「真実（信仰）」を生み出す源であるということです。

上（神）からの響きと下（人）からの反響、響き合い。それが表紙のデザインの骨格です。しかし、それだけなら真上と真下からの円の広がりとなるかもしれませんが。しかし、実際は、左上からそして右下からの円の広がりとなっています。つまり、これは、横どうしの響き合いということをも表現しているのです。これが私共の「カテキズム」とその教育方法、あり方のイメージなのです。カテキズム教育には、当然のことですが、そこに教える人と教えられる人がおります。しかし、それは一般の学習・教室の世界とは異なります。そこでは、教える人は自分の知識を伝えます。教えられる人は一生懸命、理解し覚えようとしめます。そのような一般の知識の伝達を目指す学習共同体においても、単なる上から下への伝達という図式ではなく、教師も生徒も知識や真理をめぐって真剣に響き合う環境を作り出すことができれば、学習効果はさらに倍増するでしょう。これは、教育の世界では、全てに共通することだと思えます。それなら、教会の教育も同じような次元で考えて良いのでしょうか。違います。教会における福音の教育とは、福音そのものの本質によってこそ規定されます。

福音は、いつでも「人と人との交わり」を生み出します。しかも福音とは、生み出された交わりの中でこそ体得されるものです。もともと福音を教えるとは、恵みを「分かち合う」ことに基づきます。教会の教え、それは、共に聴いてくれる相手（仲間＝友）との生きた係わり（共

に生きる)の中でこそなされることなのであります。たとえば伝道者養成教育は、教える人と学生同士との生きた関係、まさに生活を共にするような関係で成り立つものなのです。効率よく、神学生を生産することはできません。時には、喧嘩したり、反発し合ったりすることが、福音を知り、自分自身を知る道となるのです。

たとえば使徒パウロは教える人ですが、彼は孤独で福音を教えていたわけではありません。彼の手紙は彼個人の著作であると思います。しかし、ほとんど常に「パウロ・シルワノ・テモテ」からあなたがたへと書き送りますと書き始めております。つまり、パウロの福音、彼が「私の福音」とさへ表現する福音は、福音の恵みを響かせ合う交わり、この「交わり」の中で、捉えられ、深められて行ったのであります。

日曜学校の活性化、再生においてこそ、この福音が生み出す交わり、共同体をどのように築くのか、子どもらとの活き活きとした交わりをどのように作るのか、そこに大きく掛かってくるとも思います。日曜学校に集う子どもが極端に減少している今日の危機的な状況をお互いに心から案じております。しかし、一人一人と深い関係を結ぶことは、むしろ容易になるのではないのでしょうか。もしかするとこの状況からこそ、日本の教会学校、日曜学校、日本キリスト改革派教会のそれが再生し、新しい充実した青少年伝道への取り組みが生まれるためのチャンスになるかもしれません。というより、チャンスとしなければならぬと思います。

教師として立てられた私共がまず、神と人(私)との間に起こった響き合い(愛・喜び・恵みの響き合い)を豊かに経験することが求められます。そして、その響きが、生徒(分級)との間にも共鳴し、生徒どうしの間にも共鳴が広がることを信じます。

分級が(もちろん日曜学校全体でもかまいません)、主イエス・キリストを中心にした交わりとして育まれる。子どもどうしで、信仰を励

まし合い、祈り合い、教師のために祈る……。 「響きをたてること」「交わりを築くこと」をはっきりと自覚的に目指して、日曜学校の奉仕に取り組んでまいりたいと願います。そうなりますと、それは、いわゆる日曜「学校」と言うような、学校制度のようなあり方とは、異なって来るのではないのでしょうか。呼び方そのものはどうであっても、少なくとも、現代の学校のイメージとは、全くかけ離れたものとなると思います。

この辺りの事は、このわずかな時間で議論することはできません。しかし、今まさにそれを、正面から、牧師と一緒に日曜学校教師会で学び、協議して良いことなのではないのでしょうか。もちろん「〇〇教会子ども教会」というような名称に変更しなくても、日曜学校の目標を鮮明にすることは大切かと思えます。学校ではなく、「子どもの教会」のイメージ、それが、福音が生み出す交わり、カテキズム教育が生み出す交わりなのではないのでしょうか。ついでに申しますと、『子どもカテキズム』のもう一つの特徴は、教会論であります。問3で、教会生活、教会の交わりと共に生きることをおさえてありますし、問34でも、教会についてきちんと触れております。ウエストミンスター小教理問答では、はっきりと教会論的な視点を押さえる事においては不足があるという私自身の考えがあったのであります。

日曜学校の活性化。それは、単に多くの子どもたちが集うということの意味しておりません。いへ、もちろん、先ほども申しましたとおり、一人でも多くの地域の子らを、さまざまな手立てで、主イエス・キリストの御許に招かねばなりません。しかし、それでも、私共の日曜学校の目標は、福音の力がそこで発揮され、「救い」と「成長」、そして、神との交わり、人との交わりつまりの「信仰共同体」がそこに起こることこそが目標であります。この目標をしっかり定めなければなりません。そのためには、

日曜日のわずか一時間では極めて困難であろうと実感致しております。皆様も同じような、苦闘を重ねられているかと思えます。しかし、目標をしっかりと定めるなら、相応しい知恵や方法が与えられるのではないのでしょうか。どうぞ、子どもらの信仰の共同体を育てるといふ大きな、そして委ねられている私共の使命をよりよく果たしたいと心から祈り願います。

②子どもの教会を育てるために、教師の心得

日曜学校の教師は、大変な奉仕です。誠実に準備をし、担任する子ども一人一人のために祈りを欠かさなければ、これは、おそらく長老の職務に匹敵するような大変な奉仕となるのではないのでしょうか。(ついでに申しますと日曜学校教案誌にも既に記しておりますが、この教案誌は、単に教師の準備の時間、労力を軽減させたいという狙いをもって発刊したものではありません。むしろ、牧師をはじめ、教会員全体の日曜学校への取り組みをさらに盛んにしたいとの思いからであります。)

しかも、この時代の日曜学校の奉仕は、労多くして実りをじかに見ることは難しいと思えます。しかしどうぞ、むしろ少ない生徒であればあるほど、今こそ、大切なその子の救いと成長、信仰共同体の交わりの育成のために心を込めて祈り、取り組んでください。そしてその時には、子どもは、単なる生徒ではなく、信仰の歩みを共にする兄弟姉妹、仲間として見る眼差しが与えられるはずです。

分級で、「福音の響きをたてる」「共鳴しあう」交わりを育てる為には何に心掛けたら良いのでしょうか。

1) 心を柔らかくすることです。

心を柔らかくすること。「変わろうとするのを止めたとき、その時は生きようとするのを止めたとき」。ある修道士のことばです。変わろうとする、改革されることを拒んだとき、霊

的には死んでいると言うのです。神学校で一人の級友が、コーラスの授業のときに、屈伸体操をしていました。「何やっているんだ」「体をほぐさないと言が響かないのだ」彼は、自分の体をほぐして(=楽器につくりかえて)から歌い始めるのです。音大卒の友人です。声を響かせる為には、柔らかな体。福音を響かせるには、柔らかな心です。神に向かって柔らかくなりましょう。いえ、福音を正しく聴けば聴くほど柔らかく「される」はずです。いつも、子どもに先立って、福音(説教)の良き聴き手になって下さい。神の恵みの響きに打たれてください。そのとき、柔らかくされるのです。

分級で、「福音の響きをたてる」「共鳴しあう」交わりを育てる為には何に心掛けたら良いのでしょうか。

2) 心を開くことです。

福音の語り手の特徴は、相手に心を開く態度を持っていることです。相手に向かって心開かないで、福音の語り手にはなれません。そして、福音にはそのような語り手の心を神と人へと開かせる力があるのです。福音を語る、それはあくまでも福音を語るなのであって自分のことを語るではありません。しかし、興味深いことに、ルカは使徒言行録で、三度も使徒パウロの回心の経験(それは迫害の事実でもある)を記しました。パウロもまた、その手紙のなかで自分自身をさらけだしております。使徒ペトロもまた、自分の裏切りの恥をさらしながら、キリストの証人として生きたのです。福音の力によって心を開かせて頂くときには、聴く側にも心が開かれることが起こるのです。そのときに「福音の響きをたてる」交わりが形成されるはずです。

3) 子どもを信仰の仲間として見ることです。

勿論、子らはあくまでも生徒であります。私共は日曜学校教師としての自覚をもって、自ら学ぶ人の模範、キリスト者の模範たろうと努め、

教える内容を自ら体得する修練と教える技術を磨く努力を怠ってはなりません。しかし、私共の教会理解は、ローマ・カトリック教会の教会観のように、教える教会（聖職者集団）と教えられる教会（信徒）とに分けて考えません。全ての信徒が祭司として神と人との前にまかり出ます。

たとえば、牧師はまさに御言葉の教師であります。信仰の仲間と共に生きることで、信仰が支えられ、職務を果たします。そしてそれは、日曜学校の教師もまた同じ体験を与えられると思います。子どもから多くを教えられ、励まされることであります。信仰の交わりをつくるためには、一緒に信仰を生きる仲間として、彼ら彼女らを見る眼差しが大切です。子どもらが契約の子であれば尚更のことです。そのときこそ、深い絆で結ばれるのではないのでしょうか。そのような日曜学校教師のあり方、それこそが私共が目指す教師像であります。また、毎主日の子どもとの交わりの姿、分級の姿なのであります。この目標を明確に見据えてお互いが自覚的な修練を求めて行くなら、そのような分級、日曜学校が営まれるのではないのでしょうか。

生徒を信仰の仲間として見ることは、契約の子の小学校上級科生と中学科以上の子どもとの関わりにおいては、ほとんど不可欠なことと思います。四日市教会の伊藤治郎長老、嘉成頼子姉の指導する中学科では、「聖書深読法」と言う方法で、子どもたちと聖書から御言葉を聴き取るプログラムをしておられます。第3号には、中会の日曜学校教師研修会夏の講座でなされた報告が記されております。「聖書深読法」そのものについてここで解説するいとまはありません。私も実際に高校生たちとその方法で聖書を読む姿を拝見しました。そして、その姿を見ながら改めて思われましたことは、ここで何度も繰り返し提言させていただいております、子どもの信仰共同体、交わりの姿がその方法でな

されていると言うことであります。子ども達がお互いの聖書の読み方、聴き取った御言葉の恵みを分かち合うとき、まさに、それこそ私どもが目指している、日曜学校、子ども教会の姿であります。カテキズム教育と御言葉を直に読む学びとは、基本的に同じことを目指しているわけであります。

聖書を子どもらとどのように読むのか、そのための試みは、この方法に限らずおそらくいくつでもあることでしょう。しかし、繰り返して申しますが、いずれの方法でも、それが分級でなされるときに求められる事は、教師と子どもらが御言葉を囲むこと、同じ地平に立って御言葉から聴き取ろうとすること、そのようにして、福音のみが作り出し育てる交わりが形成されて行くのではないのでしょうか。その為には、必然的に教師が心を柔らかくし、開き、子どもと共に御言葉によって生かされる喜びにあずかろうとする姿勢が不可欠となるのであります。そのときには、教師でありつつ、子どもと心を響きあわせること、通い合わせること、御言葉の絆で結ばれることも起こるのであります。

結語

教会に幼子、小学生、中高生、学生が少ない状況を私どもは今、主イエス・キリストと共に嘆きたいと思ひます。神の嘆き、神の流される涙を、私共のそれとしたいと思ひます。本来、最も伝道しやすい世代であり、彼らが幼いときから、若い時からしっかりと福音を学び、訓練を受け、教会の将来を担うべき世代であります。その子らを何とか教会に取り戻すため、皆さんと祈りを集めたいと思ひます。皆さんと力を結集して、それぞれの日曜学校の活性化、成長のために励みたいと思ひます。日曜学校教案誌は、まさにそのために発行されました。どうぞ、共に献身を新たにしましょう。今、ご一緒に祈りましょう。

四日市教会日曜学校の紹介

四日市教会日曜学校校長 伊藤治郎

1. 四日市教会と日曜学校

四日市教会は、四日市市（人口約 30 万人）の中心部から西に向かって車で 10 分弱の住宅地の中にあります。四日市教会の一番の特徴は、「まきば幼稚園」を併設していることでしょう。まきば幼稚園は 1964 年に当時の諏訪武臣牧師の手によって創設され、地域の幼児教育のために地の塩としての働きを続けています。現在では、教会は宗教法人、幼稚園は学校法人と別々の組織ではありますが、お互いに協力し支え合いながらそれぞれに与えられた務めを果たそうとしております。

日曜学校も幼稚園と無関係ではありません、日曜学校の生徒のほとんどは、まきば幼稚園の園児あるいは OB/OG たちです。現在の出席者数はだいたい 15～20 名位ですが、教会員の中に 30 歳台の方がほとんどいらっしやらないこともあって、契約の子は数名で、あとは地域の子どもたちだと言うのが、四日市教会の日曜学校の大きな特徴でしょう。

2. 礼拝と分級

日曜学校の礼拝は大きく「キッズ」と「ジュニア」に分けています。キッズは幼稚科から小学校 5 年生まで。ジュニアは小学校 6 年生から高校生までです。ここで、小 6 をジュニアに入れているのは、6 年生になって幼稚科といっしょというのは・・・という彼らのプライドへの配慮と、小学校から中学校へ入る時に日曜学校に来なくなる子どもが多いという過去の反省にたって、移行をスムーズにしようと考えた結果です。もともと、現在は小 6 の生徒はいないので、実質ジュニアは中高生クラスとなっています。

日曜学校は朝 9 時の教師の祈禱会から始まります。みんなで祈った後、連絡事項等の確認を行ない、9 時 15 分からキッズ礼拝が始まります。キッズのカリキュラムは中会の教案誌に従っており、礼拝のお話は、牧師と 3 人の男性教師が交代で毎月 1～4 週を担当し、第 5 週があるときは女性教師が交代で担当しています。讃美歌は「こどもさんびか」から一つと、4 月の日曜学校フェスティバルでご紹介した「プレイズワールド」等から選んだものを一つ組み合わせています。

分級は 9 時 45 分頃から約 30 分。幼稚科、1・2 年生、3～5 年生の 3 クラスに分かれて行ないます。現在、各クラス教師 2 名、生徒が 5 名程度の人数で行なわれています。

月 1 回、分級の時間に「ワイワイ遊遊タイム」という時間があります。この日の分級は勉強は無しで、手芸や工作、サッカーや卓球など、時に応じていろいろな遊びをしています。始めてもう 4～5 年になりますが、最初は日曜学校の分級を全く遊びにってしまう事に「いいのかな」という思いもあったのですが、「ワイワイ」を楽しみにして日曜学校に通ってきて、だんだん他の週もくるようになった子どももあるので、よかったかなと思っています。

ジュニアクラスの礼拝は 9 時 30 分から始まります。このクラスは、現在、分級も中高合同で行なっておりますので、礼拝も「分級礼拝」のようなスタイルで、聖書と讃美、祈りがメインで特にメッセージは行なわれません。その後、9 時 45 分からの分級（第 2 部）では、聖書深読が行なわれています。聖書深読については 7 月の中会教育委員会主催の「夏の講座」でも紹

2001年10月7日

キッズ礼拝プログラム

可会・おはなし：いとう じろう 先生

もくとう（心を、しずかに神さまのほうにむけましょう）

さんびか 51ばん 「わたしは 主のこどもです」

使徒信条

主の祈り

子どもカテキズム 問21

せいしょ ヨハネによる福音書 8：1～11

おいのり

おはなし 「つみを ひきうけて くださるかた」

おいのり

さんびか 「ワ・ワ・ワ・ソング」

けんきん

低学年

おしらせ

今日の聖句

わたしもあなたを つみに さだめない。

いきなさい。

これからは、もう つみをおかしてはならない

ヨハネによる福音書 8：11

おしらせ

○らいしゅうは、いけだ のぶよし 先生が、「人となられた神さま」というおはなしをしていただきます。

○これからの 日曜学校の よてい

11月11日：秋の感謝祭（運動会）

わたしたちを まもりそだててくださった神さまに感謝し、秋のみりをいっぱいいただく 感謝祭です。



「あなたたちのなかで つみをおかしたことの無いものが、

まず、この女に 石をなげなさい。」

ヨハネによる福音書 8：7

介されましたが（教案誌第3号の私の記事、及び『改革派中部』10月号の長谷川はるひ姉の記事を御覧下さい）、これも四日市教会の日曜学校の特徴と言えるでしょう。なお、深読にあわせて月一回位のペースで教理に重点をおいた学びも行われています。

3. 日曜学校の行事

○餅つき大会

毎年、2月に主の日の午後を利用して、みんなでお餅をついてお腹いっぱいいただきます。子どもたちだけではなく、お父さん、お母さんたちも集まって、教会の方たちとも交わる時となっています。

○ハイキング

5月頃の気候のいい時期の土曜日にハイキングにでかけます。四日市は西に鈴鹿山脈をひかえていますので、ちよつとした山歩きをしたりしています。今年は、市内の山の手になんてきた羽津公園にでかけました。



○花の日訪問

6月第2主日の午後、老人ホームや障害者施設の訪問に行きます。四日市近郊の4施設を毎年ローテーションして訪問しています。

○サマーキャンプ

8月の金・土曜日を利用して、鈴鹿山系の朝明溪谷でサマーキャンプを行ないます。教会から車で30分位のところなので、日帰り参加も気楽にでき、大人子ども合わせて50～60人が毎年参加しています。



今年は、初めての試みとして、ジュニアクラスの修養会を大王崎で行ないました。毎週、ぶつ切りで行なっている聖書深読を集中して行なったり、海水浴を楽しんだり、たくさんの恵みいただきました。

○映画会

これも今年初めての試みで、9月1日の午後、映画会を行ないました。教会の近くのマンションなどにもチラシ配りを行ない、初めての子どもたちも加えて五十数名の参加がありました。「たいせつなきみ」のビデオ映画をみんなで見て、ちょっとしたゲームや手品などを楽しみました。

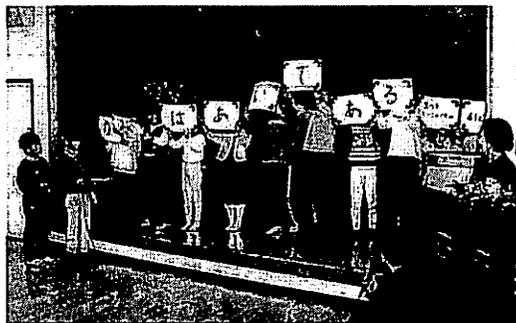
これから、日曜学校の行事が無い時期に、このような映画会をかねた「子ども特伝」を計画していきたいと考えています。

○感謝祭

10～11月の主日の午後、子どもたちの成長と秋の実りを感謝する「感謝会」を行います。感謝礼拝の後、幼稚園の園庭で小運動会。その後、秋の実りをいっぱいいただく感謝会をもちます。感謝会には、毎年、大きなお鍋いっぱい豚汁が作られます。

○クリスマス

日曜学校のクリスマスは、クリスマス礼拝の主日の午後3時から行なわれます。交唱体のクリスマス礼拝の後、お祝い会が行なわれます。各クラスからの劇やコーラスなど、ゲームや手品、そして先生たちの劇が行なわれます。先生たちの劇はほとんど即興で行なわれるので、爆笑の渦です。



クリスマスプレゼントは、高学年の子どもたちと一緒に作ったクッキーやカップケーキなどが用いられます。

その他、今年（2001年）は、これも初めての試みでしたが、4月に中会内の日曜学校の先生方に声をかけて、交わりと情報交換のための「日曜学校フェスティバル」を主催しました（教案誌第2号にレポートしています）。なにぶん、初めてのことでうまくいったとは言えません。パーベキューはおいしかったし、そこそ楽しい時をもてたのではないかと考えています。先生方の元気回復のきっかけになればと思います。

こうして、1年間いろいろな行事を行なっています。問題なのは、毎月の教師会が行事の計画の話し合い中心になってしまいがちなことです。教案誌を採用してからは、教師会で次月のカリキュラムに関する留意点を嘉成先生から指導していただいておりますが、それ以外にも、子どもたち一人一人の様子についても話し合える時間をとりたいなと思っています。

4. これからの日曜学校

今の社会で問題となっている、少年犯罪の増加や大人たちの破廉恥な犯罪の多発の原因の一つは、私たち日本人が「神を畏れる思い」を無くしているからではないかと私は思っています。もちろん、私たちが神とあがめるのは聖書が証している生ける真の神様ですが、その意味だけではなく「素朴な信仰心」というものを日本人全体が無くしているように感じられ

てなりません。かつては家庭で伝えられたであろう「信仰心」が、顧みられなくなってきました。そのことは、現在の日曜学校不振の外的要因の一つでもありましょう。かつては、クリスチャンの家庭でなくても「教会なら何かいいことを教えてくれるだろう」と日曜学校に子どもたちを送り出してくれたものが、今では「そんなところ行ったら何の役にも立たない」と考えられるようになってしまったのではないのでしょうか。

しかし、このような時代だからこそ、日曜学校には大きな務めがあると思います。今や、日曜学校しか「神を畏れる思い」を子どもたちに伝える所はないのですから。日曜学校は、契約の子どもたちへの信仰の継承はもちろんですが、これからの時代は「地の塩」としての働きがより大きくなっていくのではないのでしょうか。その務めを果たしていくためには、日曜学校がもっと教会の外に向かって働きかけていく努力が求められるでしょう。

四日市教会の日曜学校は、これからも教会・幼稚園と共に、地域に向かって神様の御言葉を伝えていく働きを続けたいと願っています。それをするためには、現在の教師陣はかなり平均年齢が上がって来て疲れが見えてきていますが、神様が私たちを強めてくださる事と、若いスタッフをもっとたくさんこの恵みの大きい奉仕へと導いてくださることを祈っております。

教会学校教師のための実技講座

吉田実 (神戸長田教会牧師)

- 西部中会機関誌『リフォルマング』(西部中会教育委員会発行)第23号より、「教会学校教師のための実技講座」を紹介いたします。
- 春になりますと、進級式や遠足、イースター礼拝など、教会学校の行事も増えて参ります。たくさんの人々に案内をするためには何と言ってもチラシが有効ですけれども、しばらく教会学校から離れているお友だちなど限られた範囲で案内をするときには、少し手を加えて楽しい飛び出すカードを作ってみては

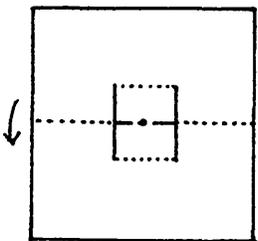
かがでしょう。飛び出す仕組みの基本構造さえ頭にいられておけば、あとは工夫次第でいろんな応用が利きます。はじめにきちんと計画を立てて、部品を揃えて、みんなで手分けをして作ってもいいですし、時間があれば、生徒一人が一人のお友だちのことを覚えて独自のものを作るというのも、心がこもって良いものです。手作りの暖かさが伝わるようなカード作りに、是非挑戦してみてください。

吉田実

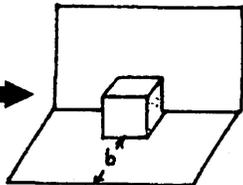
飛び出すしくみの基本

A. 段をつくる

① 1つの段をつくる

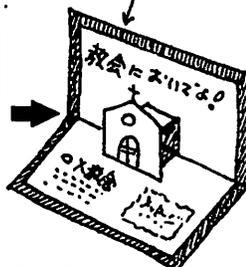


実線部分を切り、…線に従って半分に折る。



開いて、ひた部分を引き出して段をつくる。

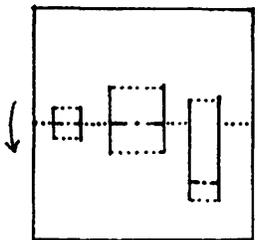
少し大きめの台紙にはる。色画用紙を使うとキレイ。



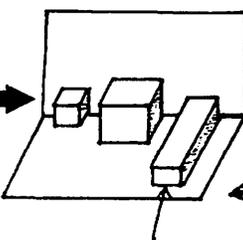
別に作った部品を、段の側面にはりつける。



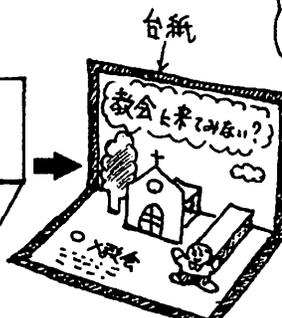
② 複数の段をつくる



実線部分を切り、…線に従って半分に折る。



こういう構造の段は半分に折る時に注意!(段を引き出しながら折る)



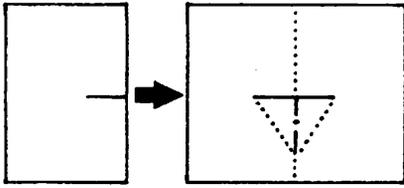
部品を段の側面にはりつけると遠近感が出る。
* 部品が大きすぎるとカードからはみ出すので注意する。

平面図はすべて
—— は切る。
- - - - は谷折り
- · - · は山折り
です。

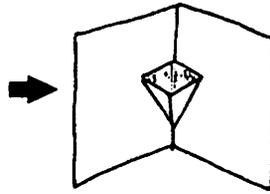


B. 三角に折る

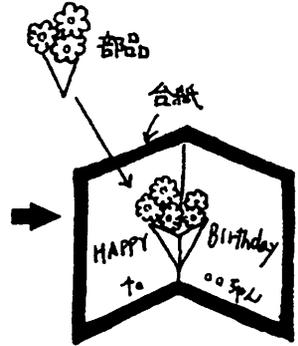
① 三角を1つ折る



紙を半分に折って切る。ひらげて三角部分を引っぱり出す。

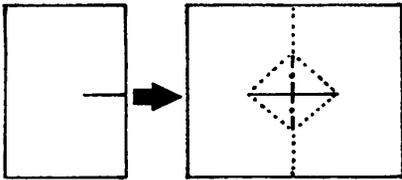


三角が1つ出来る。

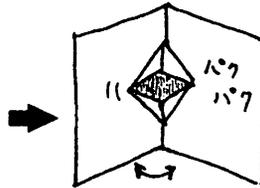


三角部分に部品をはりつける。

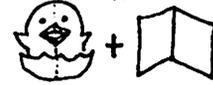
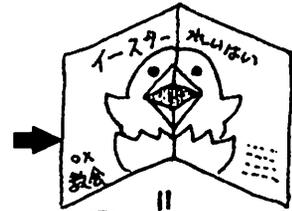
② 三角を2つ折る



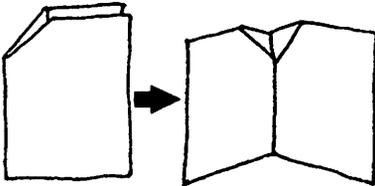
紙を半分に折って切る。ひらげて三角部分を2つ引っぱり出す。



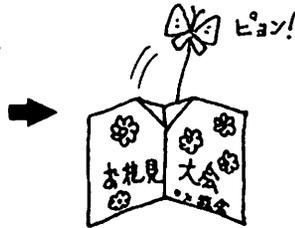
三角が2つ出来る。
(開閉するとロウのように動く)



③ 角を三角に折る



2つ折りにした紙の角を三角に折る。三角部分に部品をはりつける

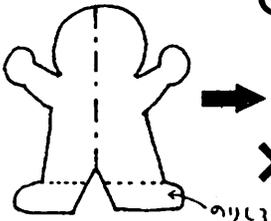


ビョリ線や竹ひしを使って。

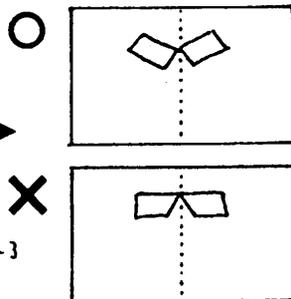


はじめから飛び出す形に紙を切って折る込む。

C. 開くと立つ工夫をする



立ち上がる部品を作り。上図のように半分に折る。



部品が立ち上がるように上図のように角度をつけてはる。

大きすぎるとカードからはみ出すので、注意する。



カードを開くと立つ。

日曜学校 2001年度カリキュラム (2002年1～3月分)

2年サイクル第1年 (子どもカテキズム問1～33)

月日 教会暦	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句
単 元 の 目 標			
1月6日 年始	大祭司イエス	問 26	ウ小教理 25、ハイデ 31
		ルカ 23:32-43	ヘブライ 7:25
昔も今も、主イエスは子どもたちを守るために執り成し続けておられる			
13日	真の王イエス	問 27	ウ小教理 26、ハイデ 31
		ルカ 19:28-40	ヨハネ 16:33b
十字架のキリストこそは、勝利の王、王の王であり、この主に従う喜びを伝える			
20日	恵みのみ	問 28	ウ大教理 58、ハイデ 60,61
		ルカ 18:15-17	エフェソ 2:5
どんなに優れていても救いを自ら獲得することはできない。徹底的に恵みの神			
27日	選びと有効召命	問 29	ウ小教理 29～32
		ルカ 18:18-30	ガラテヤ 1:15
恵みの選びによって、契約の子も生徒も皆ここに招かれている。感謝に導く			
2月3日	キリストとの結合	問 30	ウ小教理 29,30、ハイデ 53,65
		ヨハネ 15:1-10	ヨハネ 15:5
聖霊によるキリストとの結合が信じて救われている状態。その絆の強さを示す			
10日	罪の赦しと義認	問 31	ウ小教理 33、ハイデ 56
		マタイ 18:21-35	ローマ 8:21
教理は信仰の体験に根ざして身に付く。個別に魂を看取り、共に祈りたい			
17日	神の子とされる	問 31	ウ小教理 34、ハイデ 59
		ルカ 15:11-24	ローマ 8:15
神の子とされる喜び、その祝福を証しし、救いへと招く。			
24日 レント	聖化の恵み	問 32,33	小教理 35,36
		ヨハネ 13:1-20	コリント二 3:18
足をきよめてくださった主イエスを仰いで、御子の姿に似せられる			
3月3日 レント	愛の歩み	問 32,33	小教理 35,36、ハイデ 60,61
		マタイ 5:43-48	マタイ 5:44-45a
完全なる神の愛で愛されて、私たちもすでに完全な者とみなされている			
10日 レント	ゲッセマネの祈り	キリストの受難	
		ルカ 22:39-46	ルカ 22:42
受難週、イースターへの備え。私たちのために苦しみ。祈りへ招く			
17日 レント	死刑判決を受ける	キリストの受難	
		ルカ 23:13-25	ローマ 5:8
死刑を求めた群衆とそれに負けたピラトは私たちの姿である。悔い改めへ招く			
24日 受難週	十字架と葬り	受難週	
		ルカ 23:44-56	コリント一 15:3-4a
十字架と葬りの事実は、私たちが神の子とされるために必要不可欠であった			
31日 イースター	復活と顕現	イースター (復活祭)	
		ルカ 24:36-43	コリント一 15:4b-5
主イエスの復活と顕現を物語り、救いの成就を心から喜ぼう			

聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例

テキスト ルカによる福音書 23章 32 - 43節

二人の犯罪人の間で十字架につけられるイエスとそれを見てあざける民衆、議員、兵士たちの姿が描かれています。しかし、そのような人々を取り巻く中で「わたしを思い出してください」と願う犯罪人の一人に「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」とイエスは宣言されました。

(1) 十字架につけられるイエス

最初にイエスの十字架につけられる場面ができます。このところで明確に描かれることは、まず「犯罪人」という人物、「死刑」という行為、「されこうべ」という場所などで、十字架の意味を説明しています。イエスの死は単なる人間の定めとしての死ではなく、刑罰の死であるということです。何かが裁かれ、罪ありと判決がくだり、その罪に対する刑罰として十字架があるのです。しかし 41 節で、犯罪人の一人が「この方は何も悪いことをしていない」と証言することによって、この刑罰がイエス自身のものではないことも明白にされています。

「一人は右に一人は左に」という姿はイザヤ書 53 章 12 節「罪人のひとりに教えられた」という旧約の成就を指しています。同様に「くじを引いて、イエスの服を分け合った」「あざ笑って言った」「神からのメシアで、選ばれた者なら」「酸いぶどう酒を突きつけながら」等の言葉や行為は、詩編 22 編 19 節、8 節、9 節、詩編 69 編 22 節などの成就を指しています。

(2) 十字架を見つめる人々

イエスの十字架の周りに民衆、議員たち、兵士たち、二人の犯罪人がいます。そしてこの人たちは「神からのメシアで、選ばれた者なら」「ユダヤ人の王なら」「メシアではないか」というような言葉を投げかけます。荒野での「神の子なら」

という悪魔の誘惑と同じ投げかけです。また同様に「自分を救うがよい」「自分を救ってみろ」「自分自身と我々を救ってみろ」とも投げかけます。

「メシアなら」という天からしるしを求めることによって不信仰な姿を暴露し、「自分を救ってみろ」と嘲笑することによって、まさに自分自身を救えない自分の惨めさと盲目を暴露してしまいます。加えて皮肉にも自分たちの言葉と行為によって旧約預言の成就を果たしていることに気づいていません。皮肉なのは、その旧約成就をだれか別の不信仰なやからが行ったのではなく、自分が行っていることです。だからベトロは「イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです」(使徒 2 章 36 節)と説教しました。まさにイエスが言うとおり「自分が何をしているのか知らないのです。」

(3) 「今日わたしと一緒に楽園にいる」

このような十字架刑の苦悩のただ中に「楽園」があります。「楽園」とはアダムとエバが墮落して追放され、終末の時、神が回復を約束してくださいました神の園のことを指すのでしょうか。犯罪人の一人が「イエスよ、あなたの御国においてになるときには」と言うのに対して、イエスが「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われていますから、「楽園」は息絶えた死後や終末再臨の時のことではなく、苦悩の十字架上で「わたしと一緒に」いる「今」からのことであると言いたいのです。「神の園」である「楽園」は、イエスと一緒にいるところであり、終末や死後を持たずとも、主と共にあるのならば、十字架の苦難の中にあっても、既に「今日」もたらされるものだと言いたいのです。

カテキズム	子どもカテキズム 問26
	ウェストミンスター小教理問答 問25
	ハイデルベルク信仰問答 問31

子どもカテキズム

問26 イエスさまの祭司としてのお働きは何ですか。

答 父なる神さまと私たちとの間に立つてくださることです。イエスさまは、かつて、私たちの身代わりとなって、十字架の上で御自分をいけにえとしてささげてくださいました。今は、御父の右に座して、私たちのために執り成しの祈りをささげていてくださいます。ですから、私たちは心をこめてお祈りします。

ウェストミンスター小教理問答

問25 キリストは、どのようにして祭司の職務を果たされるか。

答 キリストは、神の義を満足させ、私たちを神に和解させるために、御自分をいけにえとして一度献げることにより、また、私たちのために絶えず執り成しをされることによって祭司の職務を果たされる。

〈祭司の職務〉

預言者・王とともに、祭司の職務も旧約聖書以来、神が神の民イスラエルのために特別にたてられた職務として聖別されていました。

神の民に神のみ言葉をときあかず預言者が神の側に立つつとめであったのに対して、祭司職は民の側に立って、神が民の罪を赦して下さるように犠牲の動物をみ前に献げ（レビ記16章）、神と民との間を執り成す和解の職務をにないました。

大祭司は年に一度、民の罪の赦しのために、贖罪の儀式をつかさどりました。大祭司はまず民の頭に手を置き、その手を犠牲の獣の上に置きかえて、その獣をほふって神に献げました。このようにして民の罪が獣に転嫁され、贖われ、赦され、神と民との和解が成り立つとされました。

〈まことの大祭司イエス〉

主イエスは私たちのまことの大祭司です。

旧約時代の祭司職は、新約の主イエスの祭司職のひながたに過ぎませんでした。なぜなら主イエスは神の義を満足させ、私たちを神に和解させるためのいけにえとして、ご自身を十字架の上でた

だ一度お献げになることにより、旧約の祭司職を成就されたのみならず、その後の他のあらゆる祭司職をも無用になさったからです。

旧約の大祭司は毎年贖いの儀式を繰り返しました。そのこと自体が旧約時代における贖罪のわざがなお不完全であったことを物語っています。

しかし主イエスの（ただ一度の）十字架の贖いの死は、私たちの罪を贖い、私たちを神と和解させるために完全かつ十分なものでしたから、もはや私たちは自分自身の救いのために、神に対して何者をも犠牲として献げる必要はないのです。私たちの献げものは、今や主イエスにおいて与えられたまったき救いに対する感謝の献げもの以外の何者でもないのです。

さらに、主イエスは今も私たちのためにまことの祭司として働いて下さっています。十字架に死んで三日目に復活され、天に昇られ、今は神の右に座しておられる主イエスは、救われてなお日々罪人としての歩みを歩まざるを得ない私たちのために、絶えず父なる神に執り成し続けておられるのです。

ルカによる福音書 23章 32～43節
子どもカテキズム 問26

「祈り続けておられるイエス」

〔単元のねらい〕

新年最初の日曜学校が始まった。今年も、この尊いご奉仕に召された事を光栄に思い、自己研鑽と共同の研鑽に励み、祈ってまいりましょう。時に、祈りと準備が不足に子どもらの前に立ってしまうこともあるかもしれない。また、準備してのぞんでも子らが少なく（あるいはゼロであることも）、手応えがなく、虚しさや不安に駆られることもあるかもしれない。しかし、どうぞ奉仕を続けてください。あなたが子らへの伝道と教育を放棄したら代わりに担う人はいません。一人でも多くの地域の子らがそれぞれの日曜学校に導かれますこと、契約の子がもれなく信仰告白に導かれることを心からお祈りしています。そのために本誌が少しでも用いられますように。教会をあげて、中会をあげて、日本キリスト改革派教会の総力をあげて、青少年への伝道、信仰の継承のために祈り励んでまいりましょう。

キリスト者の救いと祈りは、二性一人格のイエス・キリストの贖罪の事業、祈り（キリストの祭司職）に支えられてのみ実現する。十字架の主、今先立ち祈ってくださる主イエスの姿を仰がせたい。その実例として、十字架の上の主イエスの祈りを取り上げる。犠牲の小羊としての十字架の御業と天上の執り成し手としての主イエスを仰がせたい。子らに、自分の祈りが「かかった」「かなわなかった」ではなく、祈りの生活へと導き、主イエスに祈られている手応えを体得させたい。

新しい年、2002年が始まりました。イエスさまのご降誕から教えて、2002年目に入りました。イエスさまこそは、世界の歴史、時間を支配しておられる真の王様です。ですから、今年もイエスさまを礼拝するために、日曜学校に休まず励みましょう。

さて、イエスさまは今「骸骨」と呼ばれている処刑場にひっぱられて、二人の犯罪人と一緒になって十字架にはりつけられようとしています。二人の犯罪人は強盗でした。お金を盗むために人に危害を与えたのか、殺してしまったのか、とにかく悪い事をした人です。イエスさまはそのような彼らの真ん中にはりつけられます。三人の中で一番悪い人間だという意味です。勿論、イエスさまに罪はありません。世界中でただお一人、昔から今までただお一人、一つも罪を犯したことの無い人間です。神の御子です。私たちの救い主です。それなのに、人々は、自分が罪人であることを認めたくないという気持ちから、イエスさまを殺そうとします。「自分は正しい、間違っていない、間違っているのはこの男だ、そんな男は、殺してしまうことが神さまにとっても良いことだ」と、

自分勝手に決めつけたのです。殺してしまえば、こっちの勝ちだと考えたのです。

たとえば、自分は全く悪くないのに、他の皆から「悪いのは君だ」、「いけないのは〇〇君、〇〇さん」って言われたらどんな気持ちになると思いますか。とても悲しい気持ちになると思います。それだけではなく、心のなかに、怒り、憎しみが湧くのではないかと思います。ただ口で言われるだけでも、赦せない、涙が溢れ出るほど悔しく思う・・・。

ところが今、イエスさまは十字架の木にクギで手足を打ちつけられているのです。その十字架の木は真っ直ぐ上に立てられます。その下の方からは、イエスさまを嘲る声が聞こえます。「やーい。他人を救った人よ、もし、神からの救い主なら、まず自分を救え、十字架から降りてみろ！」

主イエスさまは、そのような目に遇わされて、なんと思っておられるのでしょうか。イエスさまはなんと、「父よ、彼らをお赦し下さい。自分が何をしているのか知らないのです」と祈られたのです。まず、心に留めたい一つの事は、イエスさ

まは、ここで神さまを「父よ」と呼びかけておられることです。イエスさまは既に、ご自分が十字架につくことによって、僕たち私たち、罪人の罪を身代わりに背負って、父なる神さまからの怒りをお受けになられることをご存じでした。すすんで十字架にのぼられ、ご自分を犠牲にしてくださいました。イエスさまは、神さまを心から「父よ」とお呼びになられ、心から信じぬいておられます。もしも、「何故、私をお助けにならないのですか、もう自分の力で降りてしまいます」と仰ってしまわれたら、僕たち私たちは救われませんでした。罪人のままで、神さまの子になれませんでした。教会に来ることもできなかつたはずでした。

二つめの事は、ご自分を苦しめる人々を罵ったりしなかつたことです。むしろ、父なる神さまの怒りを、ご自分に向けられるように祈って下さったのです。主イエスさまは、最後の最後まで、神さまへの愛と信頼、僕たち私たちへの愛と真実を貫いてくださったのです。あの強盗でさえ、ただイエスさまを信じるだけで、罪を赦され、救われて、神の子としていただけたように、今、誰でも、どんな罪を犯した人でも、イエスさまを信じる人は救っていただけます。イエスさまはご自分のお命を、十字架の上で犠牲として、父なる神さまに

お捧げになられたからです。それが、イエスさまの大祭司としてお働きだったのです。

その後、三日目に復活して、天に戻られた主イエスさまは、今も僕たち私たちのために、お祈りしておられます。執成しの祈りと言います。僕たち私たちのために「父よ、〇〇ちゃんを助けてください。信じる心をお与えください。〇〇君を祝福してください」と祈っていただきます。この中に、イエスさまに祈られていない人は一人もおりません。教会に来ることが出来たのも、お祈り出来るのも、すべてイエスさまが父なる神さまにお祈りして下さるからです。これが今イエスさまの祭司としてのお働きです。

ですから、僕たち私たちは、この一年も、天におられる私たちの父なる神さまに向かって、イエスさまのお名前を通してお祈りしましょう。お祈りするときには、まず先に、天国で、自分のためにイエスさまがお祈りしておられることを思ってください。そうすると心を込めて「天のお父さま」ってお呼びすることができるはずでした。「愛するイエスさまのお名前によって、アーメン」ってお祈りできるようになります。

今週の暗唱聖句

それでまた、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人々を完全に救うことができになります。

へブライ人への手紙7章25節

〈展開例〉

みんなは、いつも幼稚園や保育園で何をして遊んでるの？

・・・イエス様は、目には見えないけれど、今も生きておられて、いつも私たちの為にお祈りしていただきます。〇〇ちゃんが今日も元気で幼稚園に行けますように。そして、いつも神さまと一緒にいてくださることを忘れないように。お祈りしていただきます。

皆がぐーぐー眠っているときも、お友達と遊んでいるときも、喧嘩したときも、いつも神さまと一緒にいてくださいます。笑っているときも、怒っているときも、泣いているときもです。私たちは神さまのこと時々忘れてしまう事あるよね。でも、神さまはほんの一瞬でも私たちのこと忘れることは無いのです。嬉しいね。神さまが、いつも一緒にいてくださること。そのことが一番よくわかる方法は、今日の様に教会にくること、そして毎日お祈りする事です。ご飯を食べる前や、お布団に入って寝る前にイエス様のこと思い出してお祈りしようね。

〈祈り〉

てんのおとうさま。私たちといつも一緒にいてくださって、ありがとうございます。毎日お祈りできますように、助けてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉

124 ページに掲載いたしました。

〈礼拝説教のおさらい〉 ルカ 23:32-43

- 序 ・旧約聖書において、祭司は、神と民の間に立ち、和解の執り成しをしました。
- ・民の罪が赦されるために、繰り返し犠牲の動物をほふって、神に献げていました。
- 本 ・十字架上のイエスさまは、「父よ、彼らをお赦し下さい、自分が何をしているか知らないのです」と、罪人のために神に祈り、ただ一度、完全な献げものとして御自分を献げられました。
- 結 ・復活され、神の右に座しておられるイエスさまは、今もお絶えず私たちのために、父なる神さまに執り成しの祈りを続けて下さっている大祭司です。
- *「その時、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた」(マタイ 27:51)
- これはキリスト・イエスの十字架の贖いが、神と罪人の隔たりであった神殿の垂れ幕を取り除いたことを象徴しています。祭司と犠牲の動物は必要なくなったのです。

----- 伝言板 -----

あけまして、おめでとうございます。

日本人は、元旦に初詣に行く人が多いようです。自分の番になると、大きな鈴を鳴らして手をバンバンとたたいて神社にまつてある神がみを起こして、願い事を聞いてもらいます。おさい銭を投げて、「お金をあげますから、願い事をかなえてください」とお願いします。

まことの神さまは、「まどろむことなく、眠ることもない」(詩 121:4) お方で、私たちを見守って下さっています。「主の耳が鈍くて聞こえないでもない」(イザヤ 59:1)。私たちのどんな小さな祈りの声にも耳を傾け聞いて下さいます。イエスさまが、私たちとともにいて下さり、執り成しの祈りをささげていて下さるからですね。

〈やってみよう〉

イエスさまのお祈りはどつちかな？

①②で答えてください。(①②の番号札を持たせてもよい)

- ア ①山に登り、一晩中お祈りをしました。
②ガリラヤ湖のほとりで、午前中にお祈りをしました。
- イ ①いつも弟子たちと一緒に祈りました。
②一人でお祈りすることが多くありました。
- ウ ①「誘惑に陥らないよう、起きて祈っていない」とおっしゃいました。
②「人々の前で、大きな声で、上手に祈らない」とおっしゃいました。
- エ ①イエスさまは、自分のことばかりをお祈りしました。
②私たちのために、とりなしの祈りをささげて下さいました。
- オ ①「祈り続けなさい」と、言いました。
②「一度祈ったことを、何度もくりかえして祈ってはいけません」と、言いました。
- カ ①「主の祈り」は、イエスさまだけのお祈りですから、弟子たちは祈ってはいけません。
②「主の祈り」は、私たちが祈るために教えて下さったお祈りです。

こたえ

- ア. ルカ 6:12
イ. ルカ 9:18
ウ. ルカ 22:46
エ. ルカ 23:34
オ. ルカ 11:9
カ. ルカ 11:2

〈目標〉

主イエスが今も私たちのために執り成して下さっていることを覚える。

〈指導上の心得〉

主イエス・キリストの名によって祈ることにより、祈りが確実に聞かれる確信を持って指導する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・年始の挨拶と教会での目標を話し合い、一年の歩みが守られるように祈りあう。
- ・なぜ、主イエスの名によって祈るのかを一緒に考える。(主の執り成し)
- ・罪人である人間は神様に語りかけることはできなかった。しかし、主イエスの故に、主イエスの名を通して祈るとき、祈りが聞かれる。
- ・主イエスは、私たちが祈れないようなときにも、私たちのために祈ってくださっている。

〈ワーク〉

1. イエス様は十字架につけられて、人々からばかにされた時どうなされたでしょうか？
a) 言い返して喧嘩した b) その人を呪った
c) その人の罪が赦されるように祈った
2. イエス様は、今も私たちのために祈りをしてくださっていますか？
a) はい b) いいえ
3. 私たちはなぜ主イエス・キリストの名前によって祈るのですか
4. ヘブル人への手紙 7:25 を書いて覚えましょう。
覚えたら、先生の前で言ってみましょう。

答え 1. c 2. a 3. イエス様が祈りを執り成してくださるから。

〈目標〉

十字架上の御姿を通して、大祭司である主を覚える。

〈指導上の心得〉

テキスト選定のねらいは、十字架上で祈り続けられる主の姿に焦点をあてることによって、大祭司である主イエスの業を、あざやかに示すことにある。その業とは、①ご自分をいけにえとしてささげること、②民のために執り成すこと、である。又、大祭司イエスのひな型である祭司職の業を理解しよう。

〈展開例〉(1) 旧約時代における祭司職の仕事を理解しよう。レビ 16 章などを参考に、贖罪日における至聖所、臨在の幕屋、祭壇のための儀式や雄山羊を荒れ野に追いやる儀式を再現してみよう。神殿見取り図、祭司の服装の絵や写真などの資料を探そう。そして、罪のつぐないは、身代わりのいけにえの血によらなければゆるされないこ

と、またこれらの儀式を毎年行わなければならないことをおさえよう。

(2) イエスさまはご自分を罪の贖いのいけにえとしてささげる、たった1回の行為によって、贖罪の業を完全に果たされた。カテキズム問 26 を覚える前に次の用語の意味を覚えよう。「いけにえ」「父なる神」「十字架」「右の座」「祭司」「お祈り」「イエスさま」「身代わり」「執り成し」

(3) 【〇×ゲーム】おなじみのゲームですが、少しやり方が違います。①9つのマスに上記用語をランダムに記入する。②2組または2人対抗で、交互に好きな場所を一つづつ選び、マスに書いてある用語の意味を説明する。できたら、〇または×を記入。早く同じ印を3つそろえた方が勝ち。

〈祈り〉

贖い主なる主よ、あなたが流された血によって、わたしたちは清められ、神の子とされました。心より感謝申し上げます。御名によって、アーメン。

〈目標〉

キリストの祭司職について学び、イエス様のゆえに私たちが御国に導かれているという希望を持つことができることを確認する。

〈展開例〉

去年の11月に、イエス様がキリスト（油注がれた者）として、預言者、祭司、王として働いて下さるということを学びました（11月4日）。今日は、そのうちの「祭司」としての働きについてもう少し考えてみる事にしましょう。

○犠牲をささげる

旧約聖書に書かれている祭司の務めの第一は、神様に対して人間の罪を赦していただくために罪の代価としての犠牲の動物をささげることでした。しかし、前にも学んだことですが（10月21日）、人間の罪は他の動物を犠牲にする事によって償う事はできません。人間の罪のつぐないは人間がしなければならぬのです。人の罪の結果である死は、人によって打ち破られなければならないのです（1コリント15:21）。

ですから、旧約聖書の時代の祭司は、繰り返し繰り返し動物を犠牲としてささげましたが、それは何度繰り返しても完成する事が無い儀式でした。神様は、そのような儀式を繰り返させる事によって、いつの日かこの動物のように人々の罪をおって犠牲となる人が現れるということを予告されたのです。

その犠牲となってくださったのがイエス様でした。イエス様はマリヤのお腹を通して人としてこの地上に来てくださいました。しかし、聖霊の働きでマリヤのお腹にやどられたので、アダムがカインにその罪を受け継いだようなこと（9月23日）はなく、人でありながら罪のない方としてお生まれになったのです。ですから、イエス様は人間の罪を償うための完璧な犠牲として、ご自身を十字架の上でささげられたのです（ヘブライ10:11-14）。人であって罪が無いということは、人の罪を償うために十分な条件ですから、イエス様が祭司、だれも比べる事のできない大祭司としてご自身をささげてくださった後は、もはやどん

な犠牲もささげられる必要が無いのです。

○人々の救いのために祈る

イエス様が完璧な犠牲としてご自身をささげてくださったとはいえ、それで私たち人間が罪をおかさなくなったわけではありません。私たちは、イエス様が私の身代わりになってくださったということを知っていながら、やはり日々の生活の中で、神様に喜ばれないこと、神様に従うよりも自分の自由になりたいという思いにとらわれてしまうものなのです。

そのように、この私は救われるのにふさわしくない者なのですが、そんな私たちのためにイエス様は祈ってくださる方なのです。よみがえられた後、天に昇られたイエス様は、父なる神様の右の座で「私があの者の身代わりになって十字架にかかりました。どうか私の十字架のゆえにあの者の罪を赦してやって下さい」と祈り求めています（ローマ8:34）。

そのようにイエス様がとりなし続けてくださる事によって、つい罪にとらえられてしまいがちな私たちも、神様の御国に入れるという希望を持ち続ける事ができるのです。

○大祭司から与えられる恵み

イエス様がご自身を犠牲としてささげ、私たちのためにとりなしてくださいという、大祭司としての務めをはたしてくださいによって、私たちは自分に何の善い所が無くても、罪を繰り返してしまっても、最後には神様の御国に入れていただけるという希望を持つ事ができます。それこそが、何ものにも代えることのできない大祭司イエス様からいただける恵みなのです。

〈祈り〉

天の父なる神様。今日は、イエス様が祭司としての働きをしてくださること、ご自分を私の罪の代価としてささげてください、また繰り返し罪をおかす私のためにとりなしてくださいによって、私が御国に入れるという事が確かな事であることを学びました。どうか、希望を持って歩んでいく事が出来るように導いてください。主の御名によって、アーメン。

テキスト

ルカによる福音書 19章 28 ~ 40 節

エルサレムに上って行かれるイエスの姿が描かれる箇所です。その姿は準備の段階から明らかに王であることを示しますが、同時にその王の訪問を喜び迎えることのできないエルサレムの姿とそれに涙するイエスの姿も描かれています。

(1) 王であるイエス

イエスの都上りに弟子の群れは賛美し、歓呼をもって迎えます。それに対してファリサイ派のある人々が「お弟子たちを叱ってください」と言うと、イエスは「もしこの人たちが黙れば、石が叫び出す」と言われました。それほどイエスの王として入場は明らかなことであり、歓呼の声を押さえることのできないことなのです。

イエスの王としてのメシア啓示はまずろばの子の準備から始まります。二人の弟子が使いに召され、その弟子たちが出かけて行くと「言われたとおりであった」というほど、イエスの予知は正確です。二人だから間違いありません。さらに「だれも乗ったことのない子ろば」を用いられます。「子ろば」はオリエントの昔からそれをを用いるのが「王」であることの象徴です。「だれも乗ったことのない」のは神聖さを示し、神が立てられた王であることを示します。そして、「主がお入り用なのです。」と言って引いてくることのできるように、直接の所有者以上の所有権を主張できる方です。

イエスが王であることの証しは弟子たちの迎へ方にも反映されます。子ろばに「自分の服をかけ、イエスをお乗せ」したり、「人々は自分の服を道に敷いた」りしています。また、詩編 118 編 26 節を引用して賛美し、その引用の中でも「主の名によって来られる方、王に」と言い換えてうたいます。これらはまさに王即位の姿です。

(2) 拒絶する都エルサレム

王としてメシアの啓示はその喜び迎える声を押さえることができないほど明らかですが、ルカ福音書では同時にその王を都エルサレムが喜び迎えず、かえって王であることが明確になるほど、その王を拒むエルサレムの悲しい姿が明確になり、イエスは「エルサレムに近づき、都が見えたとき、その都のために泣いた」と記しています。41 節以後涙するイエスとその言葉が記されています。イエスの王として上ってこられる姿、それを喜び迎える声が読者に大きく聞こえてくるだけに、都エルサレムを近くに見て涙するイエスの悲しみと言葉も強く印象に残ります。

(3) 拒絶される王のたとえ話

28 節で「イエスはこのように話してから」と記していますから、このエルサレム上りの出来事は先の 12 ~ 27 節でお話になった「拒絶される王のたとえ話」の実録となって現実化しています。

涙しながら話されるイエスによると、王を拒絶してしまうエルサレムの罪は「平和の道をわきまえて」いないこと、「神の訪れてくださる時をわきまえなかった」からだとされます。「わきまえていない」とは譬え話では、自分がそもそもその国民でありながら「王にいただきたくない」という罪深い心の持ち主であること、その罪を赦していただき神との平和を得たいと祈り願う心のなさ、国民のもとにわざわざ「訪れてくださる」へりくだった神の行為への認識不足を指しているのでしょう。

読者は王としてエルサレム上りされるイエスの姿を見ながら、同時に涙するイエスの悲しみを瞑想させられます。

カテキズム	子どもカテキズム 問27
	ウェストミンスター小教理問答 問26
	ハイデルベルク信仰問答 問31

子どもカテキズム

問27 イエスさまの王としてのお働きは何ですか。

答 私たちの王さまとなってくださることで。弱い私たちが悪に滅ぼされないように戦い、私たちが従わせ、治め、お守りくださいます。この王さまこそ真の王さまです。ですから、私たちは心をこめて従います。

ウェストミンスター小教理問答

問26 キリストは、どのようにして王の職務を果たされるか。

答 キリストは、私たちをご自身に従わせ、私たちを治め、守り、また、彼と私たちのすべての敵を抑制し、征服することによって、王の職務を果たされる。

〈王の職務〉

旧約聖書以来、王のつとめは神の代理として、神の民を神のみ心に従って統治することでした。

この世の王はいかに国を強くし、民を富ませるかによって評価されるかも知れません。しかし神の選びの民イスラエルにたてられた王の評価のものさしはきわめて明瞭です。神のみ心になんて民を治めたかいかということ。いかに軍備を増強し、経済的な反映をもたらした王であっても、この点において欠けていたなら、聖書の評価ではよき王とは認められなかったということ覚えておく必要があります。

〈まことの王イエス〉

主イエスは父なる神とひとしいお方として、父なる神のみもとからこの世界に遣わされ、み父のみ心をまっさかたちで反映して私たちを統治なさるといふ意味で、まことの王であられます。

ウェストミンスター小教理問答問 26 は、王としての主イエスのつとめについてふたつのことを記しています。

ひとつは私たちをご自身のみ言葉に従わせることによって治め、守るといふつとめです。王イエスのこのような守護にあずかっているゆえに、私

たちは平安と平和のうちにこの地上を生きることが出来ます。

もうひとつは私たちが脅かすすべての敵とたたかい、これを抑制し征服するというつとめです。主イエスが十字架に死に、復活されたことは、私たちを罪と死に追いやっていく悪魔の力への勝利のしるしです。私たちは今すでに王イエスにある勝利のもとに置かれています。

そしてやがて王イエスは、すべての悪の力を征服し、新しい天と新しい地の祝福をもたらして下さいます。主の祈りの第二祈願（「み国をきたらせたまえ」）は、まことの王がすべての敵を滅ぼして下さいようにとの祈りでもあります。

さらに付け加えるなら、旧約聖書の預言（ゼカリヤ書9章9節以下）のとおり、ろばの子に乗って凱旋なさった（マタイによる福音書21章1節以下）まことの王イエスは、教会とキリスト者たちを統治される王であるのみならず、世界と国家の王でもあられます。創立宣言が有神的人生観・世界観という言葉で言い表しているとおり、私たちは私たちの地上の生のいかなる領域においても、この王の統治のみ手を認めて従うのです。

ルカによる福音書 19章 28 ~ 40節

子どもカテキズム 問27

「真の王としてエルサレムに入場するイエス」

〔単元のねらい〕

真の王なるイエスとの正しい関係（主従関係）を結ぶことが信仰である。この王に治められない者は、自己を王とする。それは、偶像礼拝の罪に他ならないし、かえって恐れ、不安にとりつかれる事を意味する。子どもたちもまた、様々な恐れ、不安に縛られている。個別の問題は何か……。死の恐れこそ、最大の課題。そこから、逃げる為に人間は罪に罪を重ね、人生に敗北する。しかし、主イエス・キリストは十字架に赴かれ、お甦りになられて世に勝たれた。昇天後も、王として、我々の敵と闘っていて下さる。この王なる主イエスと一つに結ばれ、服従する人は、主と共に人生の勝者、小さな王とされている。この主イエスを紹介し、信じ従う事へと招きたい。

イエスさまがエルサレムの都に上って行かれた時の事です。イエスさまは二人のお弟子さんに言いました「向こうの村に行きなさい。そこに入ると、まだ誰も乗ったことのない子ロバのつないであるのが見つかります。それをほどいて、引いてきなさい。もし誰かが、『なぜほどくのか』とたずねたら、『主、イエスさまが必要としておられるのです』と言いなさい。」お弟子さんたちは、不思議に思いました。「イエスさまは、何のために小さな子ロバが必要なのだろうか。子ロバなんか、何の役に立つんだろうか。荷物も載せられないし、人間だって乗れないだろうし……。それに、村に入ってすぐにその子ロバを見つけることができるのかなあ。子ロバの持ち主は、本当に渡してくれるのかなあ。」でも、イエスさまのご命令です。お弟子さんたちは、言われた通り立ち上がって村へ行きました。すると、どうでしょう。仰った通り、子ロバが繋がれていました。弟子たちがその子ロバを解いていると、持ち主たちが駆けつけて言いました。「あんたたち、ここで何をしているんだ。その子ロバはわしらのものだぞ。」弟子は言いました。「主がお入り用なのです！」すると、どうでしょう。持ち主たちも納得して、子ロバを弟子たちに渡しました。

イエスさまはその子ロバに乗って、エルサレムの都に行かれます。普通の王様なら、何かの行事のとき、綺麗な絨毯を敷いた道を兵隊たちに守られ厳かに行進します。でも、イエスさまは、兵隊

も、綺麗な絨毯、大きく立派な馬も持っていません。ですから、皆は、自分の服を絨毯の代わりに敷いたのです。そして賛美歌を歌いました。「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光。」「イエスさまは、神さまが遣わしてくださった僕たち私たちの真の王様だ。奇跡を行い、病人を癒し、死んだ人を生き返らせて下さる力強い王さまだ。イエスさま万歳、素晴らしい王様イエスさま！」ところが、これを見ていたファリサイ派の人々が、イエスさまに言いました。「先生、あなたは王様ではありません。あなたの弟子たちがこんな賛美を歌うのはいけません。止めるように叱ってください。」すると、イエスさまは仰いました。「はっきり言うておくが、この人たちが、私のことを王様と賛美するのを止めるなら、石ころが叫びだします。私こそ、本当の王なのだ。」

普通の王様は、しばしばこう言います。「わたしは偉いんだぞ、強いんだぞ、だから私の命令に従え。私を守るために戦うのだ。王様の言うことを聞かない者は殺してしまうぞ。」どうしてそう言うのでしょうか。それは、「もしかすると、自分より強い王様が攻めて来て、自分を殺すかもしれない。」恐れの気持ちを持っているからなのです。だから、自分を守るために人々を利用するのです。

ところが真の王様イエスさまは、反対です。私たちをご自分のために戦わせるではありません。私たちを助け救うために、私たちをも王様に

するために、ご自分が私たちの敵と戦ってくださったのです。どんなに強く偉い王様であっても絶対に勝てない敵がいます。それは、何でしょう、誰でしょう。それは死です。イエスさまは、その最大の敵の死に打ち勝ってくださった王様なのです。死を滅ぼして復活なされた王様です。

僕たち私たちは、神さまの御前に罪を犯したから、死ななければならなくなりました。それだけではなく、死んだ後に、神さまの審きを受けなければならなくなりました。だから、子どもも大人も、怖くて仕方がなくなって、何かに頼らなくては生きてゆけなくなったのです。けれども、どんな力強いような王様であっても、カッコいいアイドルやお金も、健康も、頭が良いことも、僕たち私たちを死に打ち勝たせてはくれません。イエスさまが子ロバに乗ってエルサレムに入城したのは、何のためでしょうか。それは、このあと直ぐに、十字架につくためでした。それは、私たちのために敵と戦ってくださるためです。この真の王様イエスさまは、十字架で死んで、三日目に甦ってくださいました。この世の力、悪の力、罪の力、死の力に勝利されたのです。それは、イエスさまを信じる僕たち私たちが、決して、神さまの審きとしての死を受けることがないようにするためなのです。それだけではなく、甦られて天に昇られ

たイエスさまは、毎日、真の王様として僕たち私たちをしっかりと悪魔の力、悪い心からお守りくださっているのです。

イエスさまを信じ、従っている僕たち私たちもやがて必ず死んでしまいます。けれども絶対、死に負けません。死んで神さまから審かれることがないからです。必ず、イエスさまと一緒に甦られるときが来るのです。つまり、僕たち私たちも王様になる時が来ます。勝利者イエスさまを信じて従う人は、既に、この世のなかで小さな王様として頂いているのです。イエスさまをお乗せした子ロバは、おそらく足がガクガクして、しっかりと歩けなかったかもしれません。けれども、この世の王様を乗せるどんなに大きくて遅い馬よりも、イエスさまをお乗せしているあの子ロバの方が強いのです。僕たち私たちもイエスさまをお乗せしている子ロバです。子ロバのようなやさしい王様となれるのです。この王様はえばらないし、誰か困っている人を助ける事ができる王様です。僕たち私たちは小さな王様なのですから、もしも、イエスさまに逆らう王様なら、従わないことだってできるはずです。教会は、今、こうして「イエスさまがまことの王様ですよー」と世界中の人に告げる為に礼拝式を捧げているのです。

今週の暗唱聖句

あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。

ヨハネによる福音書 16 章 33 節後半

〈展開例〉

今日のお話はどんなお話だったかな？

・・・子ロバにのったイエス様は、たくさんの人に「王様バンザイ！」「王様バンザイ！」と叫ばれました。イエス様は本当の王様です。本当の王様イエス様は、私たちが神さまの言うことを良く聞いて、守ることができるようにしてくださるのです。そして、私たちが襲うすべての敵-私たちを神さまから離そうとするカ-と、闘って下さり、その敵を抑えつけて必ず勝って下さるのです。そんな王様に守られている私たちは、実はイエス様の国の小さな王様にさせていただいているのですって！ そして、イエス様王様は、皆が今日ここにいることを本当に喜んでいて下さいます。だから、また次の日曜日教会にこようね。そして、また今週も毎日お祈りしましょう。

〈祈り〉

てんのおとうさま。私たちの本当の王様となつて、いつも守っていてくださり、ありがとうございます。イエス様にしっかりついて行く子にしてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉

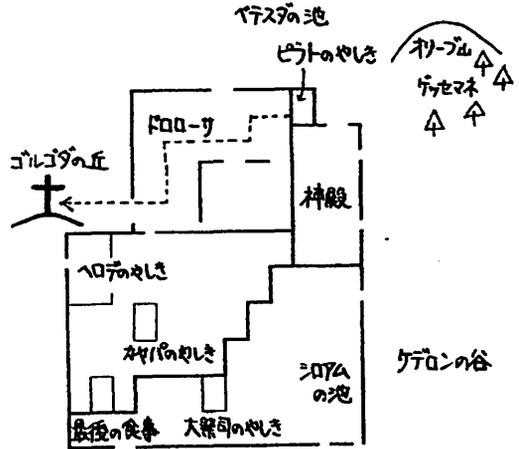
125 ページに掲載いたしました。

〈礼拝説教のおさらい〉 ルカ 19:28-40

- 序 ・イエスさまは、ガリラヤからエリコをとおって（ザアカイとの出会い）、いよいよエルサレムに近づいて来られました。
- 本 ・イエスさまが、子ろばに乗って進んで行かれると、弟子の群れは、「主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。天には平和、いと高きところには栄光」と、声高らかに神を賛美始めました。
- 結 ・イエスさまは、私たちの本当の王となって下さいました。私たちの敵(罪の力・死の力)と戦い、信じ従がう私たちを永遠に治め、お守り下さるすばらしい王さまです。
- * 王なるイエスさまは、小さなろばをお選びになりました。「主がお入り用なのです」とおっしゃいました。

〈やってみよう〉

- エルサレムの地図を作ろう -



- ・四ツ切りくらいの大きさの画用紙にエルサレムの城壁を大まかに描いて、みんなで書き込んでゆきましょう。

- ・イエスさまはどの門を通して、エルサレムに入城されたのかな。はっきりしたことは分かってないけれど、みんなで楽しく予想してみよう。



「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。」

- (最後の晩餐の部屋 - ゲッセマネ - カヤパの屋敷 - 大祭司の屋敷 - ビラトの屋敷 - ドローサ - ゴルゴダ)

- ・3/10, 3/17, 3/24の聖書箇所につながりますのでこの地図は取っておいて下さい。

- * ロバの子に乗ってエルサレムに入城されたイエスさまは、十字架を背負わされ、エルサレム城壁の外のゴルゴダの丘で死んで下さり、葬られ、三日目に復活して下さいました。王としてのお働きを完全に果して下さったのです。

伝言板

小さなロバの子は、びっくりしました。つい最近まで、お母さんロバに甘えてばかりいて、人間を背中に乗せたことは、一度もなかったのですから……。ある日、のんびりと草を食べていると二人のお弟子さんがやって来て、突然、引いて来られたのです。ロバの子は、ドキドキしていました。でもイエスさまのやさしい目は「重くないから大丈夫だよ」と、言っているようにも思えました。お弟子さんの着ていた上着を背中にかけると、イエスさまがゆつくりと、お乗りになりました。「イエスさまは、重かった？」って!? それはロバの子と、イエスさまだけが知っている秘密です。でもこれだけは教えてくれたよ。「あのネ……。うれしかった!! どうしてかわからないけど、力が湧いてくるのを感じたんだ。一步一步踏み出すたびに、イエスさまがボクのことをしっかり包みこんでいてくださる気がしたから……。」

〈目標〉

王なる主イエスを信じ従うことへと招く。

〈指導上の心得〉

主イエスこそ真の王であることを覚え、この方の御言葉に従うことの喜びをもって指導する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・普通「王様」というとどのような印象を持つか話し合ってみる。
- ・主イエスはどのようにエルサレムに入城なされたか。(柔和な王であることを確認)
- ・この王はどこの国の王様なのか考えてみる。
- ・私たちが、この王様の支配を受けるとき、私たちは窮屈になるのではなく、むしろ、神様に従うことができるという自由と喜びが得られることを教え、この王様が、私たちのことを守って下さっていることを覚える。

〈ワーク〉

1. イエス様は王様として、どのようにしてエルサレムに入られましたか。
 - a) 赤いじゅうたんの上を立派な馬に乗って来られた
 - b) 子ロバに乗り人々の賛美の中を来られた
 - c) 神様を賛美し、踊りながら来られた
2. イエス様は、誰の王様ですか？
3. イエス様は、イエス様を信じる私たちが今も守って下さいますか。
 - a) はい b) いいえ
 イエス様は王様として、みんなを守って下さっています。そのイエス様を信じましょう。
4. ヨハネ福音書 16:33 を書いて覚えましょう。

答え 1. b 2. 私の王様であり、信じる人みんなの王様 3. a

〈目標〉

王イエスを正しく理解する。

〈指導上の心得〉

エルサレム入城時、主イエスをご自分を、明らかに王として世に示された。しかし民衆は、イエスがどのような王であるか理解していなかった。わたしたちは、主イエスがどのような王であるか、正しく理解しよう。そして、主は、ご自分を殺そうとねらっている多くの敵がいるエルサレムへ堂々と乗り込んでいかれた、柔和な王イエスの毅然としたお姿に思いをはせたい。

〈展開例〉

(1) 平和の君のしるし

主イエスのエルサレム入城の絵(絵本等を用いるか、描いてみる)を見せて、感想を聞く。人々が自分の服を道に敷いたのは王を迎える方法。ろ

ばの子に乗る王こそ、平和の君のしるしである。

(2) 預言の成就

当時からおよそ 500 年も前のゼカリヤという預言者の預言がそのとおりになった(ゼカ 9:9)。

(3) 王イエスさまの任務について

ふさわしい言葉を入れてみよう。

- ・敵は (A)
 - ・武器は (B) と (C)、
 - ・方法は (D) につけられ死刑となること
- (答) A: サタン、B: 御言葉、C: 祈り、
D: 十字架

(4) 実際、サタンはどのような攻撃をしかけてきたか。

(答) 弟子の裏切り、逮捕、暴行、侮辱、ムチ打ち、悲しみ、おそれ…、このような攻撃により、サタンは主イエスが十字架から逃げるようしむけた。

〈目標〉

キリストの王職について学び、私たちがイエス様に従う事によって守られているということを確認する。

〈展開例〉

キリストの三職のうち、今日は最後の王としての働きについて一緒に考えましょう。

○王様とは

今日の礼拝のお話にありましたが、イエス様がエルサレムに上られるとき、弟子たちはイエス様のことを「王」と呼んで讃美しました。

皆さんは、王様というのはどういう仕事をするのかわかりますか？ 今の日本には王様はいませんし、外国の王様たち（どんな国に王様がいるか知っていますか）も聖書の時代のような働きをしているわけではありません。今の時代の王様は、直接国を治めたりすることが無く、どちらかといえばシンボルのような存在です。しかし、聖書の時代の王様はそうではありません。サウル王やダビデ王のような王様は直接に国の政治を行いましたし、よその国から攻めてこられた時には国民を守るためにみずから軍隊の指揮をとって戦いました。

この王様が、神様の言葉を人々に伝える預言者や、神様に対して人の罪の赦しを求める祭司と同列に扱われているということは、王の働きも神様と無縁ではないということです。実際、聖書の時代の王様は、神様の御心に従って人々を治め、守る働きをもっていたのです。

聖書が教えているイエス様が王として働かれるということは、みずから治め、国民を守るような王として働かれるということなのです。

○みずから治め、支配される

私たち人間が創造された時、人間は神様に従う者として造られました。それが人間の本来の姿であり、その本来の姿である時に、私たちは最も幸せであるはずですが、しかし、人間は神様に従うより自分が神様みたいになって好きなようにしたいという「罪」におちいってしまっ、好きなようにできるどころか、大きな不幸の中におちこ

んだのです。

そんな私たちを、イエス様は神様の御心によって治め、支配してくださいます。その王としての働きをしてくださることによって、私たちは神様に従うという本来の姿を取り戻すことができ、神様の前で幸せを得ることができるのです。

○私たちを守り、敵と戦う

イエス様は、また、私たちを治めてくださる方として、私たちをおびやかそうとする敵から私たちを守り、その敵と戦ってくださいます。

私たちをおびやかすものは悪魔です。悪魔は私たちの罪に傾きやすい心をせめたて、神様から引き離し、神様のもとにある永遠の命から「死」へとみちびこうとします。

私たちは自分自身の力では、この敵と戦って勝つ事はとてもできません。しかし、イエス様が私たちに代わって戦って下さる時、だれもイエス様に勝つことのできるものは無く、だれもイエス様のもとから私たちを引き離す事はできないのです（ヨハネ 10:28）。

イエス様は十字架の上で御自身をささげられた後、三日後によみがえって死に打ち勝って下さいました。そのイエス様の下にいて守られている私たちは、もやは「死」からも守られ自由であることができるのです。私のこの体はいつかは減びてなくなってしまうますが、その肉体の死は終わりではなく、永遠の命への入口なのです。

イエス様が王として私を治め守ってくださることを知ることによって、私は造られた時の本来の姿をとりもどして幸せを得ることができ、神様のもとから引き離されることなく、死に打ち勝って永遠の命へと導かれるという希望を持つことができるのです。

〈祈り〉

天の父なる神様。イエス様が王として私たちを治め、敵から守ってくださる事によって、私たちは本来の幸せを取り返し、死にも打ち勝って永遠の命へと導かれることを学びました。どうか、私たちに、イエス様を私たちの王として受け入れる信仰を与えてください。御名によって、アーメン。

乳飲み子を祝福し、子供たちをわたしのところに来させなさいと招くイエスの姿が描かれる箇所です。

(1) イエスによる祝福

乳飲み子までも連れてくる人々に弟子たちが叱ったのは子供軽視からではなく、エルサレム上りの途中という時の緊迫性からでした(31、39節)。弟子の無理解というよりも師のことを氣遣う弟子としての自然の行為と見るべきでしょう。しかし、イエスは「これを見て憤り」(マルコ 10章 14節)「妨げてはならない」と戒められました。

人々が「乳飲み子までも連れてきた」のは「イエスに触れていただくため」であり、祝福してもらうためでした。そして事実イエスは「子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された」(マルコ 10章 16節)のです。これは「神の国はこのような者たちのものである」という教えのためパフォーマンスではありません。人々は「乳飲み子」であっても触れていただきたいと願いました。それは理解力のない子供であっても神の祝福はあると信じていましたし、事実イエスは妨げてはならないと戒め、また手を置いて祝福もされてこの信仰に答えられました。それも当時のユダヤの一般慣習に沿ってではなく、もっと積極的に「神の国はこのような者たちのもの」とさえ宣言して祝福されたのです。

神からの授かった子供たちに神の祝福を求めるのは親の義務であり、たとえ理解力がなくても主の祝福は有効なのです。

(2) 子供のように受け入れる

子供達を祝福されたイエスはこれを通して、「子

供のように」と教えられました。この「子供のように」とは、子供の持つ純粹素朴さというよりは、「神の国を受け入れる」という点での素直さを指しているのでしょうか。この特徴は 18 節以降に描かれる「金持ちの議員」の態度と対照的に描かれて強調されています。金持ちの議員は永遠の命を得るために「何をすれば」と問うて何かをして得ようとするし、掟を話せば「子供の時から守ってきました」と言います。乳飲み子とそれを連れてきている人々にはそうした問いかけや行為はなく、ただ「イエスに触れていただく」だけを求めて来ています。

(3) 神の国に入る

17 節でイエスが「子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない」と言っていますが、これは「金持ちの議員」の話を挟んで、24 節「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか」と続けて出てきて、ここでの話題が「神の国に入る」ということだとわかります。

また、先に 14 節では「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」という人の子来臨に際しての意外な顛末が語られるところから、「神の国に入る」ということにおいても意外な対比として教えられています。ですから「金持ちの議員」を前にして人々が「それでは、だれが救われるのだろうか」と反問し、「乳飲み子」を前にして「妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである」と言ったイエスの言葉は、人間的な見方をひっくり返すような宣言なのです。ここに「神にはできる」神の恵みが語られています。

カテキズム 子どもカテキズム 問28
 ウェストミンスター大教理問答 問58
 ハイデルベルク信仰問答 問60, 61

子どもカテキズム

問28 主イエス・キリストの救いは、どのようにして私たちのものとなるのですか。
 答 私たちが持っている正しさやかしこさ、そのほか、どんな良いものでも、自分の力で救いを手に入れることはできません。救いはただ神さまの恵みとして与えられるのです。

ウェストミンスター大教理問答

問58 私たちはどのようにして、キリストが獲得された利益にあずかるものとされるか。
 答 私たちはキリストが獲得された利益を、私たちに適用されることによって、其にあずかる者とされる。それは特に聖霊なる神のみわざである。

〈ただ恵みのみ〉

救いはただ神の恵みによります。神が私たち人間を義と認め、救って下さるのは、私たちの生まれながらのよさがかえりみられるからでもなく、私たちの信仰が義認のための条件を満たす価値や功績として認められるからでもありません。また私たちのなすわざのゆえでもありません。

私たちは生まれながらの罪人です。それゆえに私たちのわざは神のみ前に私たちの義となり得ません。神は私たち罪人のわずかばかりの善意や努力には満足されません。神は完全な義を求めておられるからです。

私たちは自力によって、神のみ前に自分を救う義を立てることはできません。ひとり残らず、自分の罪の報酬を支払って死ぬほかはない者です。罪ゆえに、みずからの救いにおいて無能力なる存在です。

しかし、恵みの神は私たちを救うために、み子を選ばされました。み子イエスはみ父のみ言葉にまっただき服従を貫き通されました。すなわち神の前にご自身を義となさいました。さらにご自身には罪がなかったにもかかわらず、罪人が支払うべき報酬である死を十字架に死なれ、み父の義を満足なさいました。

神の恵みは、このみ子イエスのまっただき義を、

私たち罪人に転嫁して下さることによって示されました。神はみ子がみ前に立てられた義を、あたかも私たち自身のもののように見なして下さり、わざによらず、ただみ子イエス・キリストが私たちを義とするために死んで下さったことを信じる信仰のみによって、私たちにキリストの義を着せて下さるのです。これが、神が私たちのためにもうけて下さった救いの手だてです。

〈聖霊の恵み〉

そのように、私たちはイエス・キリストを信じる信仰によって義とされ、救われるのですが、その信仰さえも神の恵みの賜物であることを知っておく必要があります。よく「ただ信ぜよ、信じるならば救われる」と言われます。言葉自体は間違っていないかも知れませんが、もしもその時に、信仰が救われるための人間側の条件のように考えられているのだとすれば、それは正しくはありません。

私たちが主イエスを信じることができるのは、聖霊の恵みです。私たちは罪ゆえに、自力では主イエスの贖いの恵みを自分のものとすることはできません。聖霊の恵みのみ力によって悔い改めと信仰に導かれ、贖いの恵みに実際にあずかることができるのです。

ルカによる福音書 18章 15～17節
 子どもカテキズム 問28

「乳飲み子を祝福する主イエス」

〔単元のねらい〕

乳飲み子と主イエスとの出会いの物語。彼らを心から愛し、祝福なさる主イエス。それを拒もうとする弟子たち。鋭く、神の意思と人間の常識が衝突し、鮮やかに、福音の真理が明らかにされる。乳飲み子はすべてにおいて全くの無能力者。しかし、他ならないこの無能力者に、神の国が約束される。救いが成就する。恵みのみによる救いの教理を、この物語を通して伝えたい。弟子たる我々教師が、主イエスのお心とお働きに即して奉仕するためにも、この物語の黙想を繰り返すことは、意義が深い。既に恵みを受けた霊的な「乳飲み子、神の子」であるとの自覚を持って、喜びをもって、目の前の「子ら」に語りたい。今、日曜学校は、この乳飲み子を連れてくる業に参加しているか否かが、問われている。

イエスさまは、毎日毎日、説教し、病の人を癒しておられます。ですから、イエスさまは疲れておられるはずですよ。お弟子さんはそんなイエスさまの事を心配していたかもしれません。ある日の事です。イエスさまに触れて頂くために、赤ちゃんを抱っこして連れて来た人々がいました。するとそれを見つけた弟子たちは、さっと立ち上がりました。そして、物凄く怖い顔をして、そのお父さんお母さんたちの前で通せんぼをしました。そして怒ってこう言いました。「駄目だ駄目だ。帰りなさい。イエスさまはお忙しいんだ。お疲れになっておられるんだ。そんな赤ん坊を連れて来て、うるさいっつらない。しかも、赤ちゃんにイエスさまのお話など分かりっこないではないか。さあさあ、早く、帰りなさい！」お弟子さんたちは、イエスさまのために良いことをしているつもりです。

ところがどうでしょう。こんな彼らを見ておられたイエスさまが立ち上がられました。イエスさまはもっと怖いお顔で、いえ何よりも悲しいお顔をなさって仰いました。「あなたたちは何をしていますのですか。子どもたちを私のところに来させなさい。来るのを妨げてはならない。」お弟子さんたちはびっくりしました。しかし、お父さんお母さんたちは、すぐに大喜びで自分たちの赤ちゃんをイエスさまに見せに近づいて行きました。イエスさまは、笑顔で赤ちゃんを抱っこしました。そして、仰いました。「神の国はこのよ

うな者たちのものである。」それだけではありません。本当に赤ちゃんの頭に手を按いて、「祝福があるように」と仰ったのです。

イエスさまに手を按いて、「祝福があるように」と言われたら、それは、大変なことです。確実に、その赤ちゃんは、神さまの国に入ることができる子、神さまの子として頂けるからです。ですから、親たちはそれはもう大喜びです。そして何度もお辞儀しながら、「イエスさまありがとうございます」と言います。次に、待っている両親は、「イエスさま今度はうちの子どもを祝福して下さい」とお願いします。あっと言う間に、行列ができてしまいました。イエスさまは、赤ちゃんを一人ひとり抱っこして、手を按いて、「祝福があるように」と仰います。

お弟子さんたちはどんな顔でそれを見ていたでしょうか。心の中に不満があったかもしれません。「自分たちはイエスさまのために一生懸命働いているのに、叱られてしまった。それなのに、ずるいよ。この赤ん坊は、何にも良いことをしていないじゃないか。神さまの国に入れるというお約束をいただいているなんてさ。」

さて、イエスさまは、ここでなんて仰ったのでしょうか。「神の国はこのような者たちのものである。」神の国に入る、天国で永遠に神さまの祝福を受ける人は、赤ちゃんのような人でないと駄目です、ということです。それなら、皆は、神さまの国に入れますか。どうですか。「絶対私は大

丈夫です」って言えるお友達はいですか。幼稚園のお友達だって、もう神さまの国に入れないうちかもしれません。だって、歩けるでしょう。お話も聞けるでしょう。小学生のお友達などはもっと困ってしまう……。先生たちなどはもっと困ってしまいます。祝福を受けるどころか、イエスさまから叱られるかもしれないのです。

この物語は僕たち私たちに何を教えてくれるのでしょうか。イエスさまはここで、僕たち私たちに何を知って欲しいのでしょうか。今日のカテキズムを思い出してください。罪を赦され、神の子として頂けることを救いと言います。救いは、ただ神さまの恵みとしてあたえられるということです。ある中学校や高校に入るためには、試験を受けます。入りたい人は誰でも入れますよ、というのは、小学校や中学校まででしょう。一生懸命勉強しなければ入れません。スポーツの選手になりたい人、レギュラーになりたい人は、一生懸命練習しなければだめです。それなら、救われるためには、天国に入るためには、どうすればよいのでしょうか。一生懸命善いこと、正しいことをすれば良いのでしょうか。がんばったら、入れてもらえるのでしょうか。違います。それは、ただイエスさまの恵みによるのです。どんなに何もできなくても、どんなに悪いことをしたことがあっても、どんなに心が汚れていても、「私の所に来なさい」とイエスさまが招いて下さるお声に飛び込んで

いったら、あの赤ちゃんと同じように僕たち私たちを抱っこして、手を抜いて、「祝福があるように」と言って頂けるのです。救って頂けるのです。

イエスさまを信じて救われたら、誰でも神さまの子どもです。イエスさまを信じている僕たち私たちは、「絶対私は神さまの国に入れます」って言えるのです。なぜなら、イエスさまが抱っこしてくださっている、神さまの子どもだからです。先生だって全く同じです。神さまの子どもです。自分の力で、聖書を勉強して、救われたものではありません。

今日、皆で神さまの子として頂いたことを心から感謝しましょう。喜びましょう。それが礼拝です。でも、自分だけ神さまの国に入れることを喜んでいられますか。お友達をイエスさまの所に連れてきましょう。あなたのお友達のために、大切な誰かのためにあのお父さんやお母さんのように、イエスさまの所に連れて行くのです。イエスさまに「僕たち私たちと同じように、僕のお友達、弟を抱っこして上げてください。神さまの子にしてあげてください」とお願いしましょう。あなたが、そのようにお願いするとき、イエスさまは、「だめだめ疲れている。忙しいのだ」と仰つきますか。絶対そんなことは考えられません。皆のことをどれほど喜んでくださるでしょう。そしてお友達を祝福してください。

今週の暗唱聖句

あなたがたの救われたのは恵みによるのです。

エフェソの信徒への手紙2章5節後半

〈展開例〉

〇〇ちゃんおはよう。今日も教会に来てくれてとっても嬉しいよ。

皆は誰に抱っこしてもらうのが一番好き？（実際に抱っこしてあげる）お父さん？お母さん？

・・・抱っこしてもらえると、とっても嬉しいよね。ただ、皆はもう赤ちゃんじゃないから、そんなにいつもいつも抱っこはしてもらえないよね。でもね、ただ一人イエス様は、赤ちゃんのようなすなおな心で、イエス様のところ来る子をいつも喜んで抱っこしてくださるのですって。そして、こうやって手をおいて「〇〇ちゃんが、神様を信じて天国に行けますように」とお祈りして下さるのです。嬉しいね。

〈祈り〉

てんのおとうさま。

いつも抱きしめてくださるやさしいイエス様を、ありがとうございます。お友達にも、イエス様のことをお知らせ出来ますように導いて下さい。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉

126 ページに掲載いたしました。

〈目標〉

神様の一方的な恵みによって救いが与えられることを覚える。

〈指導上の心得〉

自分の努力や、正しさによって救われたのではないことをしっかりと押さえておく。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・乳飲み子とはどのような存在であるのか？
何でも自分でできるか、それとも全部親にやってもらわなければならないか。
- ・イエス様は、どのような者でなければ神の国にはいることはできないとおっしゃったか。
- ・小さな子供が親にすべてを任せるように、神様にすべてをお委ねし、子どもたちがイエス様を素直に受け入れるように導いていく。

〈ワーク〉

1. イエス様は、祝福して欲しいと連れてこられた子どもたちを追い払われたのでしょうか？
a) いいえ、そんなことはなさいません
b) はい、イエス様はお忙しいのです
2. みんなは、自分の力でイエス様を信じて、救いを手に入れることは出来るかな？
そう答えた理由も書いてみよう。
3. イエス様はどんな人でなければ天国に入れないとおっしゃったのでしょうか？ 聖書で調べてカッコの中をうめてみよう。
()のように()を()人でなければ、決してそこに入ることはできない。

- 答え 1. a 2. いいえ、救いは神様から与えられるものだから。
3. 子ども、神の国、受け入れる

〈目標〉

救いを受ける。

〈指導上の心得〉

今日のテキストを通して、主は、乳飲み子のように純朴素直に、神の恵みをただ受け入れなさい、と私たちに呼びかけておられます。大人は方法をたずね求めます。しかし乳飲み子はただ与えられることを求めます。

〈展開例〉

(1) 【ゲーム：赤ちゃんは…ない】

…にあてはまる言葉を、全員順番に言ってみよう（例：しゃべれない、歩けない、持てない、目がよく見えない、自分で食べられない、トイレに行けない、お着替えができない、歯がない…）

(2) 赤ちゃんの生きる方法

赤ちゃんが「オムツ替えて」「ミルクちょうだ

い」「たて抱っこして」という時、どうしますか。

（答：泣く。子育て経験のある教師は、我が子のかつての泣きかたを思い出し、説明してあげよう）
(3) 私たちは自分の救いに関しては赤子のように無能力です。赤ちゃんの唯一の方法「泣く」は「祈り」と似ていませんか。赤ちゃんは「どうやってオムツ替えるの？」「ミルクの作り方教えて？」って聞きません。ただ「頂戴！」です。神様の救いをいただく時も同じです。もう私たちは「どうしたら救いをいただけますか」とは言いません。「神様救ってください！」って祈ればいいのです。

〈祈り〉

天の父よ、あなたが用意してくださっている、救いを、喜んで、信頼して、感謝して、お受けいたします。主イエスの御名によって、アーメン。

〈目標〉

私たちの救いは、私たちの側のどんな能力や善行によってもたらされるものではなく、ただ一方的な神様からの恵みによって与えられるものであることを確認する。

〈展開例〉

今日の礼拝のお話で、イエス様は「神の国は子どもたちのような者のものである」と教えられました。「子どもたちのような者」「子どものように神の国を受け入れる」ということについて、一緒に考えてみましょう。

○子どものような者

今日の聖書に出てきた「子ども」というのは、「乳飲み子」と書いてありますからほんの小さな赤ちゃん、それよりちょっと大きな三歳くらいの子供たちでしょうか。そろそろ大人になりはじめている中学生の皆さんには、そんな小さな子どもたちというのはどんな風に見えるでしょうか。

子どもというのは「純粋」である、とよく言われます。「子どもは罪がない」という言い方をされることもあります。確かに、先生たちのような長く生きてきた大人に比べると、悪い事を知らずにすんでいるということはあるかもしれません。イエス様はそんな意味で「神の国は子どもたちのもの」だとおっしゃったのでしょうか？

アダムが罪がカインに受け継がれたように（9月23日）、私たちは、ほんの小さな赤ちゃんであっても、罪を受け継いで生まれてきています。神の国に入るために神様が求められているのは、それにふさわしい完璧な正さですから、生まれたばかりの赤ちゃんであっても親の罪を受け継いでいる限り神の国にはふさわしくないのです。

それでは、子どものどんなところが、神の国にふさわしいのでしょうか。それは、自分では何もできない、ということなのです。

○自分では何もできない

小さな赤ちゃんは、自分では何もできません。生きるために必要な食事も、お母さんにおっぱいを飲ませてもらわなければ摂る事はできません。

実は、イエス様は、神の国は自分では何もできない者のものだとおっしゃっているのです。私たちは生まれながらに罪をもっている者であり、なにか善いことをしたからといってそれが帳消しになるわけではないのです。ということは、私たちは自分の側から神の国に入ることができるようなものは何も持っていないということです。そのことをよく知っている者が、神の国に入れるのです。逆に言えば、自分で善い事が出来ると考えている人は、神の国に入ることはできないということです（ルカ 19:18-23）。

○ただ恵みによって

では、何もできない赤ちゃんのような人たちがどうして神の国に入ることができるのでしょうか。それは、神様がその人を選んでくださったからです。その人が神の国に自分から入りたいと考えて努力したからではなく、神様が選んでくださったからこそ、神の国へ入りたいという思いが私たちの心に芽生えるのです。

神様が選んでくださるのは、ただただ一方的な神様の恵みによるのです。私たちに何か善い所があるからではありません。

皆さんは、「ミッション・バラバ」というグループを知っていますか？ 昔ヤクザだった人たちがクリスチャンになってつくった伝道のグループです。ヤクザから牧師になった人もいます。社会の鼻つまみものだったヤクザが神様を信じる。どう考えても、彼らが善いことをしたからではありません。神様は、ヤクザであろうが何であろうが、ご自分の選んだ人を神の国へと導かれるのです。

私たちも、この神様の一方的な恵みをいただいています。それだからこそ、私たちはこうして日曜学校に来ているのです。

〈祈り〉

天の父なる神様。今日は、神の国に導かれるのは、私たちに何か善いことができるからではなく、ただ、あなたからのお恵みによるものだという事を学びました。私も、そのお恵みをいただいて、こうして教会に来ていることを感謝します。これからも、神様が導いてくださいますように。

テキスト

ルカによる福音書 18章 18 ~ 30節

神の国に入ることを巡るもう一つのお話です。今度は金持ちの議員が「永遠の命を受け継ぐ」ために「何をすれば」と問うてきます。イエスはこれに対してすべてを捨てて、わたしに従いなさい」と求めます。

(1) 金持ちの議員

「ある議員」は「大変なお金持ち」であり、律法も「子供の時から守ってきました」と言える教育を受けた人物です。ですからここで言う「財産」とはお金だけのことでなく、教養や才能、財力などの「持っている物すべて」のことを指しています。しかしこれほどの物を持っていても「永遠の命を受け継ぐ」には「欠けている」のです。

彼の問いかけは「何をすれば」という永遠の命を受け継ぐための善行を問うものです。

(2) イエスに従う

イエスに言わせれば、それは「善い先生」に師事せずとも「神おひとり」に問うべきで、その神は「掟」において啓示済みです。「守ってきました」という彼の返事に対して「持っている物すべてを売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい」と言って、隣人愛の実践の欠けを指摘されました。

もともと「子供の時から守ってきた」にもかかわらず「何をすれば」と問わずにはいられなかつ

たこの議員のように、永遠の命を受け継ぐための指示は律法に啓示されているのですが、それによつては得ることができないのです。イエスはこれを教えると共に、「わたしに従ってきなさい」と教えられました。「永遠の命を受け継ぐ」ために彼に「欠けている」ものとは律法にしめされる隣人愛の実践の欠けということだけではなく、「わたしに従う」ということ、すなわちイエスに従うということをも含んでいます。イエスだけが神の律法の真の実践者なのです。

(3) 神にはできる

「その人はこれ聞いて非常に悲しんだ。」とあります。イエスもこれを見て「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」と言われましたし、「人間にはできないこと」とも言われて、要は不可能であることを言っておられます。ですから「これを聞いた人々が、それでは、だれが救われるのだろうか」と言っている通りです。つまり神の国入国は神だけが実現させてくださる神のみ業なのです。イエスは「神にはできる」と言つてその真理を教えたいのです。神の国に入ることでできない「金持ち」をも神の国に入らせることが「神にはできる」のです。

カテキズム

子どもカテキズム 問29

ウェストミンスター小教理問答 問29～32

子どもカテキズム

問29 神さまの恵みとは何ですか。

答 神さまが、一方的に、愛をもって、私たちを救いのうちに選んでくださったことです。私たちは、聖霊のお働きによって、自分を罪人と認め、悔い改め、イエスさまを信じることができました。ですから、私たちは、心をこめて神さまを讃美します。

ウェストミンスター小教理問答

問31 有効召命とは何であるか。

答 有効召命とは、神の御霊のわざであって、それによって御霊は、私たちに自分の罪と悲慘を自覚させ、キリストを知ることにおいて私たちの心を照らし意志を新たにし、福音において私たちに憐れに提供されているイエス・キリストを受け入れるように説得し、また、受け入れることができるようにされる。

〈有効召命〉

私たちの救いは、聖霊がイエス・キリストの十字架の贖いの恵みを私たちに適用して下さることによって実現します。聖霊のこのみわざのことを有効召命と呼びます。

すなわち有効召命とは、神の救いへの召しを真に有効な（永遠の命の祝福につながる）ものとして下さる聖霊のみわざです（それで、有効召命は奏功的召命とも効果的召命とも呼ばれます）。み言葉（の説教）を聞く者のすべてが信じるというわけではなく、聖霊が恵みによってみ言葉を有効に適用して下さることによって、人ははじめて信仰を与えられるのです。そして有効召命にあずかることを許されるのは、神の永遠の選びのうちに予定され、恵みの契約に入れられている者のみです。

〈有効召命における聖霊の働き〉

有効召命における聖霊のお働きは、第一に私たちに罪と悲慘の自覚を与えることです。この自覚なしには、私たちは救い主を求めることはありませんから、これも聖霊の恵みのお働きです。

第二に、聖霊は生まれながらに真理を知ることにおいて暗い私たちの心を照らし、み言葉を用いて真の救い主が見えるように、霊の目を開いて下

さいます。

第三に、聖霊は私たちの意志を新たにして下さいます。信仰は一面では人間の意志と決断にもとづく行為です。しかし私たちが主イエスを信じることができるのは、聖霊が私たちの意志にも働きかけて、これを新たにして下さいるからこそです。聖霊のこの恵みのお働きなしには、誰ひとり主イエスを信じることはできないのです。

第四に、福音において私たちに憐れに提供されているイエス・キリストを、私たちが受け入れることができるように、み言葉を用いて説得して下さい、また受け入れることができるようにして下さいることです。私たちは聖書に啓示されているおりのイエス・キリストを信じ、受け入れることによって永遠の命に至ります。私たちの側で思い描き、願望するイエス・キリストによってではありません。

パウロはコリントの信徒に宛てた手紙の中で、十字架の言葉は生まれながらの人間には愚かであり躓きであると語っていますが、聖霊は私たちの罪ゆえの躓きや高ぶりをとりのけて、神の愚かさの中に秘められている福音の真理をさとらせ、信仰をもって主イエスを受け入れることができるようにして下さいるのです。

ルカによる福音書 18章 18～30節
子どもカテキズム 問29

「立派な議員と主イエス」

〔単元のねらい〕

共観福音書は、乳飲み子の物語の直後に、金持ちの議員、立派な青年の物語を記す。鮮やかなコントラストである。彼には、子供のときから律法を守ってきたとの自負がある。それをさらに強固なものとするために、「何をすれば」と主イエスに問う。主は、その誤てる問いを真理へと転換するためにこそ、「全財産を施すこと」を要求される。しかしここで、子どもらに、自分にはできない・・・というような誤解、つまりあらためて救いの条件が設定された、という誤解を招く危険性がないわけではない。「誰が救われることができるのか」の問いに、「神にはできる」こと。すなわち、神の恵みの選びのみによって救われることができたことを再確認させ、先週以上に神の恵みを喜び、感謝させたい。

あるお金持ちの人がいます。その人は、ユダヤの国の議員をしています。皆から立派な人として尊敬されていました。何故なら、この人は、ただお金儲けだけを考えていた人ではないからです。神さまの掟を守り、一生懸命、まじめに信仰の生活に励んでいたからです。今、この人の心の中には、こんな考えがありました。「自分は子どもの頃からずっと、神さまの掟をきちんと守っている善い人間だ。だから自分は神さまの国に入れるぞ、きっと永遠の命を頂けるに違いない。」ある日のこと、この人の耳にイエスさまの噂が入りました。「イエスさまと言うのは、立派な先生らしい。そうだ、その先生の所に行って、自分が永遠の命に入れることができることを、認めて貰おう。もしも、もしも、自分に欠けていることがあれば、何をすれば永遠の命をゲットできるか、獲得できるか教えて貰うのも悪くないぞ。」

議員はイエスさまの所に行きました。そして、言いました。「善い、先生。何をすればこの私は永遠の命をゲットできますか。100点満点を貰うために、何か欠けている所がありますか。」イエスさまは答えて仰いました。「あなたは、神さまの掟を知っているでしょう。その中に、何と書いてありますか。姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証するな、父母を敬え。」すると議員は胸を張って答えました。「えっへん。先生、そんなことだったら、もう子どもの頃から、きちんと守ってきました。当然ですよ。ですから私は、神の国に入れ

ますよね。」するとイエスさまは悲しい顔をされて、その人を見つめて心から仰いました。「あなたに欠けているものがまだ一つあります。持っている物をすべて売り払い、貧しい人に分けてやりなさい。それから、わたしに従いなさい。」

するとこの人は、とても悲しみました。大金持ちだったからです。持っている物すべてを、貧しい人に分けてあげられないと考えたからです。この人だけではありません。これを聞いていた人もまたびっくりしていました。皆だって、びっくりしませんか。皆はお小遣いたくさん持っているわけではないよね。お年玉を貯金しているお友達だって、何十万円とか持っている人はいないでしょう。いま仮に、持っていたとしましょう。そして、そのお金の全部を貧しい人に分けてあげなさいといわれたら、どうしますか。そうしないと神さまの国に入れないうって言われたらどうしますか。もしも、本当にイエスさまがあなたに、「全部分けてあげなければ永遠の命を受けられません」と仰ったとしたら、どうしますか。勿論、全部売ってしまうほうが、得でしょう。地上の命よりも、永遠の命の方が大切ですからね。

さあ、この人の悲しむ顔を見て、そしてその様子を見ていた人々のびっくりしている顔を見て、イエスさまは仰いました。「金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。」皆の中で、ラクダを見たことのある人はいるでしょうか。テレビで観たことのある人は多い

でしょう。背中に大きなコブがあるのですよね。人間や荷物を乗せることができる大きな動物です。それなら、針の穴を見たことのある人はいますか。誰でも見た事あるでしょう。それなら、針の穴に糸を通して見たことがある人はいますか。とっても難しいでしょう。それほど、針の穴は小さいですよね。イエスさまは、その針の穴を大きなラクダが通る方が、金持ちが神の国に入るより易しいと仰ったのです。もうびつくりを通り越して、目が点になってしまいます。そんなのはどう考えても無理だからです。奇跡が起こらないかぎりできっこありませんよね。ですから、その様子を見ていた人も思わず叫びました。「それでは、いったい誰が救われるのでしょうか。」すると、イエスさまは力を込めて仰いました。「人間にはできないことも、神にはできる。」イエスさまはこの事を、この金持ちの議員にも、それだけではありません。そこに居合わせた全ての人に、そして今ここにいる僕たち私たちに伝えて、悟ってもらうために、これまでのお話、全ての物を分かち与えなさいというお話を仰ったのです。つまり、救われるために、自分の持っている正しさ、かしこさ、どんな良いものでも、自分の力で救いを手に入れることはできないという事です。僕たち私たちが、イエスさまを信じることができるようになったのは、神さまの一方的な愛、救おうとお働

きくださる愛によってなのです。人間の力で、神さまの国に入ることは誰にもできません。だからこそ、天のお父さまは、イエスさまの十字架によって、僕たち私たちを救ってくださる道を開いてくださったのです。永遠の命は、先週あの赤ちゃんのお話のように、ただ神さまから受けるだけで良いのです。イエスさまを信じるだけで良いのです。この人は、「子どもの頃から、神さまの掟、十戒を守ってきました、えっへん」と威張る必要なんかないのです。ただイエスさまにこうお願いするだけで神の国に入れるのです。「イエスさま、私は罪人です。だから、神さまの恵みによらなければ救われません。神さまの掟を守るように生きて来ましたが、それで、神の国に入れるわけではありません。私を救って下さい。」

僕たち私たちは、ただ恵みによって、救われました。「わたしに従いなさい。」とイエスさまはこの人に仰いました。イエスさまを信じる人は、主イエスさまに従う人です。「従う」って言う事はイエスさまについて行く事です。救われた僕たち私たちは、神さまに感謝し、賛美することができます。そればかりか、少しづつでも、貧しい人に、困っているお友達に自分の大切な物を本当に分けてあげることもできるようになって行くのです。

今週の暗唱聖句

わたしを母の胎内にあるときから選び分け、恵みによって召し出してくだされた神が、御心のままに、御子をわたしに示して（くださいました）。

ガラテヤの信徒への手紙1章15節～16節前半

〈展開例〉

今日のお話には、何が出てきましたか？ みんな動物園でみたことあるかな？

・・・お金持ちの人が天国に入るのは、らくださんが針の穴を通るより難しい。イエス様はそうおっしゃったのです。らくださんは針の穴を通れるかな？・・・じゃあ、誰も天国に入れないのでしょうか？いいえ、神さまだけが、天国の門を開けてくださるというお話でした。そして、その神さまは、私たちがお母さんのおなかのなかにいるときから（！）「〇〇ちゃんが教会に来てイエス様を信じて天国に入れるように」と決めていて下さったのです。神さま、ありがとう。

〈祈り〉

てんのおとうさま。

私たちを、イエス様のもとへとひきよせてくださり、ありがとうございます。いつも神様にありがとうございます子にしてください。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉

127ページに掲載いたしました。

〈礼拝説教のおさらい〉 ルカ 18:18-30

序 「子どもの頃から、きちんと十戒を守っています！」と、胸を張って言える人がイエスさまの所へ、やって来ました。

本 「(これ以上) 何をしたら、永遠の命をいただけますか？」と、イエスさまに質問しました。

結 ・どんなに、りっぱな行いをしたとしても、人間の力で永遠の命を獲得することはできません。

「人間にはできないことも、神にはできる」と、イエスさまは言われました。

* 有効召命とは、神さまの救いへの召しを真に有効なものとして下さる聖霊の御業です。

* 聖霊のお働き

- ①暗い心を照らして、罪を知らせます。
- ②聖書の御言を通して、十字架の御業と罪の赦しを示します。
- ③イエスさまを救い主として、信じる信仰を与えて下さいます。

伝言板

私は、罪を赦していただいて、イエスさまを救い主と信じて、洗礼を授けていただきと思っています。でも、お父さんもお母さんも、教会に行っていないので、わかってくれません。お父さんは、「たくさん本を読んで、学校の勉強もしっかりして、兄弟げんかもしなくなって、お父さんやお母さんの言うことをよく聞けるようになってからにしましょう。」と言います。

教会の先生は「イエスさまは、今のままのあなたを招いて下さいます。そして、神さまの子どもとして、イエスさまと共に新しく生きることができるようですよ」と、教えてくれました。

「わたしたちが、まだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださった……」(ローマ5:8)。

〈やってみよう〉

- イエスさまのところへやって来る

金持ちの議員 -

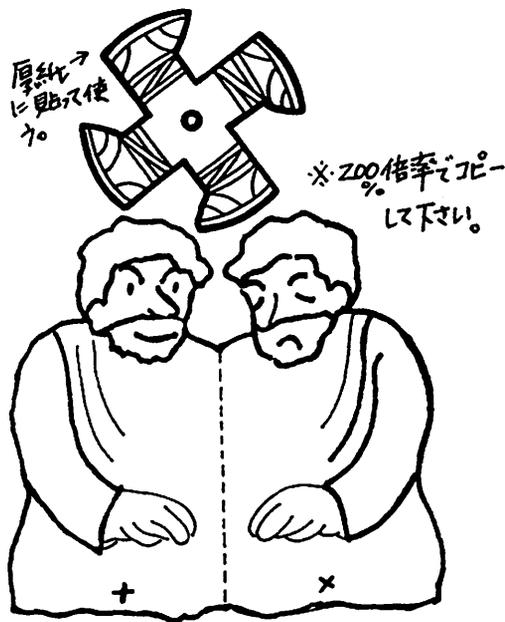
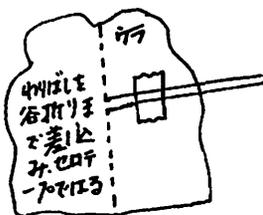
「行きは自信ありげ、帰りはガックリ」

用意するもの

- ・コピーした絵
- ・画用紙
- ・わりばし
- ・クーピーペンシル
- ・マッチ棒
- ・のり

作り方

- ①コピーした絵を、画用紙にのりで貼り、切り抜き、色をぬる。
- ②点線で折り曲げ、割り箸を背中部分につけて、テープで貼る。
- ③二つ折りにした体の間に足をはさみ、マッチ棒を+印に差し込む。
- ④割り箸をはさんで、体をのりで貼り合わせる。



* うまく歩かせるためには、じゅうたんなど、摩擦の多いところだと良い。

〈目標〉

神の選びの恵みによって救われる喜びを子どもたちに伝える。

〈指導上の心得〉

神様によって選ばれ救われた事実に喜びと、驚きをもって指導する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・人間は自分の力でイエス様を信じることができるか？
- ・それではなぜ、人間は救われることができるのか？ 神様がそのお力と権威を持って、選び救って下さったから。
- ・人間がこのように神様によって救われることは当たり前なことか？ 神様が私たちを選んで、何の報いも求めずに救って下さる事実は、驚くべきことであり、大きな恵みなのである。

〈ワーク〉

1. 自分が何か良いことをしたら、神様の救いを受けることができますか？
 - a) 良いことをしたんだから救われる
 - b) 人間の力では救いを得ることができない
2. イエス様は救われることの難しさを、ルカ18:25でおっしゃられました。それでは、人間は救われることができないのでしょうか。
 - a) いいえできます。人間にはできないことでも、神様にならできるのです
 - b) 絶対無理！もう絶望的
3. ガラテヤの信徒への手紙1:15を書いて、先生と一緒に覚えよう。

答え 1. b 2. a

〈目標〉

悔い改めて十字架のもとに行こう。

〈指導上の心得〉

人間がなし得る、最善の努力をしてきた金持ちの議員の欠点をイエスさまが指摘したお話をとおして、人間の力では決して神の国に入り得ないことを強調しよう。

〈展開例〉

(1) 金持ちの議員はその後・・・

①【列れ道】長い長方形の紙に二股の道を描く。左の道は「道德村」で行き止まり、右の道は「十字架の丘」を経て「天国」に通じるように描く。「道德村」や「十字架の丘」が描いてある方を二つに折り、二股の道の分かれ目だけが見えるようにして子供たちに示す。

②【Q&A】

Q1. イエスさまに欠点を指摘された金持ちの議員は、今後どちらの道へ行くと考えますか。左は「道

徳村」に通じます。右は「十字架の丘」に通じます。A. 答えは二とおりある。イエスさまを憎み、これからも良い行いを重ねることにより天国へ行くこととするか、悔い改めて十字架の丘へ行くか。Q2. 道德村へ行く人はイエスさまのことをどう思っているのでしょうか。A. イエスさまが嫌い。Q3. 道德村へ行く人の間違いはなんですか。A. 罪がよくわかっていない。だから天国へいきません。→紙を開いて、道德村は天国へ通じていないことを示す。以上、ジョン・パニヤン著『天路歷程』より。

(2) 手話風カテキズム暗唱法

「神様が」上を指差す「一方的に」前方を指差す「愛をもって」左胸に手のひらをあてる。「私たちを」人差し指で自分の顔を指差す。「救いのうちに」両腕で相手を抱えるように「選んで下さったのです。」そのまま手前に引き寄せ、抱きしめるように。

〈目標〉

神様のもとに招かれた私たちは、神様が私たちのたましいを照らしてくださる事によってはじめて、聖書の御言葉の真の意味を理解する事ができ、神様を求めることができることを確認する。

〈展開例〉

みなさんは、世界で一番よく読まれている本は何だか知っていますか？ それは聖書です。クリスチャンではない人でも聖書を読んだ事があるという人はたくさんいます。そして、「いいことが書いてある」と思う人もたくさんいます。しかし、残念ながら、その人たちがみんなイエス様を救い主と信じてクリスチャンになるわけではありません。それは、どうしてでしょうか。

○私のたましいは曇っている

生まれながらの私たちは、何度もお話ししてきたように、神様に従うよりは自分が神様みたいになって好きなようにしたいと思っている「罪人」です。そんな私たちは、自分を神様の方へと導くようなどんなよいこともできないので（ローマ 3:9-12）、聖書を読んでもそこから自分で救いへと導く道を見つけることはできません。

人間が創造された時に神様から鼻に吹き入れられた「命の息」（創世記 2:7）である神様を想うことのできる「たましい」も、曇ってしまい、真の神様を想うことができなくなっています。しかし、その曇ったたましいに神様が働かれ、神様の恵みの光で照らし出される時、たましいの曇りは取り除かれ、私たちは神様を求める事ができるようになります。聖書を読んで、そこから神様の恵みを知ることができるようになります（Ⅱコリント 3:14-16）。

○私のたましいに神様が働かれる

神様が私たちのたましいを照らされる時、私たちに最初に与えられるのは、自分が罪人であるという自覚です。罪の中にある私たちには、何が「罪」＝神様に喜ばれない事であるのかもわかりません。十戒を読んでも、自分にかかわりのあることだとは思えないのです。神様が私のたましいを照らされてはじめて、私が十戒を全く守る事の

できない罪人であることを知るので。そして、この自覚があってはじめて、私たちはそこから抜け出したいと考えるのです。

たましいを照らされることによって、そのような思いに導かれて、聖書から救いへの道を知ることができるようになります。実際、神様の導きなしに聖書を読む人は、イエス様の十字架の死とよみがえりという大切なところを「理解できないところ」として避けて通ってしまいがちです。神様からの働きかけがあってはじめて、私たちはイエス様の十字架の死とよみがえりが誰のためであったのか考える事ができるようになるのです。

自分自身のみじめな状況とそこから抜け出す道が示されて、私たちその道をたどりたいという思いを与えられます。それは、救い主イエス様が私の罪のために十字架にかかってくださったということを信じる信仰への道ですが、信じることも自分の力ではなく、神様が働かれてはじめてできることなのです。

○新しい人となる

このように、救い主を信じる信仰の道を歩みはじめた人は、神様によってたましいの曇りを取り除かれた新しい人になっています。イエス様の十字架による救いということは、生まれながらの人間には受け入れる事のできない愚かしいことですが、新しく作り変えられた人にとっては、生きる希望である大きな力なのです（Ⅰコリント 1:18）。

この神様の力は、私たちにも働きます。こうして、神様の恵みによって選ばれ、教会に導かれた私たちのたましいを、神様の恵みの光は照らし出してください。

〈祈り〉

天の父なる神様。あなたが恵みによって選んだ人のたましいに働かれて、新しい人へと作り変え、十字架の救いを信じる信仰を与えて下さるということを学びました。どうか、私のたましいをも恵みの光で照らし出し、十字架によって生きる希望を与えてください。主イエス・キリストの御名によって、お祈りいたします。アーメン。

テキスト

ヨハネによる福音書 15章 1～10節

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である」「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」というイエスの有名な言葉が述べられるところです。

イエスは父なる神とご自身、そしてあなたがたとの関係をぶどうの木と農夫に譬えてお話になりました。この関係から、イエスは、「わたしにつながっていないさい」「わたしの愛にとどまりなさい」と命じられます。

既にイエスは13章31節から十字架による死を説明し、別の弁護者（聖霊）の派遣を約束しておられますから、これはイエスの告別説教で、イエスが父のもとに昇ったのちも、わたしにつながっていること、わたしの愛にとどまることを命じておられるのです。更にこの「つながる」「とどまる」は抽象的な事柄ではなく、「わたしの言葉」「わたしの掟」を守ることによってであると説明します。16章12節では「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。」と語り、「わたしの言葉」は聖霊によって「あなたがたの内に」あるようになることも教えておられます。

(1) わたしはまことのぶどうの木

「まことの」という意味ありげな言葉は「偽り」に対して「真実の」「本物の」という意味でしょう。（コロサイ2章17～18節参照）旧約では神の民イスラエルをしばしばぶどう畑やぶどうの木に譬えました（イザヤ5章、エレミヤ2章21節）。イザヤ書5章ではそのぶどう畑の実りとして「主の裁き」「正義」を持っておられたと記していますから、神が神の民イスラエルを植え付け、また手入れをなさり、その結果神の裁きや正義の実り

をあげて神の栄光を現す、というのが神のご計画であり、神の民イスラエルの使命なのです。

そこで植え付けや手入れをする農夫役が父なる神であることは、旧約の昔から明らかなことでした。このイエスの説教の中で新しいことは、旧約で神の民イスラエルが譬えられていたぶどう畑や木において、「わたし」イエスこそ「まことのぶどうの木」であるという真理です。では「あなたがた」は何かというと「その枝」であるのです。最初に農夫である父とぶどうの木であるイエスのことが語られ、父はまことのイスラエルを主イエスによって確立し、そしてあなたがたをその枝として育むことが後で語られるのです。

ですから、新しい神の民イスラエルにおいては、神の栄光をあらわす相応しい結実は何事においてもイエスによって成し遂げられるのです。

農夫としての父の働きは旧約の歴史の中でもよく言及され、事実おこなわれてきました。それは「実を結ばない枝は取り除く」「実を結ぶものは、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをする」というものです。そうして農夫の手入れによる結実が父の栄光をあらわしました。ですから8節でも「それによって、わたしの父は栄光をお受けになる」と言われます。

(2) わたしにつながっていないさい

新しい神の民イスラエルにされた「あなたがた」に求められていることは「わたし（イエス）につながって」いることです。もちろんこれには「わたしもあなたがたにつながっている」というイエスの約束がついています。「つながる」とは具体的に「わたしの言葉があなたがたの内に」ということを指し、「わたしの愛にとどまる」とは「わたしの掟」を守るということを指しています。

カテキズム 子どもカテキズム 問30
 ウェストミンスター小教理問答 問29,30
 ハイデルベルク信仰問答 問53,65

子どもカテキズム

問30 神さまの恵みは、どのようにして私たちに与えられますか。

答 聖霊なる神さまが私たちに信仰を与え、私たちが主イエス・キリストと一つに結びあわせてくださることによつてです。

ハイデルベルク信仰問答

問53 「聖霊」について、あなたは何を信じていますか。

答 第一に、この方が御父や御子と同様に永遠の神であられる、ということ。
 第二に、この方はわたしに与えられたお方でもあり、まことの信仰によつてキリストとそのすべての恵みにわたしをあずからせ、わたしを慰め、永遠にわたしと共にいてくださる、ということです。

〈聖霊の交わり〉

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたと共にあるように」(コリント一 13:13)。「聖霊の交わり」とあります。この御言葉は、私たちに聖霊との交わりが与えられるということだけではなく、交わりの根拠、きずなどとしての聖霊の働きを明らかにしています。聖霊は、交わりの根拠、交わりの土台、交わりのきずなです。それは、主なる神と私たちの交わりの根拠、土台なのであり、また私たち人間同士の交わりの根拠、土台でもあります。

〈キリストを指し示し、キリストと結びつける〉

聖霊は私たちに内住してくださるお方です。このお方は、御父や御子と等しい永遠の御神であり、位格(人格)を持つ主体的な御神です。三位一体の交わりの内におられ、また私たち人間に働きかけるお方です。その働き方は、私たちの内に住み、隠れてひそやかに働かれます。

聖霊は自らを隠し、キリストを指し示します。聖霊は、天に挙げられた主イエス・キリストがお遣わしくくださったお方であり、キリストの霊です。キリストの真理の御霊です。聖霊は、私たちの人格と主体性を重んじながら、御言葉を通して主イエス・キリストを私たちに指し示し、私たちが主イエス・キリストと結びつけてくださいます。私たちの思いを虐げたり軽んじたりすることなく、

しかし確実に私たちにキリストを信じる信仰を与え、キリストに謙虚に従う志をはぐくみます。

ここに、主なる神と私たちの交わりの根拠があります。聖霊がきずなとなつてくださり、私たちがキリストと結びつけ、三位一体の神の交わりに入れてくださるのです。

〈生ける結びつき〉

聖霊によつて、私たちは霊的にキリストと一つにされます。キリストとの結合です。それは、かしらと体、ぶどうの幹と枝にたとえられるような、血が通う結合関係、養分の通う結合関係です。

キリストとの結合によつて、私たちは、私たちのために獲得されたキリストの恵みのすべてにあずかります。キリストの義と聖が私たちに与えられ、キリストが神の御子であるように、私たちもキリストによつて神の子とされます。神の御国を受け継ぎ、その豊かな祝福にあずかります。

聖霊はキリストの体を建てる霊です。キリストとの結合とはキリストの体として一つにされる、一つの幹の枝とされることでもあります。すなわち教会です。神の民として、主にある兄弟姉妹として生かされます(子どもカテキズム問34)。神の子とされる祝福とは、教会で与えられる恵みにほかなりません。礼拝の恵み、兄弟姉妹の交わりの恵み、罪の赦しの恵み、等々。聖霊によつて、私たちは確実にこの恵みにあずかっています。

ヨハネによる福音書 15章 1～10節

子どもカテキズム 問30

「ぶどうの木のたとえ」

〔単元のねらい〕

救いの事態とは、生ける「キリストとの結合、交わり」である。改革教会の救済論の特質である。これは、聖霊とその賜物としての信仰を媒介としてもたらされる神秘である。この神秘にあずかっていることを自らと共に感謝し、ますます信仰を求めようように促したい。聖霊のお働きのないところでは、我々の奉仕に一切実りを期待することはできない。キリストとの交わりへと導く所の霊的な営みが、毎回毎回の礼拝式、分級である。聖霊のお働きの豊かであること、準備の内に働かれる聖霊が、実際の奉仕の内にも働いてくださるよう、奉仕者はもとより教会全体で祈り求める以外にない。聖霊によって結ばれる我々と主イエスとの絆の強さ、深さ、確かさを、喜びをもって語りたい。

みんなの中に、ぶどうの木においしいそうな実がなっているところを見たことのあるお友達はいませんか。イエスさまのお話の中に、ぶどうの木の譬えがあります。イエスさまは仰いました。「わたしはぶどうの木、わたしの父は農夫です。」「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」これは、僕たち私たちが、イエスさまを信じることによってイエスさまとどんなような関係を与えられているのかを明らかにして下さるお話です。

まず、天のお父さまは、僕たち私たちをイエスさまのぶどうの木の枝として、選んで下さいました。日曜学校でお誕生日の時に歌う歌を思い出して下さい。「生まれる前から神さまに愛されてきた〇〇ちゃんの誕生日です、おめでとう。」僕たち私たちは、生まれる前、お母さんのお腹のなかにいるときから、天のお父さまの愛を受けて、イエスさまを信じて救われるように選ばれていたのです。次に今度は、おぎやあーと生まれた後で、聖霊なる神さまが、具体的に「〇〇ちゃん、〇〇君、あなたは、神さまに愛されていますよ。あなたは、神さまの前に罪人ですよ。だから、悔い改めなさい。そしてイエスさまの十字架を信じなさい。」と聖書の言葉を通して語って下さいます。聖霊なる神様が働いてくださったから、僕たち私たちは今こうして、イエスさまの教会に来て、礼

拝しているのです。教会に来てお話を聞いたり、お祈りしたりする中で、だんだんイエスさまのことが好きになって来て、イエスさまを信じることができるようにして下さるのです。

さて、イエスさまを信じるっていうのはどう言うことでしょうか。信じている僕たち私たちは、イエスさまというぶどうの木にくっつけていただいたということです。ぶどうの木に繋がっている枝はやがて夏そして秋になると、甘酸っぱい美味しいぶどうの実をならせるでしょう。ぶどうはたくさん実がなくて、おいしいですね。ぶどうの房がその実を実らせるためには、自分で何をしていますか。ぶどうの房は、「リンゴではなく、蜜柑でもなく、梨でもなく、ぶどうの実になるぞ、ぶどうの実になるぞ、なるぞ」と頑張ってぶどうの実を実らせているのでしょうか。違うと思います。枝は、ぶどうの木に繋がっていると、知らないあいだに美味しいぶどうになってしまうのです。木は、土の中に根を張りめぐらして水を吸い上げます。吸い上げられたお水は、幹を通過して枝に行き、葉っぱの先にまで渡ります。地面の中にあつた濁った水は、根っこで吸い上げられたときには、ただのお水ではなくなっているでしょう。幹を通過して行くうちに、あのお水は木を生かす樹液になっているでしょう。そして、枝に流れる、太陽の光を浴びる、どんどん栄養をもらって、ついに気がつくともう立派なぶどうの房になっているのだと思います。

イエスさまと僕たち私たちとの関係もそれに似ています。くっついている僕たち私たちはどうなるのでしょうか。僕たち私たちの所に、イエスさまのお命は豊かに流れ込んで来ます。イエスさまのお命とは聖霊なる神さまで。このようにつながってさへいれば、僕たち私たちも必ず、良い実を实らせることができるのです。そのために、父なる神さまは僕たち私たちを選んでくださっただけではなく、良く実らせるために手入れをしてくださるのです。このように、三位一体の神さまのお働きによって、イエスさまとの交わりがつけられているのです。

それなら、どんな実が結ばれるのでしょうか。使徒パウロは、九つの実を教えました。第一に、人を愛する愛という実。そして、喜びという実です。さらに、心の安らぎ、大きな広い心、親切な心……。九つだけでなく、きっと数えられないくらい素晴らしい実が実ります。その実、自分を楽しませるだけでなく、他の誰かを生かしてあげることのできる「美味しい」実がみえるのです。

これまでのカテキズムで、イエスさまの救い、恵み、選びという事を学んで来ました。今日は、ぶどうの木の譬を通して、すべての教えの中心の中心を学びました。それは何でしょうか。聖書の中の中心のテーマとは何でしょうか。キリスト教の

中心とは何でしょうか。信仰の中心とは何でしょうか。答え、それは、私たちの主キリスト・イエスさまです。イエス・キリストがすべての中心です。すべての祝福は、信仰を通して、生きておられるイエスさまと僕たち私たちとが一つに結ばれること、交わりを持つこと、ここにあります。皆は、これからももっともっと、素晴らしい実をたくさんつけたいと思いませんか。そのために、信仰を神さまに求めましょう。そして、イエスさまと深くつながらせて頂きましょう。

最後に、ぶどうの木の譬は、僕たち私たちとイエスさまとの関係についてのお話でした。けれどもそれだけではありません。イエスさまとつながっている僕たち私たちは、お互いに繋がっているということを忘れないで下さい。今、皆で教会に来ています。声を揃えて賛美を歌いました。イエスさまと交わりを持っている僕たち私たちは、独りぼっちではありません。神さまの家族です。イエスさまと繋がっている人は、イエスさまを信じている全ての人も繋がっています。今、北海道から沖縄まで日本キリスト改革派教会の日曜学校のお友達が礼拝しています。世界中で子どもたちが教会に集っています。僕たち私たちはまだ見たこともないお友達とも、一つに繋がっているのです。

今週の暗唱聖句

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

ヨハネによる福音書 15章5節

〈展開例〉

今日のお話にはみんなも知ってる果物ができましたね。何だったかな？

・・・イエス様はぶどうの木、私たちはその枝です。ぶどうの木、見た事あるかな？（写真や絵を見せる） こんな風に、イエス様と私たちはひとつですよってというお話でした。そして、イエス様とつながっている〇〇ちゃんと☆☆くんも、ひとつなのです。だからひとりぼっちじゃない。いつでも、どこでも、イエス様によってつながっているのです。

今日は、みんながつながっていることを忘れないように、手をつないでお祈りしましょう。

〈祈り〉

てんのおとうさま。

しっかりイエス様の木につながってイエス様を信じる子供にしてください。そして、たくさんの良い実をらせて下さい。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉

128 ページに掲載いたしました。

〈礼拝説教のおさらい〉 ヨハネ 15:1-10

序 ・「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は、農夫である」と、イエスさまは、譬えをもって、話されました。

本 ・ぶどうの実が、ぶどうの木にしっかりとつながって、美味しく大きな実についていくように、私たちもイエスさまにつながり続けることが大切です。

結 ・私たちは、イエスさまの恵みの栄養すべてをいただいて大きく育っていきます。そして、イエスさまとつながっている私たちは、世界中のイエスさまを信じているお友達とつながっているのです。

----- 伝言板 -----

果物売り場にかわいい真っ赤な苺が、並び始めました。果物の中で、何が好きですか？

イエスさまは、いちじくやぶどうの実を食べていたようです。そして、ある日、ぶどうの木の話をしました。

皆さんは、ぶどう畑に行ったり、ぶどう狩りに行ったことがありますか？ 棚いっぱい、ぶどうの枝が広がり、大きなぶどうの房が見事に、垂れ下がっていました。細い一本の幹からどうして、と感心するほど枝は広がり、何百というぶどうの実がなっていました。ぶどう畑のおじさんは、手入れを念入りにするそうです。しっかりとつながっていれば、栄養を十分もらって自然にぶどうの実になってゆくのです。

枝は教会です。ぶどうの実は私たちです。丸い地球に張りめぐらされた、イエスさまのぶどうの木は、枝を張り、たくさんぶどうの実をつけています。

世界中の教会学校のお友達の小さなぶどうの実が、大きく成長しますように……。

〈やってみよう〉

- 手紙を書いてみよう -

他の教会の、教会学校の小学科下級クラスのお友達にみんなでお手紙を出してみませんか？

用意するもの

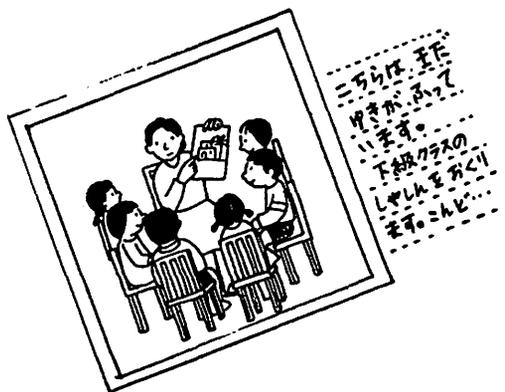
- ・教会の住所名簿
- ・封筒、切手など



①どこの教会学校に手紙を送るかを定める。キャンプで知り合った教会、まだ会ったこともない遠い教会、北海道や沖縄の教会学校のお友達、それともアメリカや、オランダの教会学校のお友達に写真や絵を送ってみませんか？ 遠く離れていても、イエスさまにつながっている僕たち、わたしたちは日本中の、世界中の教会学校のお友達とつながっています。

②自分たちの分級の様子、自己紹介、写真、こども週報、絵などを同封する。季節の葉や押し花を入れても楽しい。

*お祈りしてほしいことを書いて、お互いにお祈りし合えたらいいですね！



〈目標〉

聖霊によって、キリストと結ばれているその強さを示す。

〈指導上の心得〉

教師自身が聖霊によって、今キリストと結ばれていることを確信して指導する

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・木について、みんなが知っていることを聞く。
木の枝は木にしっかりと繋がっていて、木から養分をもらって、葉や実をつける。
- ・キリスト者も、信仰の実を結ぶといわれる。
- ・信仰の実を結ぶためにはどうしたらよいか。
主イエスという幹を信じて、繋がればよい。
- ・人間の力では繋がっていることができないが、聖霊が繋ぎ留めていて下さり、しっかりと幹に繋がっていることができるのである。

〈ワーク〉

1. 私たちが主イエスを信じるとはどういうことだろう。
 - a) 主イエスという幹に繋がること
 - b) 主イエスという木から落ちること
2. 自分の力でイエス様という幹に繋がっていることはできるかな。
 - a) できない b) そんなの簡単にできるよ
3. どのようにすれば、イエス様という幹に繋がりが続けることができるのかな？
4. ヨハネによる福音書 15:5 を覚えよう。来週まで覚えてられるかな？

答え 1. a 2. a 3. 聖霊なる神様の力によって

〈目標〉

実に控えめなお方、しかし私たちにいちばん身近なお方、聖霊なる神さまのお働き。

〈指導上の心得〉

ぶどうの木のとえは、以下に記すように、さまざまな問いと答えが用意でき、聖化の歩みの神髄を、実にわかりやすく、私たちに示してくれる。ぶどうの木のとえに、直接聖霊を示すものは出てこないが、私たちは、このお方のおかげで、ぶどうの木につながり続け、聖化の恵みに預かることができることも押さえておこう。

〈展開例〉

ぶどうの木（幹と枝）とぶどうの実と農夫の絵を用意する。これは何をたどっているか？

Q. 農夫とは？ A. 神。木に栄養（命）を与える。耕す。

Q. 幹は？ A. イエスさま。栄養（命）を吸い上げて、枝に与える。

Q. 枝とは？ A. 私たち。イエスさまから栄養をいただいて実を結ぶ。栄養を受けず、豊かな実を結ばなければ、切り取られてしまう。

Q. 実とは？ A. 悔い改め、感謝、喜び、希望、愛など。

Q. 実を結ばない枝とは？ A. 聖霊の導きに応えず、イエスさまの救いを願い求めない人。

Q. 実を結ぶ枝とは？ A. 聖霊の導きに応え、イエスさまを願い求めるので、ますます聖霊によって力を得、悔い改め、感謝、喜び、愛などの実を豊かに結ぶ人。

Q. イエスさまにつながっているとどんなよいことがあるか？ A. 聖化の恵み

Q. あなたの力でイエスさまとつながっていることができるか？ A. いいえ、聖霊なる神さまによらなければイエスさまとつながり続けることはできません。

〈目標〉

自分では何も善いことのできない私たちは、聖霊なる神様の働きによってキリストに結び付けられ、確かな救いへと導かれることが教えられている。聖霊の働きに信頼する事で、希望を持つ事ができるよう勤める。

〈展開例〉

先週まで学んできたように、私たちは自分には何の善いところもないのに神様の一方的な恵みによってたくさんの人々の中から選んでいただき、曇ったたましいを照らし出されて神様を求めることができるようになった者です(エフェソ2:8)。そのように私たちを変えて下さる働きは、聖霊なる神様の働きです。今日は、聖霊なる神様が私たちにしてくださる大きな働きについて一緒に考えましょう。

○聖霊なる神様

聖霊なる神様というのは、創り主である父なる神様、救い主である子なる神様とともに、唯一の神様の三つの人格(位格)の一つです(7月15日の教案参照)。

聖霊なる神様は、高い所から私たちを見下ろしておられるような方ではありません。天から私たちの所へ下ってこられ、私たち一人一人と共にいて下さる方です(使徒2:1-4、Iコリント6:19)。

ヨハネ15:26にあるように、聖霊なる神様が私たちの所へ来られることはイエス様が約束していただきましたが、この聖句から、聖霊なる神様が私にしてくださることは、イエス様を証しすること、すなわち、救い主イエス・キリストの救いを私が受け入れることができるようにして下さることだということがわかります。つまり、私たちは、聖霊なる神様が働いてくださらなければ、イエス様が救い主だということも、イエス様の十字架が私を罪から救い出すためだということもわからないのです。

○キリストと結び付けられる

聖霊なる神様は、私たちにイエス様のことがよくわかるようにして下さいます。そして、私たちがイエス様を救い主として受け入れる「信仰」

を与え、イエス様に従っていこうという気持ちにして下さいます。

このようにして、私たちは聖霊なる神様によってイエス・キリストと結び付けられます。この結びつきは、イエス様がヨハネ15:1-10(今日の説教テキスト)でぶどうの幹と枝の結びつきに例えておられるように、幹であるイエス様から、生きるための栄養を、枝である私たちに注ぎ込まれるような結びつきです。

○キリストから注ぎ込まれる恵み

生きるために必要な栄養とは何でしょうか。もちろん、炭水化物やタンパク質というような肉体の栄養も必要です。しかし、真実に生きるために必要なのは、アダムが神様に造られた時に神様から鼻に命の息を吹き込まれて生きる者となったように(創世記2:7)、神様からの恵みをいただくことです。イエス様と結びつく事によって、私たちはイエス様が持つておられる神様からの恵みのすべてをいただくことができます。

私たちは、イエス様が神様から認められたと同じように「義」と認められ、罪をゆるされ、イエス様のように神の子とされる、という大きな恵みをいただくことができます。そして、私たちはイエス様に似た者とされて、神の国にふさわしい聖い者へとつくりかえられていくのです。

これらのことは、また来週からいっしょに考えていきますが、私たちは聖霊なる神様によってキリストに結び付けられて、神の国へと導かれる確かな道を歩むことができるのです。私たちに、このような大きな希望が約束されています。私たちの中にいてくださって、私たちを作り変えてくださる聖霊なる神様の大きな働きに大きな信頼を持つてはいませんか。

〈祈り〉

天の父なる神様、今日は聖霊なる神様が私のためにしてくださる大きな働きについて学びました。キリストに結び付けられることによっていただく大きな恵みによって希望を持つことができるようにして下さい。主イエス・キリストの御名によって、お祈りいたします。アーメン。

テキスト

マタイによる福音書 18章 21 ~ 35 節

「罪を犯したら何回まで赦すべきでしょうか」との問いに「7の70倍までも赦しなさい」とイエスが教えられた箇所です。イエスは罪を赦すということの意味を赦された家来の譬え話をもって教えられました。

(1) ペトロの問いかけと罪の赦し

ペトロの問いかけは「兄弟がわたしに」という関係でのものです。あとの譬え話でも赦された家来が出会うのは同じ「仲間」です。同じ救いを受けた兄弟間での話です。ペトロは「何回」「7回まで」ですかと問います。この数は当時の常識を超えた数だったようです。その意味でペトロの赦しは立派な答えでしたが、イエスの答えは「7の70倍まで」すなわち教えるな！というものです。つまり、ペトロは「何回まで」といつてその度合を問うていますが、イエスの赦しとは根本的に教えないこと、すなわち「心から赦す」(35節)ことだと言っておられるのです。

(2) 赦された僕

イエスはこの心からの赦しというものを「赦された家来」の譬え話で教えられます。要点は自分が赦された存在であること、私たちは往々にしてそのことを忘れて兄弟を赦さないということが起こることにあります。

譬え話によると、家来の負債は「一万タラントン」という巨額なものです。これは「決済」によって明らかにされたもので、負債の額が正確なものであることと、それが普段にはあまり意識されていないことを明示しています。「貸した金」とあるように、家来たちからすれば借りているという意識はあっても、その正確な額の認識は王の前

での決済で明らかにされます。王は返済できないことを知って「持ち物全部を売って返済するように」命じます。「全部」とは明らかにそれでも返済額には違っていないことを示しています。更に王は返済できないにもかかわらず「しきりに願う」家来を憐れに思い「借金を帳消し」にされました。まさに赦したのです。

この王のとった行為に対して、同じ仲間に対してとった彼の態度は対照的です。まず彼は同じ「仲間」です。王と家来という関係ではなく、同じ家来であり、彼に貸したお金も元々君主からのものです。負債額も「百デナリオン」、自分自身の負債額に比べればわずかな額です。それも「決済」によってではなく、「出会うと捕まえて首を絞め」という行為にでます。仲間として返済方法を考えてやることもなく「牢に入れる」という行為にまでおよびます。

こうして比較対照される王と家来の態度により、いよいよ王の帳消しという行為の憐れみ深さと、家来の心痛む冷酷さというものが浮き彫りにされてきます。

(3) 神の憐れみ

帳消しという赦しは王の「憐れに思う」ところから出ています。この「憐れ」とは「腹わたを揺り動かす」という語です。キリストが私たちの罪過のために十字架で流された血潮こそ、この王の「憐れみ」なのです。

イエスはこの譬え話を「天の国は次のようにたとえられる」と言われているように、これは終末の決済を待つまでもなく、兄弟の中で現実となっている父の赦しを前提としています。つまり赦されているのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問31
 ウェストミンスター小教理問答 問33
 ハイデルベルク信仰問答 問56

子どもカテキズム

問31 救いとは何ですか。

答 神さまの子どもとされることです。そのために、神さまは私たちの罪を赦して義と認めてくださいました。ですから、私たちは、喜びと感謝をこめて、「私たちの父なる神さま、私の天のお父様」とお呼びします。

ウェストミンスター小教理問答

問33 義認とは何ですか。

答 義認とは、神の無償の恵みの決定であって、それによって神はわたしたちのすべての罪を赦し、わたしたちを御前に正しいものとして受け入れてくださいます。それは、キリストの義をわたしたちの義として認めてくださることであり、わたしたちはただ信仰によってのみそれを受けるのです。

〈キリストの義〉

この問答は、教理の言葉で「義認」、「罪の赦し」、「子とされること」と言われる事柄を取り扱っています。二回にわたってこの問答から学びます。今回は、「義認」と「罪の赦し」です。

私たちの主イエス・キリストは、へりくだって人となられ、父なる神の御心に従って地上の生涯を歩まれ、十字架につけられて死んでくださいました。ここにキリストの御父へのまったき服従があります。キリストは、父なる神との関係において完全に義なるお方であり、律法を成就したお方です。十字架にキリストの義が現れています。それ故に、御父は、キリストを死からよみがえらせ、御自身の右の座へと高く挙げてくださいました。復活と昇天がキリストの義を証しています。

〈救いとは義とされること〉

さて、この問答は「救いとは何ですか」と問い、「罪の赦し」「義認」と答えます。すなわち、救いとは「義とされること」にほかなりません。「罪の赦し」をいただくことなのです。私たち人間は様々な救いを求めます。しかし、神の御前に救われるとは、神との関係が義なる関係、正しい関係とされるほかありません。この問答は、「救いとは神の御前に義とされること、罪の赦しをいただくことである」、この確信を告白しています。

〈信仰によってキリストの義をいただく〉

私たちは、聖霊によってキリストを主と信じる信仰を与えられて、救いに入れられます。すなわち、義と認められます。これは聖霊によるキリストとの結合によって与えられる恵みです。私たちはキリストと一つにされ、霊の生ける糧であるキリストの肉と血をいただき、キリストの義を受けます。それは「信仰によって」です。神の御前にへりくだり、自らの愚かさや罪を悟り、神の御前に空っぽの手を差し出すのです。信仰とは空っぽの手である、自らを空にすることであると言われます。私たちには何の功績も資格もありません。ただ恩恵としてキリストの義を受けます。そうして罪ある私たちがキリストの白き衣で覆われて、神の御前に義なる者、罪なき者とされるのです。

〈罪の赦し〉

義とされることは、私たちの現実においては、罪の赦しが与えられることにほかなりません。義とされることと罪の赦しは一つのことです。神はキリストの義を通して私たちを見てくださいます。また私たちは互いに赦し合う者とされます。教会は罪の赦しの共同体です。教会において、私たちは現実に赦しに生かされ、赦しに生きるのです。神に負い目を赦された者として、互いの負い目を赦し、互いをキリストの命に生かすのです。

マタイによる福音書 18章 21 ~ 35 節
子どもカテキズム 問 31

「仲間を赦さない家来のたとえ」

〔単元のねらい〕

問 31 は二回に分けて説く。赦された者は、赦しに生きよと勧める主イエスの譬えを通して、主イエスによる罪の赦しを語る。ここでも、課題を礼拝説教者にのみ任せて良いわけではない。むしろ、分級で一人一人とその子の固有の悩み、罪の問題に触れたい。言うまでもなく、「罪贖」は、大人だけが持つのではない。むしろ、小さな子こそ、行いの不正を犯しやすく、心に闇を持っている。教師は、担当する子どもらの牧会者である。具体的な罪、過ちがあれば聞いてあげて、十字架の赦しに導いてあげたい。(次回の分級へと繋げるために、本日の分級をその導入とする事も可能であろう。場合によっては、牧師に相談したり、対応を委ねるほうが相応しい場合もあるかもしれない。遠慮なく、牧師に係わって頂いたら良い。) 導き手たる教師が、深く罪人たる自覚に生きていること、赦罪の福音の喜びにあふれていることが大切である。分級の準備とは、単元の準備より、信仰者として日々福音に満たされ、生かされる生活、絶えざる成長こそ要であろう。

ある日の事、イエスさまはお弟子さんたちにこのような譬え話をされました。ある王様が、家来たちを呼びました。「みんな集まりなさい。今から、お前たちに貸しておいたお金を返してもらおう。」王様は、家来に王様のお金をあずけ、そのお金で仕事をするように命じられたのです。家来たちは、次から次へと借りたお金を王様に返しに来ました。一人の家来には、一万タラントン貸してありました。一万タラントンとは、一体どのくらいのお金でしょうか。6,000 デナリです。一デナリとは、一日の仕事をして貰うお金です。それを一万円としましょう。そうなると、一タラントンは 6,000 万円になります。教会が一軒建てしまいます。一万タラントンはその一万倍です。一万軒建てる事ができます。凄いお金を借りていたので、ところが、その家来は返せませんでした。王様は言いました。「自分も妻も子も、持ち物全部を売って弁償しなさい。返しなさい。」これは、当然のことです。借りたものは返さなければなりません。さあ、家来はどうしたのでしょうか。「どうか持ってください。きっと全部お返しします。」返せるあてなどないにもかかわらず、「どうか持ってください。きっと全部お返しします」と、涙ながらに言いつづけたのです。これを見ていた王様はどうしたと思いますか。王様は家来を憐れ

に思われました。なんと、彼を赦してあげました。そればかりか、借金 6,000 億円を全部帳消しにしてあげたのです。つまり、もうこの人の借金は 0 円になったのです。なんと、気前の良い王様でしょうか。なんと心の優しい王様なのでしょう。

家来は、「やったー」と飛び上がらんばかりに、外に出て行きます。もう嬉しくて嬉しくてたまりません。歌を歌いながら、妻や子の所に帰って行きます。ところが、飛び跳ねながら、歩いて行くと、ある人を見かけました。その人は、この家来に目が合わないように、うつむいて歩いています。しかし、家来はすぐに分かりました。「あっ、あいつだ。俺様から、100 万円借りておいて、まだ返していない。あの男だ。」家来は、「おい待て」と呼び止めました。そして、捕まえて首を絞めて、言いました。「貸したはずの 100 万円、早く返せ。今すぐにだ。」その人は答えました。「どうか待ってください。きっと全部返すから。」家来は承知せず、牢屋に入れてしまったのです。これを聞いた王様はとても怒りました。そして赦して返したこの家来をもう一度呼び寄せて、言いました。「お前は、この私にどれほど憐れんで貰ったのか。私がお前にしてやったように、お前も仲間にしてあげるべきではないのか。」こうして、この家来は牢屋に入れられてしまいました。

これは、何の譬え話でしょうか。これは、イエスさまが僕たち私たちにしてくださった御業の譬えです。問 19 にあるように、僕たち私たちは、神さまの前に罪人です。神さまの怒りを受けなければなりません。本当は、「牢屋」、つまり、神さまの裁き、刑罰を受けて減びなければならないのが、僕たち私たちです。ところが、神さまは僕たち私たちを救うために、どうしてくださったのですか。贖い主イエスさまを与えて下さったのです。イエスさまが僕たち私たちの罪の支払わなければならない、罰、裁きを身代わりになって、支払って下さったのです。償って下さったのです。借金を帳消しにしてくださいましたのです。これが、イエスさまの十字架の意味です。自分のために十字架について死んで甦ってくださったイエスさまを信じるだけで、罪は完全に赦されます。イエスさまがお話された 6,000 億円を帳消しにされるよりもっともっと素晴らしいこと、もっともっと凄いことをイエスさまはしてくださったのです。

それなら、今度は、僕たち私たちの番です。僕たち私たちは、もう人を罰することはできなくなりました。罰するのは神さまがしてくださるので。イエスさまは、自分に罪を犯す人を、「七回どころか、七の七十倍までも赦しなさい」と仰いました。七の七十倍って幾つでしょうか。490

回です。でもイエスさまが仰った意味は、490 回まで許して、491 回になったら、仕返ししても構わないと言うものではありません。これは、「限りなく」と言う意味です。「限りなく我慢しなさい」ではありません。「限りなく赦してあげなさい」と言う意味です。あなたがイエスさまにしていたようにと、と言うことです。イエスさまに罪を赦されたことを今日、改めて考えましょう。そのために、どんなに、大きな犠牲を支払って下さったのか。僕たち私たちがどんなに、大きな愛をもって愛されているのか。心から感謝しましょう。

最後に、一番大切なことを言います。今日、このお話を聞きながら、心のなかで、何か悪いことをしてそれを秘密にしまっているお友達、罪を犯してまだイエスさまにごめんなさいとお祈りしていないお友達がいませんか。もし、そのままにしてすれば、牢屋に入ったような暗い心のままになってしまいます。その人は、この後、恥ずかしがらずに、分級の先生でも牧師先生でも良いですから、一緒にお祈りしてもらって、心を綺麗にして頂きましょう。優しい十字架のイエスさまを信じて、天のお父さまに、罪を完全に赦して頂き、心をきよめていただきましょう。

今週の暗唱聖句

つまり、被造物も、いつか減びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。

ローマの信徒への手紙 8 章 21 節

〈展開例〉

今日ではどんなお話だったかな？

・・・家来は、王様がたくさんたくさん赦してもらったのに、そんなことはすぐに忘れてしまって仲間のことは赦さなかったのです。

みんなは一週間、お友達と仲良く遊べたかな？お母さんやお父さんのいうこと良く聞けたかな？兄弟げんかはしなかったかな？・・・私たちは気付かない間にこの家来と同じようなことをしています。どうしたら良いのでしょうか？一番良い方法は、イエス様を思い出す事、「イエス様」ってお祈りすることです。イエス様が、仲良くする心を下さるのです。

〈祈り〉

てんのおとうさま。

私たちの悪い心を、全部イエス様によって赦してください、ありがとうございます。どうか、聖霊を豊かに注いでください。そして、やさしいイエス様をいつも思い出して、喧嘩をしても仲直りできますように。ごめんなさいと素直に言えますようにしてください。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉

129 ページに掲載いたしました。

〈礼拝説教のおさらい〉 マタイ 18:21-35

- 序 ・ペテロがイエスさまに、兄弟を何回赦すべきか、質問にきました。
- 本 ・多くの借金をゆるしてもらった家来が、わずかな貸金をゆるすことが出来なかった譬を通して、神さまの赦しの大きさと、兄弟をゆるすことの出来ない人の罪深さを教えようとなりました。
- 結 ・救いとは、私の大きな罪の負債を、イエスさまが代わりに支払ってくださり、私の罪は神さまの前に、全て赦されることです。

〈やってみよう〉

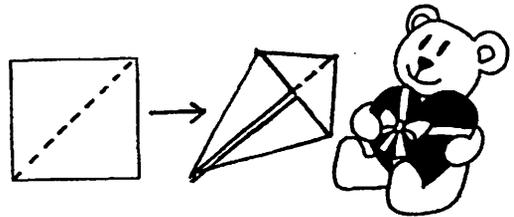
- プレゼントをしよう -

セント・バレンタインというのはカトリック教会の聖人で、小鳥や花を慈しみ、人にやさしい愛にあふれた方だったそうです。つついケンカをしてしまう兄弟や、「ケンカするほど、仲のいい」親友に、「愛情こめて」甘いプレゼントをしましょう。

用意するもの

- ・いろがみ ・はさみ ・セロテープ ・ペン
- ・袋入りのミニチョコまたはキャンディー等

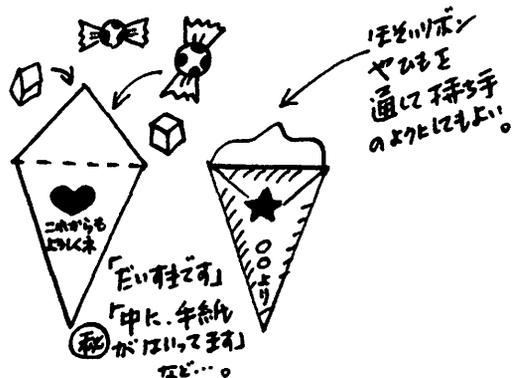
①いろがみ（包装紙でもよい）で、袋を作る。



②袋に、ハートの形のいろがみを貼ったり、ひとこと、心を伝えることばをそえる。

③中に、チョコやキャンディーを入れる。

④折り返しのフタのところに、シールを貼る。



伝言板

あなたには、兄弟がいますか？ 二人兄弟、三人兄弟・・・？ 兄弟げんかはしますか？ 仲の良い時はいいけど、ちょっとしたことで言い合いになってしまうと、お互い絶対に負けたくないの、言い返しの繰り返し・・・。時には、「叩いた！」「お返し！！」「倍返し！！！」などと、どんどんエカレートしてしまいます。どちらかが、止めればいいのに、お母さんの「負けるが勝ちヨ！」の声も耳に入りません。どっちも、自分は悪くない、と思いつんで入るのです。

でも、本当にそうかな。ケンカの原因は、必ず両方にあるものです。“自分も悪かった”と反省する気持ちと“許す心”をイエスさまにいただきます。神さまは、私を、どれほど赦してくださったでしょうか。今もまだ、神さまに毎日赦していただいています。

イエスさまは、十字架上のひどいお苦しみの中でも、人々をゆるし、神さまに赦しの執り成しをされたのです。

イエスさまにしっかりつながっているあなたならきっと大丈夫！アタマにきた時も、赦せる心になれるよう、お祈りしようね。

〈目標〉

大きな罪を赦していただいていることを覚え、感謝と祈りへと導く

〈指導上の心得〉

完全な赦しを与えられているのだという確信を持って指導する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・主イエスの贖いのみ業はどのようなものであったのかを確認する。
- ・主の贖いは誰のためのものであったのか、また、それによって赦された罪の重さはどれほどのものであったのかを話し合う。
- ・その赦された罪の大きさを覚え、赦されたのと同様に人にも返すべきことを教える。
- ・日々犯す罪の赦しのために祈り、悔い改めと感謝へと導く。

〈ワーク〉

1. イエス様は、誰のために、何のために十字架に架かられたのでしょうか？ 考えてみよう
2. イエス様がみんなの罪を赦してくださったように、あなたは人のどんな罪でも、いつも許せますか。人が自分にやった罪を赦すということは、難しいことですね。でも、神様はイエス様を送って下さって、信じるだけで、神様に逆らっているあなたの罪をすべて赦すとおっしゃられているのです。
3. マタイによる福音書 27:46 を書いて覚えましょう。

答え 1. わたしの罪のため 2. できない

〈目標〉

私たちは赦されている。赦された者が結ぶべき実とは何か、確認しよう。

〈指導上の心得〉

このテキストは、聞く者に①神の赦しの大きさを知らしめ、②神の赦しの大きさにあまりにも無頓着であることの反省を迫るものである。この物語を通して、私たちは、支配する者から仕える者へと変えられる。それは聖霊による再創造の恵みにあずかった者の新しい姿である。

〈展開例〉

(1) 神の赦しの大きさを知る

1万タラントン = $(x \times 6,000 \times 10,000)$ 円。
 x は1日の労働賃金。任意の額をあてはめて計算してみよう。巨額の数字になることがわかる。これに対し、100デナリオンは $(x \times 100)$ 円。自

分が神にすべての罪が赦されているのを忘れて、隣人のほんのわずかな罪をも赦せない人間の典型が、この数字にあざやかに示されている。

(2) 仲間を許さない家来

仲間を許さない家来にびつたりの言葉があります。→自己中心。

聖霊によって、罪の赦しと神の義を、感謝して受け入れる信仰が与えられない限り、人の心はいつまでたつても神の方に向かず、自分の方ばかり向いている。

(3) 聖霊の実

聖霊の実が自分に実るように、祈り求めよう。聖霊はあなたが求めるのを待っておられる。聖霊はあなたにそれができる力をまちがいでなくくださるのだから、求めよう。

Q. 借金が帳消しにされた家来が結ぶべき聖霊の実とは何であったか？ A. 仲間を赦すこと

〈目標〉

私たちの罪がゆるされるのは、私に代わってイエス様が神様の義を満足させてくださったことによるのであって、私たちはキリストと結びつく事によってイエス様の義を自分のものとする恵みをいただくことができることを確認する。

〈展開例〉

先週、聖霊なる神様が私たちをイエス様と結びつけてくださることによって、イエス様が持つておられる神様からの恵みのすべてをいただくことができるということを学びました。イエス様が神様からいただいた恵みは、まず、「義＝神様の前で正しい」と認められたということです。今日はそのことを中心に考えていきましょう。

○「義＝神様の前で正しい」ということ

イエス様は、子なる神様でありながら、神様に仕えるために造られた人間と同じ身分になってくださいました（フィリピ 2:6,7）。そして、イエス様はこの世の生涯においても、苦しい十字架の死においてさえも、神様にまっすぐに従って行かれました（フィリピ 2:8）。十字架の死を前にしても。イエス様は自分の苦しみを取り除かれる事よりも神様の御心が行なわれることを祈られたのです（マタイ 26:39）。このように、イエス様は神様に対して完全に従われました。そのことこそが、神様に造られた人間が本来しなければならないことでしたし、神様に従うより自分が神様みたいになりたいと思ってしまった人間にはできないことなのです。

神様に完全に従うということは、神様の命令である律法（十戒）を完全に守ることであります。イエス様は、神様に完全に従うことによって、律法を完全に守り、神様の前に正しい＝義である、と神様から認められました。それだからこそ、十字架の上で一度は死んだイエス様はよみがえり、天の父なる神様のところへと昇られたのです。

○私たちへの適用

完全に神様の前に正しいイエス様が十字架にかかって死なれたのは、私たちのためでした。神様は、そのままでは減んでいくしかない私たちを

われに思われ、私たちを救い出すためにイエス様を救い主として与えて下さったのです（ヨハネ 3:16）。罪のないイエス様が、私たちの罪を負って罪ある者として十字架にかかれたからこそ、私たちは自分では何の善いこともできなくても、神様の前で正しい者＝義であると認めていただけるのです（Ⅱコリント 5:21、ローマ 3:24-25）。そのことによって私たちは罪がゆるされ、天の御国へと入る資格が与えられるのです。

○キリストとの結びつきによって

しかし、このイエス・キリストが神様に完全に従ったことによって認められる人間の「義」は、すべての人間に適用されるわけではありません。ただ、聖霊なる神様によってキリストと結び付けられた者だけが、キリストを通してその恵みを神様から注がれるのです。聖霊なる神様が働かれるのは、私たちの側に善いところがあるからではありません。私たちの側のどんな理由にもよらず、ただ神様の一方的な恵みによって選ばれ、恵みによってキリストとつながれ、「義」と認めていただけるのです（ローマ 3:24）。

本来神様に背を向けたがる私たちが神様によって選ばれ、こうして教会に招かれて神様の御言葉を聴いているというのは、全くもって神様の恵みによる「奇跡」と言うほかありません。私たちは、こうして教会に来ているということによっても、神様が私を選んでくださるということを確認することができます。私たちは、それぞれがキリストに結び付けられ、聖霊なる神様の働きによってイエス様を救い主と信じる信仰を持つことができます。神様の前に全く正しいイエス様の十字架によって、私たちも「義」と認められて罪がゆるされ、天の国へと導かれるのです。罪のゆるしは私にももたらされています。

〈祈り〉

天の父なる神様、今日は、神様の前に全く正しかったイエス様の十字架のゆえに私たちの罪も赦されていることを学びました。どうか、これからも、イエス様に結びつけられている恵みを感じ、感謝することができますように。アーメン。

テキスト

ルカによる福音書 15章 11 ~ 24 節

聖書研究は、ルカによる福音書 15 章 11 ~ 32 節を取り扱います。

放蕩息子の譬えとか、二人の息子の譬え、父の愛の譬えなど様々な呼ばれ方を持つ譬え話です。15 章から続く、失われた者の立ち帰りによる喜びを主題とする譬え話集で、立ち帰りには父の歩み寄りが決定的因子なので、立ち帰りの喜びとそれに導く父の愛こそが主題です。

(1) 弟

15 章 1 ~ 2 節に徴税人罪人が話を聞くために来ていて、それにファリサイ派と律法学者たちが不平を言い出したとありますから、ここでの弟は徴税人罪人であり、異邦人読者です。兄とは不平を言い出した学者たちでしょう。弟は財産分与を願い、換金して旅立ってしまいます。そして「何もかも使い果たし」「ひどい飢饉」にあり、憎むべき「豚の世話」と「いなご豆」さえもらえぬ状態に落ちたとき、「我に返った」のです。「父のところに行って言おう」とは立ち帰りの心です。立ち帰る弟を父は息子として迎えます。それも単なる回復ではなく、祝宴を開くほどの喜びをあらわします。父によればその喜びは「死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかった」というものなのです。持っている時、安定な時ではなく、すべてを失ったときにこそ、真に大切なものと我とが見えてくる典型例です。

(2) 兄

失われていたのは弟だけではなく、兄をもそうだったことが、弟を迎えることによって明らかになります。兄は「何年も仕えている(奴隷でいる)」と思っていました。「言いつけ」にしばられ、「友達と宴会をする」ことに心が向く点で、父とは一緒に過ごす喜びを味わったことはありません。

弟によせ兄にせよ、父と一緒にいるということでは、どちらも失われていて死んでいるのです。つまり父と一緒にいること、生きていることとは、財産や場所によるつながりではなく、父の愛に生きていることを指すのでしょう。

(3) 父の愛

この立ち帰りには父の愛が決定的な因子であることに気づかなければ、この譬え話の大切なメッセージは損なわれてしまいます。弟は「父のところでは」と父の豊かさを思い起こしています。いじける兄に対しても「わたしのものは全部お前のものだ」と父は諭します。死んでいた弟の立ち帰りに、「まだ遠くに離れていたのに、父は走り寄って抱き、接吻」しましたし、怒って家に入ろうとしない兄にも「父親が出てきてなだめた」のです。こうして父の豊かさや率先した歩みよりも息子たちを生き返らせる真の原因です。

我に返って立ち帰ろうとする心を持つことは大切なことですが、その立ち帰りには父の歩み寄りがあること、失われたものに対する父の深い愛情があることが明示されています。父の立ち帰ったときの喜び方、見つかったときの喜び方がそれをあらわしています。

カテキズム 子どもカテキズム 問31
 ウェストミンスター小教理問答 問34
 ハイデルベルク信仰問答 問59

子どもカテキズム

問31 救いとは何ですか。

答 神さまの子どもとされることです。そのために、神さまは私たちの罪を赦して義と認めてくださいました。ですから、私たちは、喜びと感謝をこめて、「私たちの父なる神さま、私の天のお父様」と呼びびます。

ウェストミンスター小教理問答

問34 養子とは何ですか。

答 養子とは、神の無償の恵みの決定であって、それによってわたしたちは、神の子らの教に入れられ、神の子らのあらゆる特権をもつものになります。

〈義認、罪の赦しから神の子へ〉

先週に引き続き、問31から学びます。今回は、「神の子とされること」です。「救いとは何ですか」と問うて、「神さまの子どもとされること」と答えます。通常、私たちは「救いとは義認である」と考えます。もちろん、その通りです。しかし、救いとは義認でとどまるものではありません。義認はむしろ手段であり、目的ではありません。義認は、私たちが「神の子とされること」を目指しています。私たちは、義と認められ罪赦される恵みにとどまるのではなく、神の子として生きなければなりません。「救いの恵みの豊かさは、私たちが神の子として生きることにある」。この問答は、この確信を告白しています。

〈神の御子キリスト〉

私たちの主イエス・キリストは、へりくだって人となれましたが、同時にまことの神であるお方、神の御子なるお方です。使徒信条は、このお方こそが神の「独り子」であると告白します。

私たちは、聖霊によってキリストを主と信じる信仰が与えられて、救いに入れられます。すなわち、神の子とされます。これは聖霊によるキリストとの結合によって与えられる恵みです。キリストが神の子であるならば、キリストと一つにされた私たちも神の子なのです。キリストは独り子として神の子であり、私たちはキリストと結び合わせられて、養子として神の子とされたのです。

〈神の国を受け継ぐ〉

神の子とされた私たちは、キリストと共に神の国を受け継ぎ、その豊かさにあずかります。それは、第一には永遠の命の祝福であり、神共にいます幸いにほかなりません。しかし、神の子とされた祝福の眼目は、この地上において与えられる祝福にあります。私たちに、終末において明らかになる神の国だけではなく、そのひな形としての教会が与えられています。神の子とされるとは、神の民とされ、キリストの体なる教会に加えられることなのです。すなわち、私たちは、教会と共に歩むことによって、神の子として霊的に養われます。礼拝において御言葉と礼典の恵みにあずかり、また信徒として教育され訓練されます。互いに赦し合う恵み、執り成し合う恵みを経験します。これこそ、御父が霊的に私たちをはぐみ成長させてくださる方法（恵みの手段）です。教会に生きることこそ、神の子として生きることです。

〈信頼と謙虚さと大胆さ〉

子どもは親を信頼し、謙虚にすべてを委ね、依り頼みます。すべてを親に期待して、大胆に願い求めます。私たちはそのような神の子どもとして生きるのです。主なる神は父として、私たちがみもとに帰ること、すべてを期待し依り頼むことを願っておられます。私たちが依り頼むことを御自身の喜びとしてくださいます。信頼と感謝と喜びのうちに、「アッパ父よ」と呼び求めるのです。

ルカによる福音書 15章 11 ~ 24 節
子どもカテキズム 問 31

「放蕩息子のたとえ」

〔単元のねらい〕

問 31 の二回目。今回は神の子とされる教理を説く。テキストは、本誌創刊号でも取り上げた。福音の真理、喜びを明らかにするために、何度語っても飽きない。同じ物語を繰り返して語り続けることも子らの礼拝説教として許されるし、むしろ大切とも考える。しかし、現実には、またそのお話か、と言う反応を示す子もいるかもしれない。それだけに本日の説教者には、生き生きとした新しい感動を込めて物語る事が求められよう。問 2 で、神さまの子とされることが神の栄光をあらわすと学んだ。本カテキズムの基調音は、子とされる恵み、救いの喜びである。神を天のお父さまと呼べることの感動、感謝、その喜びを生き活きと物語り、父なる神の愛を子らの心深くまで届け、響かせたい。

ある人に二人の息子がいました。二人は、お父さんと力を合わせて働いていました。ある日の事です。弟がお父さんに言いました。「お父さん、僕の貰えることになっている財産を今下さい。」お父さんは、お兄さんと弟に、財産を分けてあげました。すると、弟は、ヤッターとばかりに、遠い国に旅立って行きました。弟はそこで、お金をどんどん使ってしまった。好きなだけ食べて好きなだけ物を買って、遊べるだけ遊んでしまいました。悪い友達も一杯できました。その友達は言いました。「一緒におもしろおかしく使っちゃおうよ。」たくさん持っていた筈のお金も、すっかりなくなっていました。ちょうどその時です。この弟が住んでいたところにひどい飢饉がおこりました。飢饉というのは、雨がふらなかつたり、雨が強く降りすぎたりして、畑のお野菜やお米がとれなくなってしまうことです。食べる物にも困ってしまいました。仕方がないので、昔お金をあげた悪い友達のところに行きました。そして言いました。「お願いします。もう、何日も食べていません。」すると友達は言いました。「ふん。何のようだ。お前に食べさせるものなんかありませんよ。」弟は、それでも必死でお願いします。「僕をあなたのところで働かせてください。」「そうか、それなら豚の世話でもしていろ、泊まる場所はないからな、豚小屋と一緒に寝ていたらいいさ。」本当は、豚を飼ったり触ったりするのは、ユダヤ人はしてはいけないと教えられていたので

す。けれども仕方ありません、弟は、一生懸命働きました。ところが、昔の友達は、ぜんぜん食べ物くれません。「アー、もうおながすいて死にそうだ。」弟は、豚の餌の「いなご豆」を見ただけでよだれが出てきてしまうほどでした。

その時です。弟はハッと気がつきました。「僕はこんなところで何をしているのだろう。でも、僕にはお父さんがいるんだ。お父さんの所には大きな畑があるし、牧場もある。大勢の人達が働いて、有り余るようなパンがあるんだ。」弟は、初めて自分が今、どんなに惨めな姿になっているか、気がついたので。本当は、いっぱいお金を持っていたのに、お金の使い方を間違えていた自分。本当は、立派なお父さんの子どもなのに、豚の餌を食べている自分。今自分がどんなに、人間らしい生活から離れているのか、どんなに、神さまから離れて、神さまを悲しませ、神さまに罪を犯していたかということにやっと気がついたので。

これは、譬えのお話です。イエスさまは、もしも僕たち私たちが、神さまから遠く遠く離れてしまったら、この弟と同じなのですと今日、教えてくださいとおられます。でも、どうですか。私たちはこんなふうに思うかもしれませんね。「エーッ、イエスさま。僕は、豚小屋で寝ていません。豚の餌なんか食べてません。」このお話は譬えです。僕たち私たちが神さま、イエスさまから離れて生きているのなら、神さまの前に死んで

いるのです。神さまから離れてしまったら、何のために生きるのか。何の為に勉強するのか。なんの為に遊んでいるのか。何のためにご飯をいっぱい食べて元気になるのかが分かりません。それらは、神さまのお役に立つためにするのです。それができなければどんなに頭がよくても、強くなっても、お金持ちになっても、神さまがお造りくださったすばらしい人間として生きていることにはなりません。

さあ、この弟はどうするのでしょうか。ハッと自分の惨めさに気づいた彼は、心のなかで言います。「ヨシ、家に帰ろう。お父さんのところに帰ろう。そして、こう言おう。ごめんさい。私は神さまに、そしてお父さんに罪を犯しました。もう、息子と呼ばれる資格はありません。でも、働かせてほしいのです。」弟は、お父さんの所に帰って行きます。家を出るときはびっかびかのお洋服。でも今は、ぼろぼろに汚れた服を着て、とぼとぼと帰って行きました。その頃、お父さんは何をしていたのでしょうか。毎日毎日お屋敷のベランダにいて、遠くのほうを眺めていました。弟が帰ってくるのを待っているのです。そんなある日、家に近づいてくる、それはそれは汚い男の姿を見つけました。するとお父さんは、階段を駆け落ちるように降りてきて、全速力で何度も転びながらそ

の汚れきった服の男のほうに走り寄ります。「おい。息子よ。」お父さんは一目でその男が息子だと分かるのです。毎日毎日お祈りしていたからです。お父さんは抱きしめ迎え入れます。そしてすぐにお屋敷にいる人々に言いました。「息子が死んでいたのに生き返った、死んでいたのに生き返った。良かった良かった。皆でお祝いの準備をしてくれ。」

このお父さんは、天のお父さまのことですね。私たちは、この天のお父さまのおられるところから離れては、この息子と同じなのです。でも、天のお父さまは、なんとしても、私たちが帰ってくるのを待っておられます。待っておられるだけではなく、イエスさまを私たちのいるところに送ってくださって、捜しに来て下さったのです。迎えに来て下さったのです。

最後にカテキズムの間1を暗唱しましょう。神さまの栄光を現すって言うことは、イエスさまに救われて、神さまの子どもにさせていただくことなのです。この息子は、ぼろぼろに汚れた服のまま帰ってきました。でもそこにもう神さまの栄光は現されていたのです。僕たち私たちも、イエスさまを信じれば、天のお父さまの子どもとされて、神さまの栄光を現すことができます。

今週の暗唱聖句

あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、
神の子とする霊を受けたのです。

この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。

ローマの信徒への手紙 8章 15節

〈展開例〉

今日はお父さんと息子二人のお話でした。お兄さんとお弟がでてきたね。

・・・このお父さんは天のお父さま、神様のことです。みんなはお父さんやお母さんが大好きだよね？一緒に居ると、とっても嬉しいよね 天のお父さま、神様と一緒に居ることは、それよりももっとも嬉しことなのです。そして天のお父さまは、いつもみんなが帰ってくるのを待つて居てくださり、帰っていけば本当に喜んでお祝いして下さるのです。

神様のところに帰るっていうことは、今日のように教会にくること、毎日お祈りすることです。

〈祈り〉

てんのおとうさま。

神様を「お父さん」と呼ばせてくださり、神様の子どもとして下さりありがとうございます。いつも神様と一緒に居られますように、私たちを導いてください。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉

130ページに掲載いたしました。

〈礼拝説教のおさらい〉 ルカ 15:11-32

- 序 ・「見失った羊」「無くした銀貨」、いずれも持ち主は真剣に捜し回ったゆえ、見つかった時の喜びは大きいのです。
- 本 ・父の愛を裏切り出ていった息子を、信じて待ちつづけた父は、息子が悔い改めて戻って来た時、全てを赦し迎え入れました。
- 結 ・「死んでいたのに、生き返った」と喜んだように、神さまから離れている者を「死んでいる」状態とご覧になる神さまは、その悲惨さをよくご存じです。神さまのもとにもどり、神さまの子として迎え入れられることが、「救い」です。

〈やってみよう〉

- ゲーム「お家に帰ろう」 -

材料 ・お札（さつ）の大きさに切った新聞紙を一人五枚ずつ。

遊び方

- ①一人に五枚ずつ、新聞紙のお札（さつ）を渡す。
- ②決められた時間の中で、出来るだけ多くの人とジャンケンをする。負けた人は、勝った人にお札を一枚、渡す。
- ③手元にお札がなくなった人は、「そうだ、父のお家に帰ろう」と言って教師のもとに帰ることが出来る。
早く、帰った方が勝ち！
ジャンケンに勝ちつづけていると、お札が手元に残り、帰れない。

* 父なる神さまのもとにもどることの幸いを話し合いましょう。

* 神さまに愛されている自分であることを喜ぶことができますように。

伝言板

「私ね、自分が思ってるよりも、
神さまははるかに素晴らしく
その人をつくってくださってると思うの。
そのことにいつ気がつくかなのよ」

三浦綾子

『銀色のあしあと』より

一番、近くにいる人の良さは、見えにくい。
おとうさん、おかあさん、妹・・・。
一番、近くにいる人よりもっと近くにいる「じぶん」の良さは、もっと見えにくい。
神さま、もっと耳もとで、「わたしの目にあなたは何高く、貴い」とささやいてね。



〈目標〉

子とされる恵みを覚える

〈指導上の心得〉

自分自身が今、神様に子とされていることがどれほど大きな恵みであるかを確認する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・放蕩息子のたとえについて話し合う。礼拝での説教の確認。父とは誰か。弟息子とは誰か。
- ・弟息子は家を出て父のもとを離れていた。それと同じように私たちも神様のもとを離れ、好き勝手に生きていた。
- ・神様は救い主を与えて下さり、その罪多き人間が立ち返るのを待っていて下さっている。
- ・この神様は、立ち返ったものを「お前など知らない。奴隷の一人だ」とはおっしゃらず、自分の愛する子として迎え入れて下さる。

〈ワーク〉

1. 今日のお話しのお父さんとは誰でしょう。
a) どこかのおじさん b) 神様 c) イエス様
2. イエス様を信じる前の人間は、このお話の兄弟のお兄さんかな、弟かな？
3. 次の暗号を解いてみよう。これは簡単！
で、人間の力で得ることはできないのです。み恵るさ下てえ与が様神、はれこ。たしまいさり、御子を信じる人を神様の子として下さだくてつ送を子御に間入るあで人罪、は様神
4. ローマ 8:15 を書いて覚えましょう

答え 1. b 2. 弟 3. ヒント右下から読む

〈目標〉 兄→律法学者→私

〈指導上の心得〉

今回は、たとえ話が語られた場面を再現し、イエスさまの救いのメッセージは、誰に語られ、また今も誰に語られているのかを考えてみたい。私たちは、兄の立場に自分を置くこともできるのではないだろうか。そして、心底神の子になりたいという思いに導かれたい。

〈展開例〉

【①場面設定】(絵を用いたい。また簡単なシナリオをつくり、ロールプレイングすると実感がわいてくるかも)主イエスは、お話を聞こうと近寄ってきた罪人や取税人たちをあたたかく迎え、一緒に食事をした。(もちろんそこには弟子たちもいた。)それを見たファリサイ派の人々や律法学者は、「この人は、罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言った。この場面は、放蕩息子のたとえの、ある場面とそっくりである。

それは、兄が父に不平を言う場面である。

【②主イエスの意図】兄の気持ちを考えると、ファリサイ派や律法学者たちの気持ちがわかる。そのような彼らに放蕩息子のたとえをお話しになった理由は、外面だけ神の戒めを守り、心は貪欲にまみれ、名誉欲と差別心にとらわれている彼らの罪をあらわにし、いつまでも救いの手を差し伸べつづけてくださる、天の父のふところに立ち返るよう願ったからである。

【③兄はかわいそう?】私たちの多くは、弟よりもむしろ兄に近い。案外、兄がかわいそうと思う人は多いのではないだろうか。私たち人間は、人をねたみ、差別する心をぬぐうことができないものである。また私たちの教会生活は形式的になっていないか。神を喜んでいるか。不平不満はないか。ファリサイ人や律法学者の行き過ぎた選民意識と形式主義ほどでないにしても、私たちは確かに弟よりも兄に近いのである。

〈目標〉

キリストと結ばれることによって義とされ、罪ゆるされた私たちは、それだけではなく、神の子とされる恵みの内に入れられている。本来ふさわしくない私たちが神の子とされることについて、神様の恵みをさらに確認する。

〈展開例〉

私たちは、お祈りする時に「天の父なる神様」と呼びかけます。神様が私たちのお父さんだということは、当たり前のごとくに思えます。何といっても、神様は私たちが何もないところから造られたのですから。しかし、それでは、神様は、猫にとっても犬にとっても、山にとっても川にとっても「お父さん」だという事になってしまいます。

○私たちは、本来、神の子ではない

私たちは神様に造られたけれど、本当の意味では神様の子どもではありませんでした。神様は人間を「この地上を支配する者」として特別にお造りになったけれど、それでも「神様に造られた者」であって「神様から生まれた者」ではありません。

それに、神様が人間を特別なものとしてお造りになったとしても、「本当の子どものように大切にしよう」と思っておられたとしても、人間はその神様の御心にそむいて神様のところから離れていった者なのです。神様に従うよりも自分が神様みたいになって好きなようにしたいと考える者なのです。

今日の礼拝のお話の「放蕩息子」は、お父さんの家を出て勝手に好きなことばかりして、「もう息子と呼ばれる資格はありません」と言っています。神様から生まれたのではなく、神様に造られた者に過ぎず、しかも神様にそむいて神様のもとから離れていった私たち人間は、神様の子どもと呼ばれる資格、神様をお父さんと呼ぶ資格はないのです。

○神様の子としていただく

しかし、そんな私たちを神様は「私の子ども」と呼んでくださいます。このあいだから、私たちはイエス様に結ばれているということをお話して

きていますが、私たちはイエス様に結ばれる事によって神様の子どもとされるのです（ガラテヤ 3:26）。

イエス様は神様の本当の子どもです。そのイエス様が私たちの罪の身代わりとなってくださり、私たちは、聖霊なる神様の働きによってイエス様と結び付くことによって、神様は私たちがイエス様と同じ「子ども」として見てくださるのです。ですから、すべての人間が神様の子どもなのではありません。聖霊なる神様によって造り変えられ、イエス様を救い主と信じる人たちだけが、神様の子どもとされるのです（ヨハネ 1:12）。

○神の子とされる恵み

神様の子どもとされると、どんなよいことがあるのでしょうか。

まず、子どもは親の財産を受け継ぐことができるということです（1ペトロ 1:4）。私たちは、天国で神様の御国を継ぐことができるのです。御国での永遠の命、神様とともにある平和で満ち足りた日々、これは決してなくなることは無いものなのですが、それをいただくことができるのです。そして、この世にあっては、子どもである私たちは、親である神様に守られ、必要なものが与えられ、悪い事をした時にはおこられ、それでも決して見捨てられることはないのです。

神様は、子どもとしてくださる私たちを、ご自分の御心のままに選んでくださいました（エフェソ 1:4-5）。私の側には神様の子どもとしていただけるような理由は何一つないけれど、神様は一方的な恵みによって私を選んでくださり、こうして神様のもとに、教会に導き、私の子どもたちと呼んでくださるのです。

〈祈り〉

天の父なる神様。こうしてあなたを「お父さん」と呼べることも、私たちがイエス様に結ばれていることの恵みであることを学びました。私たちが、あなたの子とされていることの恵みをいつも感謝することができますように。主イエス・キリストの御名によって、お祈りいたします。アーメン。

テキスト

ヨハネによる福音書 13章1～20節

この箇所は主イエスによる洗足が記されている箇所です。そこに記されている二つの側面に注意しつつ、この御言に聞いていきましょう。

(1) 弟子たちをこの上なく愛する主

主が父のみもとに移る時を悟り、世の弟子たちを「この上なく愛し抜かれた」。これは、このところの序となる部分です。「この上なく」とは、恐らくここでは「極限まで」愛すると言うことであろうと思われます。ユダの裏切りがその直後に書かれています。そのユダの悪魔的決断をしているのと同じ時に、主は愛情に満ちた奉仕を続けているのです。主イエスはユダの裏切りのことをもご存知です。そして、その弟子をも愛され、愛の奉仕をなさるのです。

(2) 洗足

主は弟子たちの足を洗われました。当時、一般民衆の履き物はサンダルのようなもので、舗装されていない道路ですから外を歩くと埃だらけになり、普通召使いが客の足を洗ったのです。本来は召使いの仕事なので、召使い以外が足を洗うことは謙遜を意味したのです。また、新約時代では、洗足が一つの儀礼ともなっていたようです。

(3) 僕の姿としての主

ここで、主が弟子の足を洗われたことは、人間に仕える僕としての神の御子の姿です。つまり、罪人の救いの御業のために、自らの命を与えるために僕となられた御子の姿を示されたのです。

(4) 「もし私があなたを洗わないなら」

ベトロは主に足を洗っていただくのを拒否します。それは、彼がここでも人間に仕える僕としての神の御子の姿を理解していなかったからです。その様なベトロに主は「後で、分かるようになる」と語られます。この「後で」とは、12節以下の御言葉との結びつきで理解することもできます。しかし、それ以上に、これは十字架と復活の後にしか悟ることができない深い意味があることを示

しているのです。つまり、復活の後、約束の聖霊が、この奴隷の低さまで下った行為の意味を弟子たちに説明するときに分かることを、示しているのです。

それで、ベトロは主による洗足を拒否しますが、それを拒否することは主との関係を失ってしまうことを意味すると言われるのです。また、さらには、その洗いは一度だけでよいとも言われています。つまり、主イエスの洗いの一回性が強調されるのです。

主イエスによって洗われることは、十字架の出来事の中に象徴的に私たちが引き込まれることです。そして、その十字架の血による清め御業の一回性と、その血による清めによって主に結ばれるという意味がここには含まれるのです。主イエスと関わりを持つために、人は主イエスによって洗われなければならないのです。つまり、この箇所の第一の側面である、救済的な意味を持つ行動として、ここに示されるのです。

(5) 主に倣う僕の姿

12節以下には主による洗足の行為のもう一つの側面が示されています。12節以下では救済の行為の象徴としてではなく、弟子たちの模範として、主がこの行為を説明しておられます。

「あなたがたは、私を『先生』とか『主』と呼ぶ」。これは、儀礼的な呼び方ではなく、神的な教師であり、また主です。その様な先生また主が弟子たちに対して、僕の務めをして見せたのです。そして、主は、その主に結びつけられた者として、その弟子として、主に倣い、人に仕えられた主のように、互いに仕える者となることを求められたのです。

(6) ユダの裏切り

このところで主は詩編 41編 10節を引用し、その成就であり、神様がご計画なさったことであることを示されるのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問32,33
 ウェストミンスター小教理問答 問35,36

子どもカテキズム

問32 救われたあなたはどうなりますか。

答 聖化の歩みを始めます。

問33 聖化の歩みとは何ですか。

答 神さまの子どもとして、罪に死に、神さまの御子イエスさまのお姿に似せられていくことです。神さまに愛されている喜びのうちに、私たちが神さまを愛して歩みます。

ウェストミンスター小教理問答

問35 聖化とは何ですか。

答 聖化とは、神の無償の恵みの御業であって、それによってわたしたちは、神のかたちにしたがって、人としてすべてが新しくされ、ますます罪に死に、義に生きることができるようになります。

〈聖化の位置づけ〉

今回と次回の二回にわたって、「聖とされること」「聖化」について学びます。

まず、「聖化」と「義認」、「聖化」と「子とされること」との関係を理解しておきましょう。

すでに私たちは、義とされて救いにあずかることを学びました。私たちは、聖霊によってキリストと結び合わせられることによって、義とされています。この「義」とは、主なる神と私たちとの関係が正しい、歪んでいないことを言い表す関係概念です。それ故に、義認は、キリストの義を根拠する、一回的・宣言的な神の側の決定です。

それに対して、「聖」とは本来神の性質であり、神が超越的・絶対的なお方であることを言い表す実質概念・状態概念です。それ故に、「聖化」とは、実質的・継続的な聖霊の働きであり、私たちが内側から新しくする神の御業です。聖化は、私たちの内に働く神の御業を表しています。

「子とされること」は、この両者を結んで包含しています。養子は、一回的な決定であると同時に、子として生きることを含みます。神の御業によってはぐくまれ成長させられる神の子としての歩みこそ、聖化の歩みにほかなりません。義認は子とされることを経て、聖化を目指しています。

〈キリストのかたちへの回復〉

私たち人間は、神にかたどって神のかたちに造

られました。その一つが、「聖」であること、すなわち神の聖性にあずかること、神によって取り分かれたり、神のものであることです。しかし、人は罪を犯し、神のかたちを失いました。神の聖をも失いました。救いとは、この神のかたちを回復し、再び聖とされることにほかなりません。

それは、私たちキリスト者において、キリストと一つにされ、キリストのかたちに似せられることにほかなりません。私たちは、キリストの聖性にあずかることによって、キリストのものとして取り分かれるのです。私たちはキリストを主とし、キリストにかたどられ、似せられるのです。私たちは、恵みにより、この幸いにあずかっています。キリストに、私たちの聖化の歩みの根拠があります。この恵みによって、私たちは自らをキリストに捧げて、キリストのものとして生きるのです。感謝の歩みとして、キリストに倣って生きるのです。

〈キリストの洗足〉

主イエスがベトロの足を洗われた出来事は、主イエスがベトロの罪を担い、ベトロを御自身のものとして取り分かれたことを表しています。キリストの御業がベトロの聖化の根拠です。この御業に基づいて、互いに仕え合うことが命じられます。私たちの奉仕や捧げものは、キリストに根拠があります。キリストに仕えることなのです。

ヨハネによる福音書 13章 1～20節
子どもカテキズム 問32, 33

「御子の姿に似せられて」

〔単元のねらい〕

キリストとの結合の恵みを生きる者は、聖化の歩みを重ねる。聖霊による恵みの中で、栄光から栄光へと主と同じ姿に変えられて行く。真の人なるイエス・キリストのかたち（人格）をキリスト者個々人がそれぞれの人生の中に獲得する道のりが聖化である。聖霊は、変わらない恵みの内に信じる者の内に働きつづけ、それを成しつづけて下さる。聖霊と御言葉はキリスト者に、自覚的な聖化を求めて歩むことを要請している。靈性の向上に日々努めて行きたい。洗足の御業をテキストに選定したのは、聖化の恵みが、まさに恵みの御業であり、同時に、それを受けた者の課題であることを確認するためである。

いつものように、イエスさまはお弟子さんたちと夕食をとっておられました。けれども、その日は、いつもと少し様子が違います。イエスさまはもうすぐ、ご自分が十字架にお付きにならなければならぬと悟られていたからです。つまりもう、愛するお弟子さんたちとこのように楽しくお食事を頂くことができなくなってしまうのです。イエスさまは弟子達のことをこれ以上はないと言うほどの愛で愛し続けられました。その時です、イエスさまは、立ち上がって上着を脱ぎはじめられました。弟子たちはいったいこれから、何をなさるのだろうかとじっと見つめています。すると、イエスさまは、たらいに水を酌んで弟子たちの足を洗いはじめました。そして、腰にまとった手拭いで拭きはじめられました。

イエスさまのユダヤの国とその時代は、人々は裸足で歩いたり、草履のようなものをはいて歩いていました。土の道路です。歩けばすぐに、ほこりだらけになります。ですから、その家の奴隷は、ご主人様がお帰りになると、その足を洗って水で拭くのです。つまり、ここで、イエスさまは、お弟子さんたちに奴隷のようなかっこうになられて足を洗いはじめられたのです。ですから、お弟子さんたちはびっくりしていました。

イエスさまは次々に洗って行かれ、ペトロのところに来られました。ペトロは、言いました。「イエスさま、あなたは主です。私たちの先生です。ですから、足を洗ってもらうことなど決してできません。」すると、イエスさまは仰いました。

「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる。」これを聞いてペトロは今まで以上に驚いて、こうお願いしました。「主よ、足だけでなく、手も頭も洗ってください。」つまり、ペトロさんは、愛するイエスさまから、何の関わりもなくなってしまうと言われて、びっくりしてしまったのです。そして、そんなことが絶対ないように、身体中を洗って下さいとお願いしたのです。イエスさまは、にっこり微笑んで仰いました。「大丈夫、心配しなくても良いのです。あなたがたは、既に、きれいなのです。私を信じているでしょう。洗礼を受けているのだから心配ありません。」

そうして、全員の足を洗い終わったときにイエスさまは仰いました。「私は主であって、あなたがたの先生でもあります。この私が、奴隷のように、僕のようにあなたがたの足を今洗いました。それは、あなたがたに模範を示すためなのです。あなたがたも、お互いの足を洗いあいなさい。」

イエスさまに、足を洗っていただいた、お弟子さんたちは、どんな気持ちでしたでしょうか。お弟子さんたちは、お父さんやお母さん以外に、自分の足を洗ってもらったことなどなかったかもしれません。何か、くすぐったいような、申し訳ないような、困ってしまうような気持ちで洗われていたと思います。イエスさまは12人の足、つまり、24本の足をずっと洗いつづけたのですから、手は臭くなってしまったはずで、

一体、このイエスさまの行動は何の意味がある

のでしょうか。一つハッキリしていることは、お互いに、足を洗いなさいという命令です。つまり、お互いに仕えあいなさいということです。イエスさまを信じる者たちのなかで、誰が一番偉いのか、そうでないのかなどと言いつつはならない。主、神さま、王様であるイエスさまが、奴隷のようになって、足を洗って下さったのですから、イエスさまを信じる人は、イエスさまのように、仲間の足を洗うことが大切なのです。そして、考えてみると、イエスさまがこれまでしてくださったことはすべて、ご自分のための業ではなかったのです。すべてお弟子さんたちのためであり、弱い人、苦しんでいる人、悲しんでいる人々の為だったのです。イエスさまは神さまで、誰よりも偉く強い王様なのに、私たちより低い立場になって下さいました。それは、人間となって、馬小屋でお生まれ下さったことを考えても直ぐに分かります。そして、その中でも、最も大きな御業は、僕たち私たちが救うために十字架についてくださったことです。つまり、イエスさまはお弟子さんたちだけの足を洗ったわけではありません。すべての人の足を洗って下さるのです。イエスさまの十字架の意味はそういう事です。イエスさまを信じている僕たち私たちは、皆、イエスさまに足を洗って貰った人です。それは、ただこの足のことでありません。僕たち私たちの足よりもっともっと汚いのは、

心の中にあります。汚い心、それは、自分の足を誰かに洗わせたい、つまり、自分が王様のように自分勝手に好きなようにやりたい、そのためなら、何でもしたいと思う心です。そんな僕たち私たちの心をイエスさまは、洗って下さいました。イエスさまを信じる人は、心を綺麗に洗ってもらった人なのです。

その人に、イエスさまは命令されました。「わたしは、あなたの心を綺麗に洗いました。十字架の血によって、きれいになりました。天のお父さまは、あなたの心をきれいな心として、見てくださいます。だから、あなたは、私の真似をすることが出来るはずですよ。私の真似をしてごらんください。」

先生は、イエスさまを信じています。だから、この命令を忘れません。でも、失敗ばかりして、自分の方が偉いんだと思って、汚い心になってしまいます。でも、諦めません。イエスさまは、すでに先生の心を清めて下さったのです。失敗してばかりの先生のためにも、イエスさまは十字架についてくださったのです。イエスさまとの係わりはなくなりません。だから、先生も努力します。そして、すこしづつイエスさまのお姿に似せられていることは、分かります。それは、聖霊の神さまが助けて下さっているからです。

今週の暗唱聖句

わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、

栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。

これは主の霊の働きによることです。

コリントの信徒への手紙 二 3章 18節

〈展開例〉

今日のお話のなかで、イエス様はお弟子さんたちに何をしてあげましたか？

・・・こうやって、一人一人の足を綺麗に洗って、そして拭いてくださったのです（真似をしてみる）。そうして、見本を見せてくださったのです。これは、わがママを言わないで、みんなで仲良くしなさい。まわりの人を大切に、敬し合いなさい、ということです。そして、必ず神様は、私たちがそのように出来るようにして下さると約束してくださっています。

〈祈り〉

てんのおとうさま。

イエス様が足を洗ってください、十字架につけられてくださり、ありがとうございました。イエス様に似た人になれるように助けてください。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉

131 ページに掲載いたしました。

〈礼拝説教のおさらい〉 ヨハネ 13:1-20

序 ・イエスさまは、十字架におかかりになる時が近づいていることを悟り、弟子たちと共に夕食の席につかれました。

本 ・深い慈しみをもって、弟子たちの足を、一人一人丁寧に洗い、手拭いで拭いてまわられました。ペテロさんの番です。ペテロさんはイエスさまに何と言ったでしょうか。

結 ・イエスさまが、召使いのように、心を込めて仕えて下さった姿は、弟子たちの心に残りました。「わたしがしたように、互いに仕え合いなさい」とおっしゃいました。

* イエスさまを、裏切ってしまうような、自己中心な罪深い弟子の足元にかがみ込んで、低くなって下さったイエスさまは、罪人の罪を清めるため十字架におかかりになって下さったのです。

〈やってみよう〉

- 足を洗い合う -

用意するもの

・バケツ ・足拭きタオル

・ぬるま湯

①椅子に腰掛けている分級のお友達の足を、互いに洗い合う。(その日の気温によって、冷たないように気をつける。風邪気味の子に配慮する。)

②洗ってもらった時、洗ってあげる時どんな気持ちでしたか、話し合しましょう。

* マザー・テレサの写真集や本があれば、子どもと一緒に見て、感想を話し合しましょう。

伝言板

「ペテロが『わたしの足など、決して洗わないで下さい』と言うと、イエスは、『もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたし何の関わりもないことになる』と答えられた」(ヨハネ 13:8)

子供のころ、家の庭で“チャボ”(鶏の仲間、羽が茶色い)を二羽飼っていました。餌は野菜が中心ですが、大好物は小さな虫です。はさみ虫やこおろぎ、ミミズ。それで私が、庭にある人間の頭くらいの石をヨイショとひっくり返してやると、横にひかえていた“チャボ”のハナコは、すばやい動作で石の裏の獲物を射止めるのです。石の裏は、見てあまり気持ちいいものではありません。じめじめしていてダンゴ虫、ミミズ、ゲジゲジ虫・・・たくさんいます。

教会に行くようになり、心に聖霊の光が照らされた時、この石の裏を思い出しました。外からは見えない心の内は小さい罪でいっぱいだと思います。



〈目標〉

足をきよめてくださった主イエスを仰ぎ、御子の姿に似せられる。

〈指導上の心得〉

主に聖められているが故に、主の姿に倣うことができることを思って指導する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・イエス様が弟子たちの足を洗われたことについてみんなで話し合ってみる。人の足を洗うことが嬉しいことかどうかを聞いてみる。
- ・主がこの僕の姿に倣いなさいとおっしゃっておられる。
- ・主イエスに倣うことは、普通にはできないことだが、イエス様によって聖められ、主イエスの力によって、できるようにされている。主イエスに委ね、同時に自覚的に努力する。

〈ワーク〉

1. なぜイエス様は弟子の足を洗われたのですか。
 - a) イエス様の仕事だったから
 - b) 皆に僕の姿を示すため
 - c) 皆に誉めてもらいたかったから
2. イエス様が弟子の足を洗って教えて下さったことはどれでしょうか？ 正解は一つとは限らないよ。
 - a) 人に誉められるためではなく、神様に喜ばれるために人に仕えること
 - b) このような良いことをすれば救われる
 - c) イエス様がして下さったように、イエス様にならって人に仕える
3. コリント二 3:18 を書いて覚えよう。

答え 1. b 2. aとc

〈目標〉

聖化の歩みとはイエスさまのお姿に似せられていくことである。

〈指導上の心得〉

聖書研究に解説されているように、洗足は①主イエスの救済行為（命を捨てる）の象徴であること、また②救われた私たちがならう模範であること、という2つの真理をしっかりと伝えたい。

〈展開例〉

(1) 場面再現

教師は主イエスにならって、場面を再現してみよう。上着を脱ぐ。大き目のタオルをとり、腰にまとう（バスタオルでもよい。まとい方は自分で想像して工夫してみよう。）洗面器に水をくみ、実際に子供たちの足を洗ってあげよう。（子供たちが嫌がったら、洗う真似だけでよい）上着を脱

ぐ行為は、命を捨てる行為を象徴し、てぬぐいを腰にまとうのは、奴隷の身なりであったことを説明しよう。

(2) Q&A

Q.主イエスの水による洗いは何を象徴しているのですか。 A.罪の洗い。

Q.主イエスは弟子たちの足を洗ったのち、弟子たちに何て教えられましたか。（ ）の中に正しい言葉を入れてみよう。

主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに（

）合わなければならない。（ヨハネ 13:14）

Q.「足を洗い合いなさい」とは、どういう意味か？

A.仕え合う。→ルカ 6:31

(3) ミニタオルプレゼント

白地のミニタオルに布地用マジックで、御言葉を書こう。いつも携帯して、人のためにも役立てよう。

〈目標〉

イエス様に結ばれ、義と認められて神様の子とさせていただいた私たちは、御国にふさわしい者へと作り変えられていく。それは、御子イエス様に似た者とされていく道のりであることを学ぶ。

〈展開例〉

私たちは、神様からの一方的な恵みによって、自分には何の善いところもないのに、イエス・キリストにむすびつけられ、イエス様が私の身代わりになって下さったことによって罪の無いものと認めていただき、神の子とされるということを手に入れました。今日は、神の子とされた私たちが歩いていく道のりについて考えましょう。

○御国にふさわしいもの

私たちは、聖霊なる神様の働きによってイエス・キリストにむすびつけられ、イエス様が神様に完全に従い、十字架にかかってく下さったことによって私たちが罪のない者＝義と認められて神様の子とされ、御国を受け継ぐ者としていただいたのですが、そのままの私は神様の御国にふさわしい者ではありません。

神様の御国にふさわしいのは、神様の完全な正しさを満足させる者です。神様の御性質である聖さ(6月24日教案)にならうものでなければ、神様の御国にはふさわしくないのです。

本来、人間は神様に造られた時には、神様にかたどって造られた者であったので(創世記1:27)、神様の御性質である「聖さ」も与えられていました。「聖さ」というのは、神様が他のどんなものとも比べる事ができない、特別な存在であるということです。人間は本来、そのような神様に似せられた、神様にふさわしい者とされていたのです。しかし、人間は、神様に従うよりも自分が神様みたいになりたいという「罪」をもってしまったため、神様にふさわしい者ではなくなっているのです。「義と認められた」とは言っても、それは神様からの一方的な恵みによってもたらされたものであり、私たちがふさわしい正しい者だったからではありません。イエス様のおかげで義と認められたとはいえ、私たちの本質はまだ神様

に違い者なのです。

○ギャップをうめるために

私たちが招かれている神の国と、私たち自身の現実のギャップは、私たちの努力でうめることのできるものではありません。神様の恵みによって選ばれ罪がゆるされているとはいえ、私たちは毎日の生活の中で神様に喜ばれない事ばかりをしてしまうものです。こんな私はいくらがんばっても、自分を神様の国にふさわしい者に造りかえることはできません。

それをしてくださるのは、聖霊なる神様です。神様に選ばれた私たちは、私たちの側にはそれにふさわしいどんな理由もないのに、神様からの一方的な恵みによって聖霊なる神様が働いてくださり、御国にふさわしい者、神様にふさわしい聖い者へと造りかえられていくのです。(Ⅱテサロニケ2:13)。それは、人間が造られた時のような、神様にかたどられた新しい人にされていくという道のりです(エフェソ4:23,24)。

私たちに与えられている、神様にかたどられた新しい人のお手本は、イエス様です。イエス様は人でありながら神様でもありましたから、神様の「聖い」性質もそのままにお持ちでした。私たちが、聖霊なる神様によって神の国にふさわしい、聖い者とされていく道のりは、イエス様に似た者とされていく道のりでもあります。

罪がゆるされながらも、この世の歩みでは罪から完全に自由になれないでいる私たちは、神の子とされたからといって、一瞬にしてイエス様のようになれるわけではありません。しかし、こうして教会に来ている私たちは、神の子とされて、多くの人々の中から神様の側に取り分けられた者です。私たちは確かに神様にふさわしい、イエス様に似た者とされる道のりの中にあるのです。

〈祈り〉

天の父なる神様。あなたの子とされた私たちは、聖霊なる神様の働きによって、あなたにふさわしい、聖い者とされていく道のりに入れられていることを学びました。ますます、イエス様に近づくことが出来るように導いてください。アーメン。

テキスト

マタイによる福音書5章43～48節

この箇所は山上の説教における反対命題の締めくくりになる部分です。この箇所の御言を注意深く読み、敵を愛するということを黙想してください。

(1) 「隣人を愛し、敵を憎め」との教え

「隣人を愛し、敵を憎め。」このような命令をしている箇所を私たちが探すのは不可能です。聖書にもユダヤ教にも、このような命令は存在しないからです。私たちが知ることができる命令は、「あなたの隣人を愛せよ」です。この「敵を憎め」との命令は、律法を解釈する時に付け加えられた説明なのです。「隣人を愛せよ」の解釈の中で、隣人が限定されて友人や家族などとされ、敵との間が区別されていたのです。ですから、隣人ではない者が愛のいましめから除外されたのです。

(2) 「敵を愛せよ」

「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」敵のために祈ることは非常に難しいことです。その祈りの対象はあくまでも敵であり、敵対者のままであるのです。その者たちのために祈りなさいと言われるのです。

この、敵のために祈るという事柄は、神様の視点から敵を見るという試みなのです。それは、人間の被造性と深く関係していることであり、また、人間性と関係してくることであり、つまり、自らの敵もまた、神のかたちに創造された人間であるということなのです。確かにその行いに対して怒りを持って、人は神様によって、神様に似せた者として創られている故に愛するのです。そして、その人間性が共通であることを認めて初めて、敵のために熱心に祈ることができるのです。

その根拠は「あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである」ということであるのです。神様は私たちが、神様に対して不従順であっても、私

たちを愛することがおできになる方であるのです。そして、その方は、私たちを憎み、敵対する者をも愛される方であるのです。そこで初めて、彼らのために熱心に祈ることができるのです。

このように言われるのは、神様の御意志がそうだからではなく、神様の本性が敵にも味方にも分け隔てなく恵みを与えて下さる方であるからなのです。その本性を受ける天の父の子となるためであるのです。つまり、自然界が神様の本性の反映を見せるように、天の父の子たる人間も神の本性を人々に示し、分け隔てなく愛することが求められるのです。

(3) 「完全であること」

自分と良い関係にある者、自分を受する者を愛することは誰にでもできることです。ですから、これは特別なことではない。神様に属したいと願っている者の愛は特別でなければならない。

その特別さは「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」と語られている事柄です。

私たちが完全となる。もちろんこれは、私たちの力では無理なことであり、非常に不可解な言葉です。しかし、この完全は一般的に言われ、また求められる完全ではないのです。

この完全とは、主イエスの完全さに根ざす完全さなのです。私たちは主イエスにつながるものとされ、主イエスの故に神様の御前に完全なものに見なされているのです。だからこそ、キリストの完全さの故に私たちは完全なものとなることができるのです。

(4) まとめ

この箇所は、敵や悪を大目に見よ、悪に目をつぶれと言っているものではありません。ここでは、復讐するという神様の権利を侵害しないように警告されています。そして、私たちにここで求められるのは、すべてを包括する神様の愛を反映させ、この世に神様の現実を伝えることであるのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問32,33
 ウェストミンスター小教理問答 問35,36

子どもカテキズム

問32 救われたあなたはどうなりますか。

答 聖化の歩みを始めます。

問33 聖化の歩みとは何ですか。

答 神さまの子どもとして、罪に死に、神さまの御子イエスさまのお姿に似せられていくことです。神さまに愛されている喜びのうちに、私たちも神さまを愛して歩みます。

ウェストミンスター小教理問答

問35 聖化とは何ですか。

答 聖化とは、神の無償の恵みの御業であって、それによってわたしたちは、神のかたちにしたがって、人としてすべてが新しくされ、ますます罪に死に、義に生きることができるようになります。

〈神御自身の御業としての聖化〉

すでに、「聖」とは実質概念・状態概念であることを学びました。神においては神の超越性、絶対性を表し、私たちにおいては、神のものとして取り分かれて、神の聖性にあずかることです。そして、「聖化」とは、私たちを内側から新しくする神の実質的・継続的な御業です。この御業は主イエス・キリストの再臨の日に成し遂げられます。私たちは、キリストと結び合わせられ、霊肉ともに新しくされて、完成に至らせます。

ですから、聖化の主体は、もちろん私たちであると同時に、主なる神御自身でもあります。聖霊が私たちの内に住み、ひそやかにしかし確実に働いて、私たちを新しく造り替えてくださるのです。しかも、聖霊は、挙げられたキリストの霊であり、罪と死に勝利されたお方の霊です。そうであるならば、私たちの内においても、キリストの霊が勝利し、罪と死が減ばされることを確信してよいのです。すでにキリストは勝利して、神の右に座しておられるのですから。

〈「すでに」と「いまだ」〉

ここに、「すでに」と「いまだ」の関係が成り立ちます。聖化は、信仰の認識においては、キリストの故に原理的にすでに完成されています。他方、私たちの現実の認識においては、聖化はキリストの再臨の日に完成されるのであり、その日に

最終的な勝利が明らかになるのであり、それ故に、聖化はいまだ途上にあります。しかし、途上にあることは喜ぶべきことなのです。もちろん罪については悲しまなければなりません。また、私たちは、罪からなかなか解き放たれないことを嘆きます。しかし、その悲しみと嘆きは、罪と戦うことが許されている証でもあるのです。この戦いは終わりに至るまで続きます。聖化の歩みは神の御業として成し遂げられ、完成させられます。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」(ヨハネ 16:33)。世に勝つとは罪に対する勝利にほかなりません。この神の約束を信頼いたしましょう。

〈感謝の生活へ〉

その確信と喜びの中で、神に感謝して歩みます。神がキリストの故に私たちをすでに「聖」としてくださいました。それ故に、私たちは、聖なる神の子として、光の子として歩みます。まっつきものとした故に、まっつきものとして歩むのです。神の恵みが先行し、私たちはその後を追うのです。

私たちの感謝の生活の手引きとして、旧約の十戒が与えられ、また主イエスの山上の説教が与えられています。途上にあり、道は険しいのですが、しかし、勝利が約束されています。完成されるのです。終わりの日を待ち望みつつ、希望と勇気を持って、たゆまぬ歩みへと励みましょう。

マタイによる福音書5章43～48節
子どもカテキズム 問32,33

「愛の歩み」

〔単元のねらい〕

聖化の歩みは、罪に死に、キリストにあつて生かされる歩みである。これらは、人間の修行、努力によって担われるのではなく、ただ聖霊によって担われるのである。既に、主イエス・キリストを信じている者は、聖霊によって新しく生まれた神の子である。神の子は、神に似せられる。御子であり、兄弟であるイエスに似せられる。その極点は、愛に生きる歩みにほかならない。しかもどれほど、失敗しても、神の子としての資格にいささかの揺るぎもない。それゆえに、神は大胆に愛を命じ、神の子も大胆に愛に生きる望みを持って努力することができる。子どもらに、恐れずに善き生活を生きる望みと責任を呼び覚ましたい。

僕たち私たちは、聖霊なる神さまの恵みによってイエスさまを信じて、神さまの子どもとしていただきました。ですから、神さまのことを僕たち私たちは、喜びと感謝を込めて、「私たちの父なる神さま、私の天のお父さま」とお呼びしています。神さまの子どもは、知らないうちに、御子イエスさまに似せられて行きます。

皆は、お父さんとお母さんのどちらに、似ていると言われますか。きっと、顔のどこかの部分がお母さんに似ていたり、どこかの部分がお父さんに似ていたりするのだと思います。どっちに似ているといわれる方が嬉しいかな。それなら、努力して顔をお父さんに似せたり、お母さんに似せたりすることはできるでしょうか。できませんね。知らない内に、似ているんだよね。ひまわりの花の言い伝えを知っていますか。ひまわりは、いつも、太陽の方を向いているから、太陽に似ているというのです。とても、素敵なお話です。

神さまの子どもの僕たち私たちが、いつも、神さま、イエスさまのことを思って、お祈りして、御言葉を聞いていると、知らない間に、どんどん、イエスさまに似てくるのです。これは、間違いないことです。もちろん、顔が似てくるわけではありませんよ。イエスさまのお心、考え方、生き方に似てくるのです。それは、イエスさまに比べたら、目に見えないぐらいわずかかもしれません。けれども誰でも、イエスさまに救われて、神さまの子どもにされた人ならできるのです。なぜなら、天

のお父さまは、僕たち私たちが、イエスさまに似てくるように、求める人には聖霊の恵みをあふれるほどに与えてくださるからです。

マザー・テレサさんのことを聞いたことがありますか。彼女は、インドのカルカッタで、人知れず死んで行く人のために、すべてを投げ捨てて、看取る家を建てて、お世話をしました。もうお亡くなりになりましたが、ノーベル平和賞を受賞され、世界中から一番尊敬された女性の一人です。マザー・テレサさんを見れば、イエスさまの教えがどのようなものであるか。イエスさまに似て行くというのは、どんなことなのかを教えられます。

でも、そんな特別な人のことを言わなくても、教会学校の先生を見ていると分かります。じろじろ見られると恥ずかしいです。でも、先生は、イエスさまを信じる前と、信じてからは全然違います。顔が違うのです。もっと怖い顔をしていたのです。今よりはですよ。誰でも、そうなるのです。先生は、皆と一緒にもっともってイエスさまのことを良く知りたと思います。イエスさまと交わりたと思います。そうすれば、今よりもっともって、神さまの子どもらしくなるからです。

そのためにも、イエスさまの御言葉をしっかりと聴きましょう。「敵を愛しなさい。」「完全な者となりなさい。」「どうですか。」「そんなの無理だよ。僕たち私たちの仲の良いお友達なら、愛しても良いけれど、敵や、嫌なことをしてくる奴なんか、愛せない。絶対いやだ。」「そんな風に、思う

お友達も多いでしょう。その気持ちは、良く分かります。「天のお父さま、神様は完全だけれど、人間は罪人で、だから完全な者となんか、なれっこないよ。」そう思うことは間違っではありません。

でも、僕たち私たちが、イエスさまにどれほど愛されているかは、知っているでしょう。そのイエスさまが仰ったのです。命じられたのです。「敵を愛しなさい。完全な者となりなさい。」でも、そこで、誤解してはいけません。イエスさまは、「そうしなければ、あなたは、神さまの子どもになれないよ」とは仰いませんでした。「あなた方の天の父の子となるためである。」イエスさまは、敵を愛して初めて、神さまはあなたのお父さまになるのだとは、仰いません。僕たち私たちがもう既に、神さまの子どもなのです。イエスさまは、神さまのことを、はっきりと「あなた方の天の父」と仰いました。まだ、僕たち私たちが何にもしないうちから、もう決めていてくださるのです。イエスさまを信じるだけで、十字架の恵みによって罪を赦され、神さまの子としてくださるのです。だから、僕たち私たちが、勇気を持って、挑戦できるのです。

天のお父さまは、僕たち私たちに太陽を昇らせ、雨を降らせてくださいます。僕たち私たちが、罪人ですね。正しくない者です。それにも関わらず

に、天のお父さまの愛をいつも、注がれています。イエスさまは、僕たち私たちのために、十字架について下さいました。それによって、罪を赦し、神さまの子として下さいました。それほど、愛されています。中途半端ではなく、完全に、徹底的に愛されています。これ以上ないほど、愛されています。その完全な愛を注がれる神さまだからこそ、自信を持って、命令されるのです。愛してごらん。敵を赦してごらん。「僕も悪かったんだ。仲良くしよう。」そう言えるようになるのです。

そのために、イエスさまをもっともって良く知りましょう。イエスさまを観ましょう。そのときに、似てくるのです。聖霊のお働きです。ひまわりが、太陽に似てしまったように、観る事です。イエスさまを観るって言う事は、イエスさまの御言葉を聴くことです。礼拝式でこれからも説教をよく聴いてください。そして、お祈りしましょう。「自分の力ではできませんから、聖霊なる神さま助けてください。イエスさまの愛をもっともって与えてください。僕を愛で満たしてください。」そう祈りましょう。失敗しても、自分はだめだと思わずに、何度でも挑戦して見ましょう。失敗しても、神さまは変わらずに愛して下さり、天のお父さまであり続けてくださいます。

今週の暗唱聖句

しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。

マタイによる福音書 5章 44 ~ 45a 節

〈展開例〉

ひまわりどんなお花だったかな？ 先生は、ひまわりは何に似ているって言ってましたか？ わたしたちは何に、誰に似ているかな？

・・・イエス様は、「自分にいじわるをする人の為にお祈りしなさい」とおっしゃいました。できるかな？ いじわるしたお友達と仲良く出来るかな？ イエス様に似てくれば、きっと出来ます。イエス様は、「イエス様を信じる神様の子供は、イエス様に似てきます」とおっしゃいました。

みんな、もつともつとイエス様に似ていきたいね。イエス様を信じて、ひまわりが太陽の方を向いているように、私達もイエス様の方を向いていようね。

〈祈り〉

てんのおとうさま。

イエス様の方をいつも向いて、イエス様のすばらしさを知ることができますように。いつも心の中をイエス様の愛でいっぱいしてください。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈うた〉

今日は工作はお休みです。

みんなでさんびいたしましょう。

元気にさんびしましょう。

プレイズワールド (いのちのこぼれ) 4ばん

とても楽しい折紙リッケがついでいます。

みんなで踊ってさんびしましょう。

♪ 1. ぼくの
2. 友の
3. 皆の

ニニのなかが
いつも

1. あかきよくに
2. やさしいよくに
3. しのしいよくに

ハレルヤ!

♩ イエス様

1. ぼくにヨソニビヨソニビエトダサイ
2. あいのニニヨも あいのニニヨくだサイ
3. すべていとしに いつもいとくだサイ

♪ ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤー ヲトあう
ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ アーメン ♪

〈礼拝説教のおさらい〉 マタイ 5:43-48

- 序 ・ 神さまの子どもとしていただいた私たちは、どのように成長してゆきますか？
- 本 ・ イエスさまは、罪人である私たちを愛し、迫害する者のために祈りをささげ、命を献げて下さいました。そして、私たちも「敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」とおっしゃいました。
- 結 ・ イエスさまの完全な十字架の御業によって私たちは、完全な罪の赦しをいただきました。イエスさまゆえに、完全な者と見なしていただけるのです。神さまの徹底的な、完全な愛によって生かされている私たちは、神さまを見上げ続けていく時、神さまに似せられて、愛に生きる望みが与えられます。

----- 伝言板 -----

笑顔のかわいい P ちゃん。クラスの気の強い女の子に、時々いじわるを言われます。今日は、「笑った顔が、キモチワルイ！」と言われたのです。どうしてキモチワルイといわれたのか、さっぱりわかりません。ちょっと・・・ショックでした。でも、他にお友達はあるし、あまり気にとめないで校庭に遊びに出ました。

子供は、時々、あまり考えないで、ひどいことを平気で言ったり、やったりします。ひどいことを言われたり、された子の気持ちを考えると、胸が痛みます。私が、小学生だった 30 年以上前の時代にも、小学校の教室でやはりいじめられている子がいました。あまりかわいそうだったので、その子の顔や、ポツンと座っていた姿を今でもハッキリ思い出します。その時、私はどうしてあげることもできませんでした。

T ちゃんはお友達の悪口を決して言いません。ですから T ちゃんの前で、誰かの悪口は恥ずかしくて言えません。

やさしさの輪は少しずつ少しずつ広がっていくものです。がんばれ P ちゃん、T ちゃん！

〈やってみよう〉

- ブルーリボン -

用意するもの

- ・ 青いリボン（市販で、もう既にバラの花の形に作ってあるものでもよい）
- ・ ホチキス
- ・ 金色（または黄色）の色紙
- ・ 安全ピン

作り方

- ① 8 センチ位のリボンをくるくる巻いて、(5、6 回位) 中央をホチキスでとめ、少しずつずらしながら、花を作る。
- ② ホチキスの上に金色のいろがみを丸く切り、ポンドで貼る。
- ③ 裏にはみ出ない大きさの丸い厚紙を貼り、安全ピンをセロテープで留める。

* 一人が三つ作り、これを、「あなたは、私にとっても、みんなにとっても『かけがえのない、たいせつな人』です」と思う人に、一つ、シャツの左胸に留め、残りの二個も渡して、「あなたも、自分にとって大切に思っている人にこの事を説明して、このリボンを一つプレゼントしてください。もう一つは、次の人のためです」と話して渡します。

日曜学校の中で、教会の中で、家族の中で、青いリボンの輪をひろげてください。

あなたは、わたしにとって、
かけがえのない、たいせつな人です。



〈目標〉

キリストに結ばれることによって、すでに完全なものを見なされていることを覚えさせる。

〈指導上の心得〉

どんなに失敗しても、神様の子であることは揺るぎないことを覚えて指導する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・クラスメイトを嫌いだって思ったり、意地悪したりしてしまう子はないか聞いてみる。今日の箇所と結び併せて考えていく。
- ・それはキリストの命令を守れないことで、神様から離されることにならないのか。
- ・人間には神様の命令を守れない部分があり、いつも失敗をしてしまう。しかし、人は自分の正しさではなく、キリストの義によって聖いものとされ、すでに聖いと見なされているのである。

〈ワーク〉

1. 今日の箇所イエス様が命じていた命令を聖書で調べて書きましょう。
2. この命令を守ることはできるかな。
 - a. はい。できます
 - b. いいえ。できません
3. どうしたら、私たちは完全な人になれるでしょう。考えて書いてみよう。
4. マタイによる福音書 5:44, 45 節前半を書いて覚えましょう。

答え 2. b 3. イエス様を信じる

〈目標〉

聖化の果実、「ゆるし」

〈指導上の心得〉

はじめの人間が、墮落により失ったものは、神との交わりでした（子どもカテキズム問 18）。神との交わりが失われた結果、人の心はそれぞれの自己に向けられ（的外れ：罪の原意）、人相互の交わりまで失われたのです。しかし、主イエスによって、罪の赦しをもたらされたと同時に、交わりは回復されました。私たちの心が、聖霊によって、再び神に向けられ、赦しといたわりの平安が心を支配することとなりました。「敵をゆるす」この極めて困難な戒めさえも、キリストと結び付けられている者にとっては、実践可能な戒めなのです。

〈展開例〉

- (1) 敵を赦した主イエス（主は教えるだけでなく、実践された）を聖書で調べてみよう。

①ユダの接吻（マタイ 26:49-50）

②大祭司の手下の耳を癒された（ルカ 22:51）

③十字架の上の主（ルカ 23:34）

- (2) 復習（2月3日のぶどうの木のたとえ）

ぶどうの木のたとえを思い出しましょう。ゆるしの実を結ぶには、どうすればよいですか。わたしたちにはできないことも、神にはできるのです。

- (3) ゆるしの効用

ゆるしは、自分の心に平和をもたらされるだけでなく、相手をも変えることがある。けんかをした相手が憎らしいと思っても、その人から素直に謝られると、その憎しみが一瞬のうちに消える時などがそれです。わたしたちはつまらないことで、兄弟姉妹やお友達とけんかします。でも謝る（相手をゆるす）ことで、相手もやさしく変わるのです。（体験を話し合ってみよう）

〈目標〉

私たちが聖い者とされていく歩みは、この世の中では紆余曲折のあるものであるが、確実なゴールへと導かれており、決して不完全に終わるものではない。その中でこそ、私たちはイエス様の教えられる愛を生きることができることを学ぶ。

〈展開例〉

神の子とされた私たちは、神様の御国に入るのふさわしい聖い者とされていく道りにあるということ学びました。しかし、私たちは一瞬にしてイエス様のようになれるわけではありません。

○確実なゴール

私たちは神様に選ばれ、神様の子としていただいても、神様の喜ばれる事というのはなかなかできないものです。昨日したことを思い返してみてください。神様が喜ばれないような事をしたり思ったりしたこと、神様のことを忘れてしまった時、というのがあったでしょう。この世にある限り、私たちは罪から完全に自由になることはできないのです。それでは、私たちが本当にイエス様に似た者となるのはいつのことでしょうか。

それは、私たちがこの地上での歩みを終える時です。今は若い君たちも、やがては私のように中年となり、老年を迎え、この体が朽ち果ててしまう時を迎えます。その時がいつであるのかは私たちにはわかりませんが、必ずやってきます。その時に、私たちは天の国へと招かれます(Ⅱコリント 5:1)。そこには、神様が用意して下さった永遠の家があり、私たちはそこに住むことができますのです。

この天の国へ入る時、完全に聖くされて天の国にふさわしい者となり、神様の永遠の家に住むということが、私たちに確実な事として約束されています。神様は、選ばれた者が一人も減びることなく、神様のもとでの永遠の命を得る事ができると約束しておられます(ヨハネ 3:16)。私たちに、神様にふさわしい者となって天の国へ入るとい確実なゴールが与えられているのです。

○多難だが確かな道のり

その時に至るまで、この地上にある間は、私た

ちは聖くされる道のりを歩んでいることになりません。しかし、その道のりは決して平らなものではありません。私たちは、順調にイエス様に似た者となっているとはとても言えないのです。いつもいつも、今日の方が昨日よりイエス様に近づいているとは言えません。イエス様を信じた人でも、教会に来なくなってしまう時があります。

しかし、大丈夫です。先にもお話したように、私たちが天の国へと導かれる事は、確実に約束されたことで、私たちのこの世の歩みは、山あり谷あり、決して真っ直ぐではないけれども、確実にゴールへと導かれる道なのです。

○主イエスとともに歩む

イエス様にむすびつけられた私たちの歩みは、決して元のとおり歩みではありません。私たちは神様に喜ばれないことをしてしましますが、それが「罪」であることを知っています。自分のしたことを悔やんで、神様に助けを求める事ができます。イエス様につながる私たちは、罪に負けたままではなく、イエス様の助けで罪に対抗していくことができるのです。私たちは、この世の歩みの中では罪から完全に自由にはなれませんが、罪に負けて罪の奴隷になってしまうことはもうないのです(ローマ 6:6)。

確実なゴールに向かって、イエス様とともに歩む道のりの中で、私たちは一方的な神様の恵みの大きさを知ることができます。何もできない私を愛し、天の御国へと導いてくださるのです。イエス様は「完全な者となりなさい」とおっしゃいますが(マタイ 5:48)、それは天国への条件ではなく、神様から無限の愛を受けてすでに「神の子」とされた私たちが導かれるゴールなのです。それを目指し、私たちはイエス様からいただいた愛の歩みをみんなと分かち合っていくのです。

〈祈り〉

天の父なる神様。私たちが、天の御国という確実なゴールに向かって、日々それにふさわしい者へと導かれていることを感謝します。どうか、いつも希望をもって、人々とイエス様の愛を分かち合う歩みができますように。御名によって。

テキスト ルカによる福音書 22章 39 ~ 46節

この箇所の出来事はゲッセマネの祈りとして、あまりにも有名な箇所であり、記憶の中では他の福音書の中にある同じ物語と混ざり合っているものです。ですから、まず、この箇所を良く読むことが大事です。そして、この箇所の独特の記述に目を留めて、この御言に聞きましょう。

(1) ルカの特徴

今回は、この箇所のルカの特徴をあげておきます。

この箇所のルカの特徴は非常に簡潔に書かれていることにあります。長さはマタイ、マルコとヨハネの中間ぐらいのもので、主が祈られた場所について、オリーブ山とだけは記されているが、正確な記述はされていません。また、祈りも他の箇所のように三回に分けて書かれているのではなく、一度だけであり、弟子たちの所にいくのも一度だけであります。この簡潔さが、この同一物語におけるルカの特徴であると言えるのです。

(2) 弟子たちに（誘惑に負けないように祈る）

40節において、主が弟子たちのために配慮されていることが記されています。主は祈る前に、その弱さを目でご覧になる前に、誘惑に陥らないように祈ることを彼らに要求されました。誘惑はいつも起こるものであり、特にあらゆる危険の際、また、あらゆる悲しみや悩みの時に起こるものです。そのことを主はご存知で、弟子たちを配慮し、誘惑に陥らぬよう祈ることを命じておられるのです。

しかし、弟子たちはその弱さの故に眠ってしまいます。御言葉は、それが悲しみのためであると理由付けをし、その後の叱責も和らげられます。ここに慰めがあるのです。我々は弱く、祈っていても誘惑に陥りがちです。それに対して叱責は和らげられ、むしろ、主にもう一度祈るように命じられることによって、祈ることを励まされるのです。

(3) 主イエスの祈り

弟子たちに祈ることを命じられた主は御自身も祈られます。このところで主は、「ひざまずいて・・・祈られ」ています。通常ユダヤ人は立って祈るのが常であり、主イエスも弟子たちも通常はその様に祈っていたと思われます。このようにひざまずいて祈ることは、その時が切迫していることを示しているのです。

また、〔〕付きではあるが、天使が表れて主を励まされた、汗が血のように滴ったとの表現によって、その切迫しているときが、苦しみの時であり、祈りにおいて苦しみもだえておられることも表されています。主が、祈りによってこの苦しみを克服され、神様に従う決意をされたことは、重要です。

(4) 祈りの人主イエス

ルカは主イエスを祈りの人、また祈りの教師として描いています。ルカにおいて主イエスは、一晚中祈る方であり、生涯の重要などときには特別に良く祈る方として、一貫して描かれています。

特にこのゲッセマネの祈りにおいて、危機に直面した状況にある主の行動と祈りが非常に強く描き出されています。その危機に直面した状況の中で、ルカはもだえ苦しむ主イエスの姿に焦点を合わせるのではなく、祈りに焦点を当てています。

主イエスは苦しみや死を知らない方ではありません。しかし、主は神様を知っている方なのです。ましてこれから起こる死をご存じであり、神とすべてのものから見捨てられることもご存知であるのです。その苦しみの中にあって、主イエスは神様に祈り、神様の御意志に従うことを選び採られたのです。ある面においては、ルカが特に描き出している、この主イエスの祈りこそが、主の御生涯の中心でもあったと言えるのです。そして、どのようなときも祈る主のお姿は、代々のキリスト者に祈りとその生活の模範となる姿なのです。

ルカによる福音書 22章 39～46節

「ゲッセマネの祈り」

〔単元のねらい〕

受難節から復活節への4週間は、カテキズムのカリキュラムから離れる。教会暦に基づいて聖書を学ぶ伝統を持たない私共であるが、降誕祭、復活祭、聖霊降臨祭の三大祭は、改めて子どもたちと共に覚えたい。それは、「福音」の中心を覚える事である。求道者は勿論の事、子らにも聖書の教えの周辺を細かく説くより、教えの中心すなわち福音を打ち込むことが大切である。もとより、子どもカテキズムは、福音の中心を明瞭にするためのものである。ここで、主イエスの決死の祈りを学ぶ。御子の祈りは、私共の救いのためであること、そのお姿は、私共の祈りの姿が問い返されざるを得ないことを、ここで深く覚えたい。そのためにも今週、子どもたちを祈りの生活へと招きたい。祈りの表などを作って、励ますのも一つの方法であろう。

今年のイエスさまの復活をお祝いする日は、3月31日です。イエスさまの復活祭を心から感謝し、喜びお祝いするために、今日から、4週間は、カテキズムはお休みします。

さて、イエスさまは、お弟子さんたちと最後の夕食をとられました。そしてその後、イエスさまはいつものように、いつもの場所に行かれます。オリブ山のゲッセマネというところですよ。何をしに行かれるのでしょうか。それは、お祈りです。その晩、イエスさまは、お弟子さんたちも、連れて行かれました。そして、仰いました。「誘惑に陥らないように祈りなさい。」イエスさまは、弟子たちが誘惑に負けやすいことをご存知でした。それは、決して、このお弟子さんたちだけの問題ではありません。先生もそうです。皆も同じです。イエスさまを信じなくなる誘惑、教会学校を大切にしない誘惑です。そして、イエスさまから離れてしまったら、僕たち私たちは死んでしまいます。永遠の命から切断されたら体は生きていても、霊的には死んでしまいます。だから、イエスさまは、「誘惑に陥らないように、霊的に死なないように、お祈りしていなさい」と仰ったのです。一週間の内で教会学校の礼拝式でお祈りするだけではいけません。イエスさまは、誘惑に陥らないように毎日お祈りすることを求めておられます。

さあイエスさま、その日、どのようなお祈りをなさったのでしょうか。「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わ

たしの願いではなく、御心のままに行ってください。」この杯って何のことでしょうか。それは、イエスさまが十字架につけられるということです。イエスさまは、この後すぐに、弟子の一人のユダに裏切られて、兵たちに捕まえられて、十字架の刑を受けさせる裁判にかけられてしまいます。十字架につけられると言うのは、ただ死ぬと言うことではありません。天のお父さま神さまから、罰せられると言うことです。神さまから、呪われると言うことです。見捨てられると言うことです。イエスさまは、これまで、一度も、父なる神様と離れてしまったことなどありません。まして、父なる神さまから罰せられたことなどありません。しかし、今、僕たち私たちを救うため、身代わりになって、罪の審きをお受けになられるのです。

けれども、イエスさまは、「この杯をわたしから取りのけてください」と、祈られましたね。イエスさまは怖くなって、逃げたくなくなっておられたのでしょうか。そうではありません。イエスさまはずっと前から、十字架におかかりになられることを決めておられたのです。でも、それは、イエスさまにとって、とても苦しいこと、悲しいこと、恐ろしいことであつたのです。イエスさまは必死でした。苦しみもだえるお祈りをしてくださったのです。汗が血の滴りのように流れ落ちました。それはすべてわたしたちを神の子とするためのお苦しみでした。

この時のイエスさまの悲しみの深さ、苦しみのつらさ、恐れを、人間は想像することができません。人間は誰でも死にます。でも、誰でもが死ぬ前に、イエスさまのように、怖がったり、悲しんだり、苦しんだりするわけではありません。昔、有名なソクラテスと言う哲学者は、毒が入っている杯を平然と飲み干してしまいました。自分が死ぬことを恐れなかったのです。また、仏教を聞いた御釈迦さんは、自分が死ぬことをちっとも恐れませんでした。大勢のお弟子さんたちに囲まれて、心安らかに死んで逝かれたと言われています。それなら、イエスさまは、こんなに苦しんだり、悲しんだりして、ちょっと情けないと思いませんか。けれども、これらの人は、本当の死がどのようなものか知らないから平然と死ぬのです。死は恐ろしいものです。死ぬとき、痛いからではありません。今は、良い薬があって、あんまり痛い、その薬で痛みを和らげることができるそうです。でも、死ぬことが本当に恐ろしいのは、体が痛いからではないのです。死んだ後に、神さまの審きを受けなければならないからです。イエスさまだけが、それをご存知なのです。生きている人間は誰も死んだことがないので、本物の死を知りません。死ぬと言うことがわかりません。だから、心を安らかにして死ぬことができる人もいます。

イエスさまは、まだ十字架におつきになられる前から、本当に恐ろしいまでのお苦しみを苦しんでおられたのです。しかし、イエスさまはこう祈られました。「しかし、わたしの願ではなく、御心のままに行ってください。」つまり、イエスさまは、十字架について、僕たち私たちが救われることを祈り求めてくださったのです。

このような、イエスさまのお苦しみが分からないお弟子さんたちは、お祈りの途中で眠くなって、寝てしまいました。夜寝る前にお祈りするお友達もいるでしょう。お祈りしながら、寝てしまったことのあるお友達もいるかもしれません。でも、イエスさまは、今も僕たち私たちのために、天のところで眠ることもなく、ずっとずっと真剣にお祈りして下さっています。ですから、僕たち私たちもお祈りしましょう。この一週間、毎日必ず、お祈りしましょう。どんな言葉でお祈りしたらよいのか分からないお友達は、「主の祈り」が、カテキズムに載っているでしょう。それを、読んで主の祈りを祈ってください。分級の先生に「自分のためにお祈りしてください。」お願いしてください。何を祈って欲しいのか、先生に教えてください。そして、皆も、先生のために、教会のお友達と、学校のお友達がイエスさまを知ることができるようにお祈りしてください。

今週の暗唱聖句

父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。
しかし、わたしの願ではなく、御心のままに行ってください。

ルカによる福音書 22 章 42 節

〈展開例〉

この間の日曜日、私たちがイエス様に似るように、イエス様の方を向いてイエス様の真似が出来るようにお祈りしました。今日もイエス様のお姿を見てみましょう。

皆の大好きなイエス様。そのイエス様が、ぼたぼたぼた汗を出しながら、一生懸命お祈りしているところのお話でした。イエス様は、十字架にかけられ、殺されることを知っていらっしやいました。でも、そんな時でも逃げだしたり隠れたりしないで、「神様のご計画通りになりますように」とお祈りしたのです。みんなはお祈りできるかな？ イエス様にならってお祈り出来るように練習しようね。そして、毎日、お祈りしようね。神様はいつでも聞いていてくれます。(子供たちも声を出して、一緒にお祈り出来ると良いですね)

〈祈り〉

てんのおとうさま。

小さい私たちもお祈りできますように。神様のことをもっともっと知ることができますように。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉

132 ページに掲載いたしました。

〈礼拝説教のおさらい〉 ルカ 22:39-46

- 序 ・ 過越の祭りの夜、弟子たちと最後の食事をした後、イエスさまは祈るためにオリブ山に登られました。
- 本 ・ 従って来た弟子たちに「誘惑に陥らないよに祈りなさい」と言い残し、少し離れた所で父なる神に、ひざまずいて祈られました。
- 結 ・ 死に向かう本当の恐ろしさ（父なる神からの切断）の中で父なる神さまに信頼して祈りました。

〈やってみよう〉

用意するもの

- ・ 1/13の「真の王」で作ったエルサレムの地図（以後三週使います）
- ・ のり
- ・ 画用紙
- ・ はさみ
- ・ クーピー、など

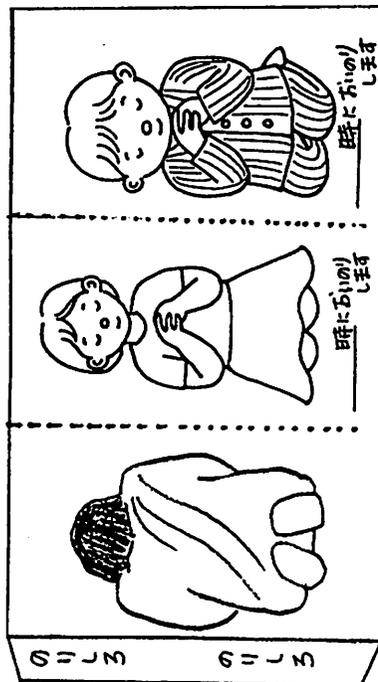
- ① イエスさまが座って祈っている小さな紙人形を作り、イエスさまの祈りの道のりをたどりま。す（すべての場所で、祈られました。）
- ② 子どもの祈りの紙人形を作り、自分の祈りの時間（例えば、朝起きた時なら「朝7時」、夜寝る前なら「夜9時」など）を書き込みましょう。

伝言板

日曜学校にいつもニコニコ笑顔で来るMちゃんが、礼拝を終えて帰る時、「先生、神さまにお祈りしたけど、お祈りきかれなかったよ」と言い残して、ビヨンビヨン飛び跳ねながら帰って行ってしまいました。「Mちゃんは、何をお祈りしたんだろう・・・？」と想像してみましたが、もちろんわかりません。

イエスさまの、ゲッセマネの祈りの箇所を読むと、お祈りについて考えさせられます。イエスさまにとって、お祈りは自分の願いをかなえていただく「お願い」ではなく、父なる神さまとの「お話し」のように思えます。つらい事、悲しい事、苦しい事・・・など、自分の心にあることを全部お話しします。自分の願いもお話しますが、何よりも神さまを信頼して、神さまにおゆだねされました。

お祈りがきかれなかったと、少しがっかりしているMちゃん。神さまにお話しできたことがとっても素晴らしいことだったんだよ。お祈り（お話し）することをやめてしまわないで、これからも神さまを信頼していこうね。



クーピーは200%倍
筆で便利。三角折りで
たまる

* イエスさまは、いつも私たちと共に祈って下さいます。

〈目標〉

私たちの苦しみをご存知の主イエスを通して、祈ることへと招く。

〈指導上の心得〉

主イエスは私たちの苦しみを知っていて下さるということをしつかりと心に置いて指導する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・イエス様はなぜ、弟子たちに誘惑に負けないように祈りなさいと命じたのか。
- ・イエス様はなぜこの杯をとって欲しいと願ったのか。そのことを知ることでわかれわれはどのような益があるか。イエス様は私たちの苦しみを知っていて下さる方である。
- ・イエス様は私たちの苦しみも弱さもご存知であり、私たちのために祈ってくださっている。そのイエス様を通して私たちが熱心に日々祈る。

〈ワーク〉

1. イエス様私たちと同じように苦しみを知っておられる方でしょうか？
2. イエス様は弟子たちが誘惑に負けやすいことをご存知です。そのためにイエス様は弟子たちのために、私たちのためにどのように忠告してくださったでしょう。カッコをうめて見よう。「()に陥らないように、()なさい」
3. 私たちも誘惑に負けるときや、苦しみがあります。その私たちはどうすればよいでしょうか。考えてみよう！
4. ルカによる福音書 22:42 を暗唱しましょう。

答え 1. 知っている 2. 誘惑、祈り 3. 私たちの弱さも苦しみもご存知であるイエス様を通してお祈りする

〈目標〉主の戦いを覚える。

〈指導上の心得〉

今日から、イースターに備えるプログラムが続きます。第1回目の今日は主イエスのゲッセマネの祈りです。1月13日で確認したように、主イエスは最後の敵サタンと戦う王として、エルサレムに入城しましたが、エルサレムにおける最も激しい戦いが、受難前夜のゲッセマネの祈りにおける戦いでした。サタンの執拗な誘惑に、激しく戦われた主のお姿は、同じく信仰の戦いの中にある私たちにとってどれほど励ましになることでしょうか。またレント（四旬節）は、既に2月13日（灰の水曜日）に始まっていますが、今日からレントカレンダーを作成してみたいかがでしょうか。これから毎回聖書日課（案）を示しますので参考にしてください。

〈展開例〉

- (1) サタンは、イエスさまにどのような戦いをし

かけてきたのでしょうか。答え：十字架から逃げるよう誘い、説得してきた。

(2) 戦いの激しさを示す御言葉を2個以上探しましょう。答え、【ひざまずいて】【苦しみもだえ、いよいよ切に】【汗が血の滴るように】【天使が天から現れて】。

(3) 主は、この激しい戦いに勝利されました。主が用いられた武器は何だったのでしょうか。答え、祈り。主が用いられた祈りの言葉を暗唱しましょう（ルカ 22:42）。

〈聖書日課〉エルサレム入城後の主の教え

- | | |
|-----|------------------------|
| 10日 | ぶどう酒とパン（マタイ 26:26-28） |
| 11日 | 洗足（ヨハネ 13:14,15） |
| 12日 | 聖霊の約束（ヨハネ 14:16,17） |
| 13日 | いちばん偉い者（ルカ 22:26） |
| 14日 | まことのぶどうの木（ヨハネ 15:5） |
| 15日 | 目をさまして祈りなさい（ルカ 21:36） |
| 16日 | 最も重要なおきて（マルコ 12:29-31） |

〈目標〉

主イエスがゲッセマネの園で祈られたのは、何よりも神様の御心が行われることであった。その御心とは、この私が救われることである。イエス様に祈っていただいていることを知り、イエス様に向かって心を開いていくことを勧める。

〈展開例〉

イエス様が捕らえられた夜の事です。弟子たちと最後の食事を一緒にされたイエス様は、その後で、弟子たちとともにオリブ山のゲッセマネの園というところへおいでになりました。

○御心のままに

イエス様には、これからどんな事が起こるかははっきりわかっていました。大祭司たちに捕らえられ、はずかしめを受けて、十字架の上で苦しみながら死を迎えるのです。何よりも、子なる神でありながら、永遠の滅びにつながる死を迎えなければならないのです。しかし、イエス様が地上に来られたのは、まさにそのためでした。イエス様にはご自分の人生の終りに、そのような苦しみがあることはよくわかっていたことなのです。

いよいよその時を前にして、イエス様は悲しみの中で祈られました。イエス様は「子なる神」であると同時に「完全な人」でもあります。「完全な人」というのは、恐いものなど何もないスーパーマンだということではありません。人であると言うことは、悲しみ、痛み、苦しみを感ずるということでもあります。「完全な人」であるイエス様は、かえってそのような人間として感じる悲しみや苦しみをよりはっきりと覚える方なのです。そのイエス様はまず、「できることなら、この苦しみから逃れさせてください」（ルカ 22:42 前半）と祈られました。まずそう祈らなければならないほど、イエス様の苦しみは大きかったのです。

しかし、その次に祈られたのは、「しかし、私の願いではなく、御心のままに行なってください」（ルカ 22:42 後半）という言葉でした。完全な人であるイエス様は、これから自分の身に起こることがはっきりわかっており、その苦しみの大きさも十分に予想できたのですが、それよりも神様の

御心が行なわれる事を祈られたのです。イエス様はかつて、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」（マタイ 6:33）と教えられました。神の国とは、神様の御心が行われているところです。この永遠の滅びへとつながる死を迎える恐怖と苦しみに直面しながらも、イエス様は神様の御心が行なわれることを第一に祈られたのです。

○神様の御心

それでは神様の御心とは何だったのでしょうか。イエス様が苦しまれる事、永遠の滅びにつながる死を迎えることが、神様の望まれた事なのでしょう。それは、神様のご計画の中にある「手段」ではありますが「目的」ではありません。神様が本当に目的とされること、神様の御心とは、私（あなたが）救われて永遠の命へと導かれることなのです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」（ヨハネ 3:16）とあるように、神様が独り子イエス様を与えて下さったのは、イエス様を十字架の死へと渡されたのは、イエス様を信じる信仰を与えられた私たちが一人の例外も無く永遠の命へと導かれるためでした。これこそが、イエス様が第一に求められた神様の御心なのです。

イエス様は、汗が血のようにしたたる程の祈りをささげられました。それは、私（あなたが）永遠の命を得るためでした。このように、イエス様は私たちの救いのためにいつも祈ってくださるかたなのです。どうか、私たちも、私たち一人一人のために祈ってくださり、ご自分を投げ出して神様の御心を行なってくださいましたイエス様に心を開こうではありませんか。そこには、確実な救いという神様の御心がまっています。

〈祈り〉

天の父なる神様、あなたの独り子イエス様が大きな苦しみを前にしても、私たちが救われることを祈られたということを学びました。私のためにご自身を投げ出してくださいましたイエス様に、私（あなたが）心を開く事ができますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。

テキスト

ルカによる福音書 23章 13 ~ 25節

この前の箇所から注意深く読み、福音書全体から、この箇所の御言葉に聞くことが大事です。

また、この箇所における主イエスの裁判の記事の目的は、誰か特定の者に主の死の責任を帰すことではありません。その目的は、使徒言行録2章にあるペトロの説教に示されています。

(1) 最初の無罪宣言

ピラトは一連の取り調べの後、主イエスを訴え出たユダヤの人々を集めています。これは、合法的な仕方、原告がいるところで裁こうとしていたことの現れです。ピラトの人々の前で「イエスは無罪である」との宣言は、指導者を初めとする人々が、主イエスを暴動の煽動者であり、混乱をもたらそうとしたと訴え出たことに対する回答です。そして、その回答を補強するために、まったく態度を示さなかったヘロデを引き合いに出し、彼も同様に判断したと語り、イエスは無罪であると再び宣言するのです。ピラトはこのところで、法的には直ちに主イエスを釈放しなければなりません。しかし、彼は原告の人々に迎合し、打開策として、むち打った後で釈放しようと言ったのです。

(2) 人々の叫びと三度目の無罪宣言

このようなピラトの判断に対して、人々は、主イエスを政治犯として殺すことを要求し、同じ政治犯であり、殺人を犯したバラバの釈放を要求しました。彼らの訴えは矛盾したものとなっています。しかし、正しい筋道は、彼らの意見を通すために彼らの前から消えてしまい、矛盾も問題ないものと判断されていたのです。

その様な、何を言っても聞くはずのない彼らに対して、ピラトは再び同じ打開策を語り、主イエスの無罪宣言をします。

(3) 人々の激しい要求と人々に迎合するピラト

ピラトの再三にわたる無罪判決は人々を刺激し、人々の声は大きくなり、暴動が起きんばかり

の調子でイエスの十字架を要求し始めたのです。その声に裁判官であるピラトは屈するのです。ピラトは主イエスの無罪を確証しながらも、人々の声に負け、正しい結論を出すことはできなかったのです。そして、主イエスは彼の民の意志に従って、十字架に架けられるために引き渡されることになるのです。

(4) 人々とピラト

このところで、人々は、神様に反抗し、神様から遣わされたキリストを明らかに拒絶しました。彼らの主イエスの十字架に対する罪は明らかです。一方で、無罪を宣言したピラトがいます。しかし、彼もまた人々と同じ罪を免れることはできません。むしろ、無罪を知りながら、死刑にした罪は重いと云わざるを得ないものです。

(5) 神様の御意志

このところで、はっきりと示されているのは、ピラトと民衆のやりとりです。しかし、この背後には、旧約から約束されていた救いの御業のために、罪無きまっつきお方である主イエスを十字架に引き渡す父なる神様の御意志があります。神様は、救いの御業の成就に向けて、このところでも人々に働きかけ、悪を善へと変えるべく、働いておられるのです。

(6) 悔い改めのために

(4)で人々とピラトの罪を見ました。そこで示された通り、ピラトも人々も罪人であることが明らかになりました。主イエスは、すべての人の罪の故に十字架に引き渡されました。そして、この出来事を書き記したルカの目的はそこに留まりません。人間の罪の故に十字架につけられた主イエスの贖いの御業を知り、多くの者が悔い改めに導かれることが、このところで重要な点なのです。そして、悔い改めて、この無罪であるにもかかわらず、私たちのために十字架で死んで下さったお方を信じるこそ、神様の御心なのです。

ルカによる福音書 23章 13 ~ 25節

「死刑判決をお受けになったイエスさま」

〔単元のねらい〕

受難週を前に、主イエスが死刑を受けられた物語を読む。罪とは何か。罪人とは誰か。問 18,19 をここで改めて子どもらと学びたい。そして、その罪の身代わりになって死んでくださった主イエスに心から感謝したい。また、この一連の受難の歩みは、人間の悪の勝利ではなく、神の選びのご計画に基づく神の勝利であることを鮮やかに語りたい。普通に読めば、子どもらはピラトや群衆を愚かな者と軽蔑し、憎むかもしれない。しかし、主イエスを逮捕し形だけの裁判を行ったユダヤ指導者たち、「十字架につけろ、殺せ」と叫んだ群衆、その叫びに屈したピラトと自分たちとを二重写しに見せたい。深い罪の自覚と真実な悔い改めへと導きたい。

先週はイエスさまがオリーブの山、ゲツセマネで苦しみもだえて祈られたことを学びました。イエスさまが、お祈りを終えると、弟子の一人であったユダが群衆と兵隊を率いて、イエスさまを捕まえるためにやって来ました。ユダは、イエスさまを裏切ったのです。イエスさまは、彼らに何の抵抗もなさらずに、捕まえられてしまいました。その後、ユダヤの裁判所に連れ出され、形だけの裁判をされました。そして次に、総督ピラトのところ、さらにその後、ヘロデのところ、そしてまた今度は、ピラトのところに戻されます。ピラトこそ、ローマの総督でこの地方を治める最も力のある人だったからです。

ピラトは、イエスさまを調べました。しかし、イエスさまに罪があるとは認められませんでした。それは、ヘロデも同じだったのです。ピラトは、イエスさまには罪がないので、逃してあげることになりました。ピラトは言いました。「わたしは、お前たちの前で、この男を調べた。しかし、罪を認めることはできなかつた。鞭を打って懲らしめて釈放する。」するとどうでしょう。ユダヤの人々は一斉に声を挙げました。「その男を殺せ。代わりにバラバを釈放しろ。」バラバというのは、エルサレムの町で暴動を起こした人、そして殺人の罪で捕らえられていた犯罪者です。ユダヤの人々は、イエスさまではなくこの犯罪者バラバを赦すように大声をはりあげたのです。ピラトは、何度か、彼らの叫びを無視しました。けれども、彼らは、一向に止めません。とうとう、ピラトは、

三度目に、「この人は罪がないのだ。死刑にすることなどできない。ただ、鞭を打ってやる。そして、釈放するのだ。」ところが、それでも、彼らは叫びを止めません。むしろ、さらに大声で言いました。「その男を殺せ、十字架につけろ。」

ついに、ピラトは考えました。「このままでは、まずいな。騒ぎが大きくなると、ローマ皇帝の耳に届いて、私自身が民衆を上手に治められない者と見られるかもしれない。私自身が叱られてしまうかもしれない。この男がどうなろうと、わたしの知ったことではない。ただ心配なのは、このままでは、私の責任になってしまうかもしれない。私の立場が、危なくなってしまうかもしれない。ユダヤ人が殺せと言うのだ、あいつらの好きなようにさせよう。そうすればこの興奮も冷めるだろう。」そして、厳かに言いました。「よろしい、お前たちの望むようにしてやろう。この男を殺す、十字架につける。」

ユダヤの人々は、何故、「イエスさまを殺せ、十字架につけろ」と叫んだのでしょうか。何故、こんなに怒ったのでしょうか。人々は、自分たちが裏切られたと思ったのです。だまされたと思ったのです。きっと、このイエスさまこそ、自分たちをローマの国から、自由にしてくれる英雄、王様になってくれる人だ、このイエスさまによって、ユダヤの国は、自由な国になれるのだと考えていました。イエスさまのことを、そのような、王様と考えていたのです。ところが、イエスさまは、ローマの兵隊と戦われません。捕まえられただけ

でした。そのイエスさまのお姿は、彼らが期待していた王様の姿ではありませんでした。だから、イエスさまを見捨ててしまったのです。つい何日前まで、イエスさまの事を、素晴らしい素晴らしいと称える歌を歌ったばかりの人々です。

皆は、この人たちの事をどう思いますか。すごい自分勝手な、悪い人々だと思いますか。イエスさまを裏切ったユダ、イエスさまを最初から殺そうと企んでいたユダヤの指導者たち、律法学者、祭司長たち、皆、イエスさまを殺してしまった責任があります。彼らは、妬んでいました。イエスさまが人々の人気を独り占めしてしまったからです。このような、人々のことを皆はどう思いますか。最後に、ピラトです。ピラトは、イエスさまを助ける事ができる立場にいました。ユダヤ人が何と言おうと、この人には罪がないと考えていたのですから、殺してはならなかったのです。けれども、大勢の人に悪く思われなくなかったのです。自分を守りたかったのです。皆は、ピラトのことをどう思いますか。

聖書は、イエスさまを殺してしまった人々について、「この人たちはなんて悪い人間なのだろう。こんな悪い人々、特別に悪い人間達だったから、イエスさまは殺されてしまったのだ」って言うような書き方をしません。何故だと思いますか。そ

れは、このルカによる福音書を書いたルカさんが、「実は自分もこの人々の中の一人なのです。自分も自分勝手に、自分を守るためなら、イエスさまを見殺しにしてしまった側の一人です」と考えているからです。皆は、自分のことをどう考えますか。「僕は、人を、しかもイエスさまを殺すような悪い人間じゃない」と思いますか。先生は昔、自分のことをそう考えていました。でも、今は違います。先生は、イエスさまを殺した側の人間なのです。罪人なのです。

けれどもイエスさまは、先生の罪を償うために、十字架につけられました。あなたのために身代わりに死んでくださいました。イエスさまが十字架に磔けられたのは、決して偶然ではありません。神さまのご計画だったのです。人間は、イエスさまに悪い事を行って、本当に殺してしまったのですが、神様は、そのイエスさまを復活させてくださって、僕たち私たちを救う道を開かれたのです。神さまの愛を見せてくださったのです。十字架は、イエスさまの敗北ではありません。イエスさまの勝利です。イエスさまは、たった一人で、僕たち私たちを救うために、この苦しみを味わわれたのです。今週も、僕たち私たちのためにこのようにお苦しみくださったイエスさまを、お祈りして思い続けましょう。

今週の暗唱聖句

しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、
キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、
神はわたしたちに対する愛を示されました。

ローマの信徒への手紙 5章 8節

〈展開例〉

イエス様は、とうとう十字架にかけられて、殺されることになりました。本当に十字架にかけられてイエス様は死んでしまわれるのです。どうしてでしょうか？ 私たちみんなの心のなかには、ウソをついたり、お母さんやお父さんのいうことをきかなかったり、わがママを言ったりする心があります。このままでは、神様から遠く遠く離れてしまいます。すこしも近づくことも出来ないのです。イエス様はそんな私たちが神様と結び合わされて、ずっとずっと一緒に居られる道を下さる為にこのような苦しみにあわれました。そして本当に、十字架にかけられて殺されるのです。でも、イエスさま様はもう一度、よみがえられます。いのちをかけて私たちを助けてくださったのです。

〈祈り〉

てんのおとうさま。

私たちが罪から救うために十字架にかかって死んで下さったイエス様の大きな愛をありがとうございます。そんなイエス様を忘れないように、お守りください。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉

133 ページに掲載いたしました。

〈礼拝説教のおさらい〉 ルカ 23:13-25

- 序 ・オリーブ山で捕らえられたイエスさまは、ピラトの前に引き出されました。
- 本 ・イエスさまに何の罪も認めることができなかったピラトは無罪を言い渡したが、ユダヤの人々はイエスさまを十字架につけよ、と叫びました。
- 結 ・人々の声に負けたピラトは、イエスさまを十字架につける事を許可しました。しかし十字架の出来事は、人間の企てではなく、救いのための神さまの愛のご計画だったです。

〈やってみよう〉

- * ピラトの前に連れられたイエスさま、そしてそれを取りまく群衆・・・。
そこに居合わせた人々の気持ちを考えてみよう。

ピラト

ユダヤの人々

でしたち

もしボクがそこにいたら何を思ったかな？

- * ゴルゴダの丘に、もし自分がいたら・・・と想起することによって、自分もまたイエスさまを十字架にかけてしまった人々の一人になっていたかもしれないことに気づかせる。

伝言板

先々週は、子どもの心にも残酷な思いが潜んでいることの話をしました。

振り返ってみれば、世界の歴史は、人間の残酷さの歴史のように見ることもできます。挙げればきりがありませんが、信長の草履をふところに温めて蓄められた秀吉は、朝鮮出兵において、一カ月余りで朝鮮の人の鼻を、29251個、日本に送って来ました。女性も子どもも生きながらに鼻をそがれ、殺されました。殺した人数の証明に鼻を日本に送ったのです。これまでに、自分中心の主義主張、利己心によってどれ程の人の命が奪われてきたでしょう。昨今でも、テロリストによる無差別殺人で、一瞬にして6000人という人が殺されました。戦争難民が路頭に迷う中、報復戦争が始まりました。

神の御ひとり子なるイエスさまを、十字架にかけた人間は、罪を悔いることなく残酷な殺人を続けてきました。

人間の“罪と死”に勝利してくださったイエスさまを今こそ仰いで救いの恵みにあずかりましょう。

〈目標〉

人の無知のために殺された主のみ業を知り、悔い改めと信仰に導く。

〈指導上の心得〉

自分の罪のために死んで下さった主のみ業を子どもに伝えるため、教師自身がその感謝を示す。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・裁判で、主イエスを十字架につけるようにしたのは誰であったかを問う。
- ・主が十字架につけられたのは、ピラトと民衆によってであった。しかし、その背後に旧約から続く神様の救いのご計画があって、その救いの成就に向けて神様が働かれたことを語る。
- ・この救いの御業は、私たちの罪のためであり、そのために、神様が主を十字架につけられたのであることを語り、感謝と悔い改めに導く。

〈ワーク〉

1. イエス様を十字架につけろと言ったのは誰だったかな？
a) 王様 b) 民衆 c) ローマの兵隊
2. イエス様はどうして十字架につけられたのだろうか？ 下から選んでね。
a) 私たちの救いのため。神様が私たちを罪から救い出すために働いておられたから。
b) イエス様が何か悪いことをしたから。
3. それでは、私たちもイエス様を十字架にかけたのですか？
4. ローマの信徒への手紙 5:8 を覚えましょう。

答え

1. b 2. a 3. はいそうです。

〈目標〉 自己の罪に目を向ける。

〈指導上の心得〉

不正な裁判によってイエスさまは死刑の判決を受けられました。主イエスを死刑にしたのは、いったい誰か。「主よ。あなたを十字架につけたのは、この私です。」と告白する者とされたい。

〈展開例〉

- (1) ポンテオ・ピラト、人々、そしてあなた：ポンテオ・ピラトとあなたは全然ちがう時代に生まれ、かたやローマの総督という偉い人、かたや小学校〇年生。同じところは何もないように思えます。でも、ひとつだけ、同じところがあります。それは罪を持っている、ということです。ピラトの前で、十字架につけろと叫んだ祭司長たちや律法学者たちや民衆とも、あなたは全然違う人間です。しかし、同じところが一つだけあります。それはやはり、罪を持っているということです。
- (2) カテキズムの復習【問18】罪を犯した人間は

どのようなものでしょうか。カテキズムを思い出しましょう。この中で、「心が曲がって、自分中心になり」という言葉があります。罪人は心が曲がっているので、神さまの方に心がまっすぐに向いていません。自分ばかり見ているのです。この点で、ポンテオ・ピラトも、人々も、私たちも同じです。私たちのためにも十字架につけられて死んでくださったのなら、主イエスを十字架につけたのは、あなたを含めたすべての人間だといえるのです。

〈聖書日課〉ご受難

- 17日 いばらの冠 (マルコ 15:16-20)
 18日 裏切り① (ルカ 22:47,48)
 19日 ムチ (ヨハネ 19:1)
 20日 逮捕 (ヨハネ 18:12、13)
 21日 裏切り② (マルコ 14:66-68)
 22日 ゲッセマネの園 (ルカ 22:44)
 23日 十字架 (ヨハネ 19:17,18)

〈目標〉

イエス様と裁判の場で向き合ったピラトは、イエス様に対する自分の態度を自ら決めることなく、自分で責任を取ろうとしなかった。私たちがイエス様に向かい合う時、聖霊なる神様の助けによって自分の取るべき道を選べるように勉める。

〈展開例〉

捕らえられたイエス様は、そのころのイスラエルを占領していたローマ帝国の総督ポンテオ・ピラトのところに連れてこられました。祭司長や律法学者たちは、なんとかイエス様を死刑にしてみましたかっただのです(ヨハネ 18:31)。

○罪がみつからない

ピラトはイエス様を取り調べましたが、祭司長たちが言っているような罪はどこにも見つかりません。それはそうです。イエス様は人でありながら全く正しい神様でもあられるのですから、いくらさがしたところで、死刑にできるような「罪」は見つかりっこないのです。

ピラトは「この男に何の罪も見いだせない」(ルカ 23:4)と言って、イエス様をガリラヤを支配していたヘロデ王のところへ送りました(マタイ 23:7)。本当にピラトがイエス様には罪がないと確信するのなら、ピラトはこの時にイエス様を釈放すればよかったです。でも、そうせずにヘロデの所へ送ったのは、自分で結論を出してその責任を負うのがいやだったからです。だれかが自分に代わって結論を出してくれることを期待していたのです。

しかし、ヘロデはさらに無責任でした。彼はイエス様に興味を持っていて、いろいろと質問したのですが、イエス様が何もお答えにならず、自分の興味が満たされないのを知ると、イエス様を侮辱して、ピラトへ送り返しました。彼も、自分では何の結論も出そうとはせず、イエス様の事について考えようともしていないのです。

○わたしには責任はない

送り返されてきたイエス様をピラトはさらに取り調べる事にしましたが、それでももちろん何も見つかりません。ピラトは、殺人犯のバラバとイ

エス様とどちらをゆるすか、祭司長たちに選ばせようと思いました。いくら、イエス様に敵対する祭司長たちでも、殺人犯と比べてイエス様の方がより重い罪があるとは言えないだろうと考えたのでしよう。あくまで自分で決定をくだそうとはせず、責任を誰かにとらせようとしているのです。しかし、イエス様をなき者にする事しか頭に無い祭司長たちは、「バラバをゆるせ」と叫びはじめました。このままでは暴動が起きそうだと心配したピラトは、ついにバラバをゆるし、イエス様を祭司長たちに引き渡しました。ここでも彼は「イエスの方は彼らに引き渡して好きなようにさせた」(ルカ 23:25)、「この人の血について、わたしには責任がない」(マタイ 27:24)と書かれているように、自分から責任を負おうとはせず、人任せにしてしまいました。

○人任せではなく

私たちも、ピラトのようにイエス様と向かい合う時があります。イエス様が「私のところへ来るか」とお尋ねになります。その問には、私自身が答えなければなりません。他の人に代わりに答えてもらうわけにはいかないのです。しかし、私たちには自分の力で答えることができません。

こうして教会に来ている私たちには、聖霊なる神様が一緒にいてくださいます。聖霊なる神様が、私のたましいを作り変え、「はい」と自らの態度を決めさせてくださいます。私たち自身は、もともと神様に背を向ける、祭司長たちのような者です。「イエス様の血は私に責任がある」と言わなければならない者です。その私たちを、神様は選んでくださって、「はい」と言う答えを私にさせてくださるのです。ピラトのように逃げるのではなく、イエス様としっかり向かいあえるようにお祈りいたしましょう。

〈祈り〉

天の父なる神様。私たちがピラトのようにイエス様に対する態度を自分で決めようとしないう者ではなく、聖霊なる神様の助けによって自分の口で「イエス様に従います」と答える事ができる者としてください。主の御名によって、アーメン。

テキスト

ルカによる福音書 23章 44 ~ 56節

この箇所は、主イエスの死について記されている箇所です。この箇所もルカのルカの独自性に目を留めつつ、注意深く御言葉に聞きましょう。

(1) 異常な徴

「全地は暗くなり」「太陽は光を失っていた」。これは単なる自然現象ではありません。この暗闇は様々に説明することができるでありましょう。その一般的なものは、終末的な出来事として理解するものです。特にルカでは、この暗闇は、この起ころうとしている出来事が、自然をも含む被造物全体の出来事であることを示していることができます。

さらに裂けた神殿の幕は、ヘブライ書で解釈されている事柄にしたがって、主イエスの贖いの御業によって神様へと至る道が開かれた、ということの意味していると思われる。

この二つの徴を重ねてみると、主イエスの死が全地、被造物全体に影響を及ぼすと同時に、特に救いの核心、救いの根幹に関わることであることが分かります。

(2) 主イエスの死

主イエスの死について、このルカ福音書では、エリヤへの呼びかけと人々がとった、見捨てられることへの叫びも、エリヤについての言及も全く書き記されていません。そこに示されるのは、主イエスの独特の態度だけです。特に、その最後の言葉によって表れています。この主イエスの最後の言葉は、詩編 31 編 6 節の引用であるといわれており、この句は当時敬虔なユダヤ人たちが就寝の祈りとして用いていたともいわれています。それは、ユダヤ人にとって、眠りは死の前段階であり、朝毎の目覚めは新たに命を得ることと考えられていたからです。その様な祈りの言葉を主イエスが口になさったのです。

それは、死を前にした主イエスが父なる神様に御自身の例をゆだねたことなのです。このことによって、御父の完全な保護を信じる、御子として相応しい確信が表現されたのです。つまり、この

主イエスの叫びは、神様への信頼の祈りと、自らの魂を神様にゆだねるものであるのです。主イエスは、死の痛みに対する怒りや、疑いや、のたうち回る様子も、また、この様な死を諦めて忍耐するという事もあります。むしろルカは、平穏と受容と信頼とを描きます。主イエスは、神様を信頼して素直に従って、御自身の贖い主としての任務の終了として、この死を肯定するのです。死は、主イエスにとって終わりではありません。神様のみもとで生命が持っているものであり、死においてこそ、主イエスの全能が発揮されるという確信がそこにあるのです。

(3) そこに居合わせた人々の反応

ルカは主イエスの死に続いて、そこに居合わせた人々の反応を記しています。

まず、ローマの百人隊長ですが、彼は、この死の出来事に感銘を受け、ローマ人として再び主イエスの無罪を証しし、そのことによって神様を賛美しています。主イエスが人々を神様を賛美することへと導く、ルカの特徴が表れています。

次に人々ですが、彼らは見せ物を見るように集まってきたのですが、ここで起こった出来事の本当の意味を知ったのでしょうか。彼らは深く悲しみ「胸を打ちながら」、つまり、罪の悔い改めを示して家路につくのです。主イエスの死が、彼らに悔い改めをもたらしたのです。

第三に「イエスを知っていた・・・婦人たちが」が記されています。ここに、弟子という言葉は出てきません。「主イエスを知っていた」と弟子たちがいた可能性が残されていますが、しかし、遠くに立つことによって、すべての者が主イエスから離れたことが示されています。そして、このように弟子が示されないことによって、復活後のこの弟子たちを集められることに、深い意味がでてくるのです。また、知り合いの人や婦人たちが、主イエスの死に立ち会い主の死の証人となったことということは、彼らが復活の証人となるために必要なことでありました。

ルカによる福音書 23章 44 ~ 56節

「十字架と葬り」

〔単元のねらい〕

これまで、受難節を覚えるカリキュラムによって、子どもらの祈りの生活が励まされて来た。いよいよ受難週を迎え、教会によっては特別の祈りの集いが持たれるかもしれない。子どもたちにも、受難週を特別の週として意識させる事は、信仰教育上意義が深い。この一週間は、その冠となるように、さらに祈りに導くべく工夫したい。特に契約の子らは、春休みに教会に集まって、子どもの祈禱会を行うのも重要である。牧師が説教し祈りを導きたい。難しければ、朝夕の祈禱会に親子で出席する事も考えられよう。その際にも、契約の子への指導が中心となるような祈禱会とする事が大切であろう。奉仕者一同、本日こそ、目の前にイエス・キリストの十字架につけられた姿をはっきり示す（ガラテヤ 3:1）事ができるように、特別の祈禱の備えを持って臨みたい。聖霊によらなければ、誰も主イエスを告白できない。そうであれば、毎主日のことであるが、説教（者）の為の祈りを欠いて、良き子ども礼拝式が捧げられる事は期待できない。

今日から始まる一週間を、教会では受難週と言います。イエスさまが苦しみを受けられ、十字架につけられ、復活されるまでの一週間を特別の思いで、祈りのうちに覚えて過ごします。皆も、お祈りしていると思いますが、それぞれ励ましあって、毎日のお祈りを忘れないようにしましょう。

さて、先週のお話の続きです。イエスさまは、「十字架につけろ、殺してしまえ」と叫び続けた、群衆の声に負けて、イエスさまを彼らの好きなようにさせました。こうして、イエスさまは、十字架に磔られるために、「されこうべ」、骸骨と呼ばれる場所に連れて行かれます。人々は重い木の十字架を、一晚中寝ていないイエスさまに担がせました。

イエスさまは、午前中に、骸骨、ゴルゴダという名前の丘に連れて行かれました。手には釘を打ち込まれ、足にも釘を打ち込まれました。イエスさまの釘つけられた十字架は、二人の強盗の真ん中に立てられました。このように、イエスさまは罪人の一人として、十字架につけられたのです。お昼の12時になりました。するとどうでしょう。最も、太陽が高く昇る時間なのに、真っ黒な雲がもくもくと現れました。そして、太陽の光をさえぎってしまったのです。あたりはすっかり暗くなってしまいました。まるで、太陽も月も、自然界が、神さまの御子のこのような姿を見たくない、

悲しいと言っているようです。そのような状態が、3時まで続きました。そして、イエスさまは幾つかのことを語られました。福音書には、七つの言葉が記されています。ルカによる福音書の中には、その中の一つの言葉が記されています。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られました。

最後の最後まで、イエスさまは父なる神さまを愛し続け、信じ続けておられたのです。あのオリブ山のゲツセマネで、イエスさまの父なる神さまに、「御心がなりますように」と汗を血の滴りのように流されて、祈られたイエスさまです。ですから、十字架の上で血を流しながら、体の痛みや、心の痛み、そして何よりも、今こそ、受けなければならない神の刑罰、神の怒りを受けようとされたとき、「痛みを和らげて下さい」とか、「神さまの怒りを手加減してください」とか祈られなかったのです。「すべてをゆだねます。すべて、父なる神さまがなさる事を受け入れます。」このように祈られたのです。

そのようなイエスさまのお姿を最も身近で見ていたのは、ローマの百人隊長でした。イエスさまを十字架につけるのに手を動かした人でした。その人は、このイエスさまの十字架のお姿を見て言いました。「本当に、この人は正しい人であった。」十字架の上のお姿、それは普通であれば、人間が

最も汚くなってしまう処刑の方法だと思います。とてつもない、苦しみ、痛みがあるのです。しかも、すぐには死ねません。じわじわ死んでいくのです。百人隊長は、それまで何人も犯罪者が、呪いの言葉、汚い言葉を言って、苦しんで死んでいったのを見てきたと思います。だからこそ、こう言ったのでしょうか。「本当に、この人は正しい人であった。」でも、もう遅いのです。イエスさまは死なれました。父なる神さまが、僕たち私たちの罪をイエスさまの上に乗せて、罰せられたのです。手加減はありません。神さまの怒りが僕たち私たちに向けられたのではなく、罪のまったくない独り子イエスさまに下ったのです。人間が今まで経験した事のない、本物の死をイエスさまは十字架の上で経験されたのです。イエスさまは、まったく従順に父なる神さまの審きを受け入れられました。

午後3時になりました。その日は金曜日。もう、日が沈んでしまったら安息日となり、掟によって、イエスさまの死体を取りおろす事ができなくなります。弟子たちは逃げてしまっています。そこで、率先してヨセフと言う議員が、イエスさまを取りおろし、岩に掘った墓の中に納めました。このよ

うにして、イエスさまは葬られたのです。完全に死なれたのです。これはすべて歴史の事実です。本当に今からおよそ 2000 年前にイエスさまは十字架で死なれました。

聖書は、イエスさまは、このように僕たち私たちに教えています。「これはあなたのためです。あなたを神さまの子とするためには、あなたの罪を償うためには、これ以外に方法がありません。」父なる神さまは、独り子イエスさまをご自分の御手で罰せられました。人間が殺したように見えます。確かその通りです。でも、本当にイエスさまが死なれたのは、父なる神さまの審きを受けられたからです。父なる神さまはどんなに心に、痛み、悲しみをもたれた事でしょうか。イエスさまは、父なる神さまから一度も離れてしまったことはありません。いつも愛され続けてきました。でも、今、イエスさまはお墓の中におります。すべては、僕たち私たちが、神さまの愛と祝福、赦しと命を受け取るためなのです。

今週一週間、十字架のイエスさまを思って勉強したり、遊んだりしましょう。イエスさまの愛が皆の心のなかに注がれて、イエスさまへの愛がもっともっと溢れ出しますように。

今週の暗唱聖句

もっとも大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、
わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてある
とおりわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと（です。）

コリントの信徒への手紙 二 15章3～4a節

〈展開例〉

イエス様が十字架にかけられ、死なれた時、世界はどうなってしまいましたか？

・・・お昼なのに、まっくらになってしまったのでした。イエス様は十字架にかけられて、血を流されました。本当に痛くて苦しい時も、最後まで神様にお任せして、本当は私達が受けなければならない罰を、受けてくださったのです。そしてイエスさまはお墓に入れられました。イエス様は本当に神様とまったく離れた、まっくらで少しも光のないところまで、たったお一人で行かれたのです。

〈祈り〉

てんのおとうさま。

次の日曜日はイースターです。次の日曜日まで、特にイエス様のことを思って過ごせますようお守りください。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉

134 ページに掲載いたしました。

〈礼拝説教のおさらい〉 ルカ 23:44-56

- 序 ・ 神殿の垂れ幕が真ん中から裂け「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」との祈りの内に息を引き取られました。
- 本 ・ 事態を見守った百人隊長は「本当に、この人は正しい人だった」と、神を賛美しました。
- 結 ・ ヨセフという議員が、遺体を降ろして墓に葬りました。真の人であり真の神であられるイエスさまは、人間としての死をお受けになり、葬られ、よみにまで下られたのです。

〈やってみよう〉

- 受難週祈りのノートを作る -

- ① 下のノートを拡大コピーする。
- ② _____ を切り、
 を山折り、
 _____ を谷折りにして、
 ミニブックのようにする。

③ 今日 3月24日は、1 ページにあたるので色をぬり、聖書を開き、書かれてい御言葉が何章何節かを書き込む。今週一週間毎日聖書箇所を読み、お祈りできるよう励ましましょう。

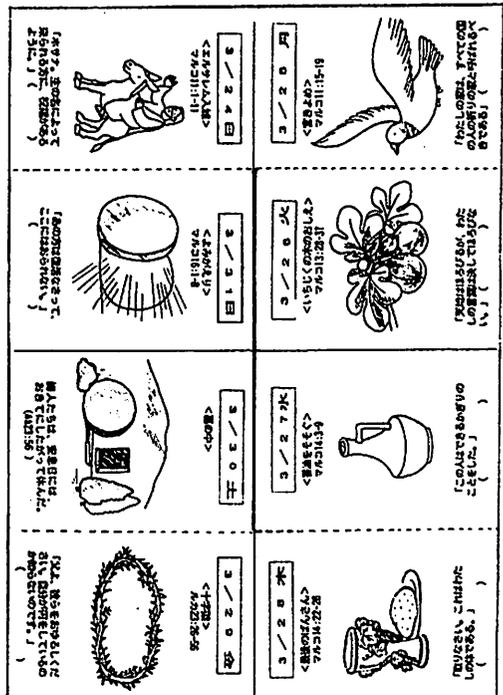
伝言板

神殿の垂れ幕が真ん中から裂けたように、イエスさまによって、神さまと、私たちの隔たりが取り去られました。「天の父なる神さま・・・」と祈れることは、なんとうれしことでしょう！！

神さまは現在の世界の状況をご覧になり、心を痛めておられることでしょう。しかし、このような罪に満ちた暗黒の世界にも、夜空に星がきらめくごとくに、神さまは神の子どもたちを、“星”として見て下さいます。真の光なるイエスさまの光を受けて輝いている神の子たちを・・・。

「よこしまな曲がった時代の中で、非のうちどころのない神の子として、世にあって星のように輝き、命の言葉をしっかり保つでしょう」(フィリピ 2:15)

夜空を見上げるたびに、「ガンバレ、星のこどもたち・・・」と、世界中の神さまのこどもたちのことを、祈ります。



136 ページに拡大したものを掲載してあります。

〈目標〉

主の受難がイエス様と自分が結び合わせられるために必要なことであったことを覚える。

〈指導上の心得〉

主の死によって、今自分が神の子とされていることを感謝しつつ指導する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・ 前回の復習も併せてイエス様は誰のため、また、何のために十字架に架られたのかを子どもたちに尋ねる。
- ・ 主が十字架で死んで下さって、自分たちの罪を赦して下さったことを伝え、主の十字架の死以外に私たちの神様に対する罪を赦すものは何もないことを十分に伝える。
- ・ 主を信じるだけで、自分たちが神の子とされるのであることをしっかりと覚えさせる。

〈ワーク〉

1. イエス様はなぜ十字架で死なれたのでしょうか？
2. イエス様が十字架で死んで下さる以外に、私たちの罪が赦される方法はあるかな？
 - a) あるよ。たとえば良いことをするとか
 - b) ない
3. イエス様を信じるとどうなるのでしょうか。
 - a) 罪が赦されて、神の子とされる
 - b) 何もならない
4. 第一コリント 15:3,4 を書いて覚えよう！

答え 1. 人間を罪から救うため 2. b 3. a

〈目標〉

主のご受難を覚える。

〈指導上の心得〉

棕梠の日曜日とされる今日より、いよいよ受難週がはじまります。栄光に向けられた、ご受難の最後の一週間の、主の足跡をたどってみましょう。

〈展開例〉

(1) エルサレムの地図を用意する。たとえば、『イスラエルに見る聖書の世界～新約聖書編～』（ミルトス編集部）の巻末の地図をコピーする。

(2) 次の言葉を書いた小紙片を用意する。

日：勝利の入城

月：宮きよめ

月・火：さまざまな教え

水：香油をそそがれる

木：最後の晩餐

木：ゲッセマネの祈り、逮捕

金：十字架の死

※なるべく地図上の絵や名称が隠れない程度の大きさにしてください。

(3) マルコの福音書を読みながら、上の小紙片を地図の該当箇所につけてみよう。

(4) 地図に下の聖書日課をつなげて、毎日朗読し、祈ろう。

〈聖書日課〉 十字架上の主の言葉

24日 「あなたの子です」(ヨハネ 19:26)

25日 「今日私と一緒に楽園にいる」

(ルカ 23:43)

26日 「彼らをお赦しください」(ルカ 23:34)

27日 「エリ・エリ・レマ・・・」

(マタイ 27:46)

28日 「渇く」(ヨハネ 19:28)

29日 「父よ、わたしの霊を御手に・・・」

(ルカ 23:46)

30日 「成し遂げられた」(ヨハネ 19:30)

※各御言葉の意味を簡単に記すとよい。

〈目標〉

イエス様の十字架上での最後の言葉から、最初から最後まで神様に従順であったイエス様の歩みを学ぶ。それは、私たちが天の御国に入るために私たちがなさねばならないことであつたが、それができない私たちのためにイエス様がかわってしてくださいましたことである。

〈展開例〉

イエス様が十字架の上で最後に口にされた言葉は、「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」(ルカ 23:46) という一言でした。受難週の今日は、この言葉を巡って一緒に考えてみましょう。

○苦しみと絶望の中で

イエス様が十字架上で味わわれた苦しみはすさまじいものでした。十字架の刑というのは、死刑の中でも特に苦みの長く続く残酷な刑罰だったそうです。手足を釘付けにされ、槍でわき腹に死ぬほどではない傷をつけられ、じりじりと太陽の光に焼かれ、しだいしだいに弱って死んでいくまでほったらかされるのです。イエス様は、お昼前に十字架にかけられて、午後三時ごろに死なれたと聖書に書かれています。その三時間以上の間、イエス様は大きな肉体の苦しみを味わわれたのです。イエス様は子なる神様ですが、同時に完全な人でもあられました。先々週にお話ししたように、完全な人であるイエス様は、悲しみ、痛み、苦しみもしっかりと受けられたのです。

そして、イエス様は十字架の上で心にも大きな苦しみをお受けになりました。「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」(マルコ 16:34) というイエス様の叫びは、神の子であるイエス様が本当に神様に見捨てられてしまうという絶望の中の叫びでした。本当は、神様に見捨てられるのは、神様に従おうとしない私たちであるはずですが、その私たちが神様の御国に導くために、絶望から希望へと大きな方向転換をさせるために、イエス様は私の身代わりになって大きな絶望をも味わわれたのです。

○最後まで神様に従う

そのような大きな苦しみと絶望の中で、イエス

様が最後にもらされたのは「御手にゆだねます」という言葉でした。「助けてください」でもなければ「うらんでやる」でもない、神様に信頼し、従おうとする御言葉でした。この言葉は、先々週学んだゲッセマネの園での「しかし、私の願いではなく、御心のままに行なってください」というお祈りと同じように、すべてを神様の御心におまかせしようとするイエス様の姿勢を表したものでした。イエス様は、死の直前の大きな苦しみと絶望の中で、神様にすべてをおまかせしようと思われました。イエス様が神様にすべてをおまかせして従われたのは、この時ばかりではなく、お生まれになってから死ぬ時までのすべての時間でした。

「キリストは、・・・死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」(フィリピ 2:6-8)。

○私の代わりに

神様に従順であること＝素直に従っていくことは、本来人間がはたさねばならない務めでした。しかし、神様に従うより自分が神様みたいになりたかった人間は、神様に従わない者になってしまいました。しかし、これでは、神様の御国に入ることはできません。罪を犯したアダムとエバがエデンの園を追い出されたように、とても神様のところへは行けないのです。

私たちが神様の御国に入るためには、私たちが神様に素直に従う者であると神様に認めていただくかなければなりません。そして、私には自分の力で神様に従うことはできません。イエス様は、私たちがしなければならぬつとめを、私たちに代わってしてくださいましたのです。イエス様がその最期の時まで神様に従ってください、私の受けるべき絶望を味わってくださいからこそ、イエス様を救い主と信じる私たちは、神様の御国へと導かれるのです。

〈祈り〉

天の父なる神様、救い主イエス様が苦しい十字架の最後の時まであなたに従ってくださいからこそ、私たちが御国に導かれていることを学びました。私たちがイエス様の十字架による救いを受け入れることができるようにしてください。

テキスト

ルカによる福音書 24章 36 ~ 43節

この箇所はエマオの出来事の後、二人の弟子たちがエルサレムへ移動してからの出来事が記されているところです。直前の箇所も良く読み、流れをつかみながら御言葉に聞いてまいりましょう。

(1) 主イエスの顕現

この出来事は、話の続きからして、真夜中の出来事であったのではないかと思います。彼らは、11人が「主が本当に復活なさってシモンに現れた」と話しているのを聞き、自分たちの体験も話すのです。しかし、この少数の者たちだけの証言であれば、「思いが強すぎて錯覚か、幻想でも見たのだ」と言われてもおかしくない事柄なのです。その様な状況の所に、主イエスが現れられるのです。今や、あの少数の、しかもバラバラの証言者の基礎に断つものではなくなったのです。まさに目の前に主イエスが現れられたのです。ここで、主イエスはある程度の多人数の共同体の前に顕現なさったのです。もう錯覚であるなどと言える次元のことではなくなったのです。

しかし、主を見た弟子たちの最初の反応は恐怖でありました。「彼らは・・・亡霊を見ているのだと思った。」それは、真夜中であつたからかも知れません。また、突然現れたからかも知れません。彼らは、復活の主を見てひたすらに驚き、恐れるのです。当時、主イエスが肉体をもって復活したという知らせをもたらした人々であっても、この最初に主の姿を見たとき、疑いを抱き、信じてできなかったのです。

(2) 復活の体を示される主

その様な恐れ疑いの心を起こしている弟子たちに、主御自身が復活の体を示し、御自身が現実生きておられることをお示しになったのです。

まず、主イエスは御自身の肉体をお示しになれるのです。弟子たちは、その傷を見、また、触れることによって、今日の前にいる方が、あの十字架につけられた主イエス御自身であることを知

り、また、現実の肉体を持つておられることを確認するのです。その肉体が通常の肉体ではないことは、これ以前の記述でも明らかになっています。(3)最後の疑いまで取りのけられる主

復活を信じるとは、肉体に触って確かめて信じてということではありません。見ないで信じてという信仰が大切です。目で確認しても、それはただちに信仰とはならないのです。弟子たちは嬉しさのあまりとは言え、復活の事実をなかなか信じていくことができないでいたのです。

主イエスは、信じていくことができない弟子たちを見放すのではなく、信じていくことができるように、彼らから疑いの残りかすに至るまでも取り除いてしまわれました。主は焼いた魚を食べるということによって、そのことを示されるのです。

この主の行いは、単に復活の事実をさらに示されたというだけではありません。エマオの事件にも表されていますように、主が十字架にかけられる前、主と弟子たちとの食卓の交わりの喜びがあつたのです。その喜びを想起させることでもありました。彼らは、主イエスの約束を想起させられ、心の目が開かれたのです。

このようにして、主の復活への疑いが弟子たちから取り除かれて、復活の主を信じていくことへと導かれました。

(4) 復活の主との交わり

この出来事を通して、主が真実に御復活なさったことが、最初の教会共同体である弟子たちに示されました。しかも、それは主との食卓の交わりの想起において示されたのです。

主はまさに復活され、弟子たちと共におられたように、今も私たちといつも共にいてくださいます。このことが明らかに示され、復活の恵みを味わう営みが礼拝であり、とりわけ御言葉と礼典です。つまり、主の食卓において、弟子たちと同じように、私たちも復活の主の交わりにあずかり、主の復活を実感することができるのです。

ルカによる福音書 24章 36 ~ 43 節

「復活と顕現」

〔単元のねらい〕

復活祭おめでとうでございます。キリストが事実甦られたこと、これこそ福音である。この計り知れない恵みの故に、今日の私、教会、人類がある。説教奉仕者は、自分の救いの喜び、感謝を子どもらにストレートにぶつける事ができるし、そうして頂きたい。この日は、分級はお休みして合同クラスを持って、復活の喜びを分かち合う教会も多いことであろう。降誕祭のシーズンは、町中がクリスマスモードになって、クリスマスの意識を商業的に駆り立てられる。しかし、復活祭は、日本では知られる事もなく、祝われることもない。それだけに、一般の子どもらの心の中に「復活祭」を強く印象づけたい。分級を行わない日曜学校のためにも礼拝式で、復活の喜びが溢れる礼拝式となるように、工夫したい。

今日は、イエスさまがお墓を打ち破って、死人の中から復活された日です。みんなで、このように挨拶しましょう。「イエスさまの御復活おめでとうでございます。」

金曜日に十字架に磔けられたイエスさまは、その日の内に岩を掘ったお墓の中に納められました。その日から教えて第三日目、つまり日曜日の朝に、イエスさまは天のお父さまによって、甦られました。これがイエスさまの御復活です。

ところが、弟子たちはすぐには信じられませんでした。ルカによる福音書によれば、最初にイエスさまのお甦りの知らせを天使から受けたのは、女のお弟子さんたちでした。次に、エマオの村に向かって歩いていた二人のお弟子さんたちにイエスさまはお姿を現されました。二人が一緒に歩いて聖書のお話をしてくださったのがイエスさまだった事に気づくと、彼らは大急ぎでエルサレムに戻って使徒たちにイエスさまがお甦りになられた事を、告げました。

弟子たちは女の人たちの知らせや、この二人の知らせを受けて、イエスさまが本当にお甦りになったのかどうか、あれこれ話し合っていました。ちょうどその時です。イエスさまが、復活のお姿を現されました。そして仰いました。「あなた方に平和があるように」。けれども、お弟子さんたちは、目の前にイエスさまがおられてもまだ、本当に復活されたのだとは考えられませんでした。「これは、イエスさまの亡霊だ。私たちは、イエスさまの幽霊を見ているんだ。イエスさまの亡霊

が目の前に現れたのだ。」そう考えていたのです。イエスさまを裏切り、見捨てて逃げてしまった弟子たちです。どんなに驚いたことでしょうか。もちろん復活された事は驚きです。それと同時に、イエスさまが、何にも叱られずに、むしろ、「平和があるように」と祝福してくださったことも驚くような事だったと思います。

お弟子さんたちがこう思って、おどおどしているのをご覧になったイエスさまは、仰いました。「何故、うろたえているのか。どうして心に疑うのか。お化けや幽霊ではないですよ。手や足を見てごらん。触っても良いですよ。」こう言ってイエスさまは手と足をお見せになられました。なんだかイエスさまは、おかしくてしかたがなくて、からかっておられるような感じです。本当ならイエスさまは、弟子たちが信じないでいる事を、厳しく叱られても良いはずですが、でも、イエスさまは、このお弟子さんたちが救われた事、神の子とされたこと、信じる者が誰でも罪を赦されて、神の子とされることを思われて、嬉しくてならないようです。叱ることは二の次です。誰でもイエスさまを信じる者は、イエスさまのように体も復活して、永遠の命の祝福に与ることを、イエスさまご自身が一番喜んでおられます。実に 2000 年前イエスさまは、事実、復活なされたのです。イエスさまは、弟子たちの目の前で、焼いた魚を一切れ、弟子たちからもらって、見ている前で食べられました。もういくらなんでもお弟子さんたちも気づきました。

多くの人が、イエスさまの十字架までは信じます。けれども、イエスさまが復活されたと言うと、「そんな事あるわけないよ。信じられないね。」と言います。それは、当たり前でしょう。今まで、人間の中で死んで復活した人は、イエスさま以外には誰もいませんから。あれほど、イエスさまからご自身が復活すると教えていただいた弟子たちだって、最初は信じなかったのです。でも、そんなお弟子さんたちが信じました。イエスさまをその目で見たからです。お弟子さんたちは、イエスさまが兵隊に捕らえられたときには、パッと逃げて行ってしまいました。しかし、その同じ弟子たちが、直ぐに同じエルサレムで、「イエスさまはお甦りになられました。神さまは、イエスさまを復活させられました。イエスさまこそ、神のみ子です。救い主です。あなた方は、イエスさまを殺してしまったほどの、罪人ですが、神さまはイエスさまの十字架を信じればそれだけで、救われる道を開かれました。イエスさまを信じなさい」と伝道を始めました。もう、命も惜しくはない、たとえ殺されても平気だ、そんな勇気を持って、イエスさまの復活を宣伝したのです。

イエスさまは、お弟子さんたちに、改めて旧約聖書を開いて、イエスさまは三日目に復活される

ことになっていることを、教えてくださいました。イエスさまは、弟子たちの心の目を開いて、聖書に書いてあることを正しく信じる事ができるようにしてくださったのです。この後、弟子たちは、聖書を開いて世界中に宣べ伝え始めました。「聖書に書いてある通り、イエスさまは御復活されました。聖書は神さまの御言葉です。イエスさまの御言葉も間違いのない、神さまの御言葉です。イエスさまはお甦りになりました。イエスさまを信じたら、あなたも神さまの子どもにさせていただきます。死んでも死なない命、永遠の命が与えられます。あなたも、死に負けない人になれます。」

今も、イエスさまの弟子たちの集いの教会は同じことをしています。聖書を開いて、イエスさまの十字架と復活を宣べ伝えているのです。今日は、2002年の復活祭です。けれども、毎週日曜日、教会は復活のイエスさまを礼拝するために集まります。毎週の礼拝式は、イエスさまの復活のお祝いです。復活によって教会は生まれたからです。先生も救われました。僕たち私たちも、イエスさまの復活によって救われるし、救われています。

イエスさまは死人の中から、復活されました。おめでとうございます。

今週の暗唱聖句

また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したごと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。

コリントの信徒への手紙 一 15章4b～5節

〈展開例〉

今日はイースターです。イースターおめでとう。

何でおめでとうって言うのでしょうか？ 誰かのお誕生日でしょうか？

・・・今日のお話で聞いたように、十字架で殺されたイエス様が、お墓の中からよみがえられたのです。そして、たくさんのお弟子さんたちによみがえった体で現れました。イエス様は死ぬことにも、勝利されたのです。イエス様がよみがえられたことをお祝いして賛美しましょう。

〈祈り〉

てんのおとうさま。

イエス様がお言葉どおり死んで三日目によみがえって下さり、私たちがいつまでもずっと神様と一緒に居られるように結び合わせて下さってありがとうございます。みんなで、このイースターを喜んでお祝いできますように。

イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

〈工作〉

135 ページに掲載いたしました。

〈礼拝説教のおさらい〉 ルカ 24:36-43

- 序 ・墓に葬られ、第三日目にいったい何が起
こったのでしょうか
- 本 ・イエスさまは、弟子たちに復活なさったお
姿を、順番に現して下さいました。焼い
た魚も食べてお見せになられました。
- 結 ・確かに復活されたイエスさまは、がっかり
して座り込んでしまっている弟子たちの
ところ現れて、共に食事をして下さい
ました。それは、イエスさまのみ体なる
教会が、イエスさまと共にあり、御言葉
に養われ（エマオの途上の出来事）、聖餐
の食卓をイエスさまと共に囲む群れとな
っていくことを、教えて下さいました。「わ
たしは世の終わりまで、いつもあなたが
たと共にいる」（マタイ 28:20）

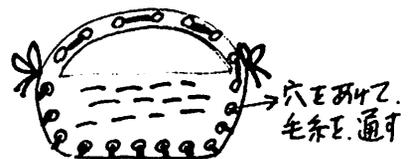
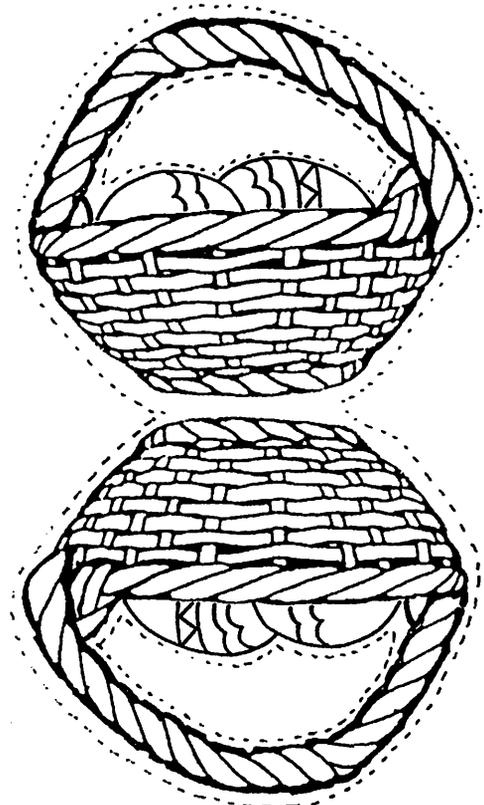
〈やってみよう〉

- イースターエッグを入れる紙バックを作る -

用意するもの

- ・画用紙
- ・はさみ
- ・穴あけパンチ（一つ穴）
- ・毛糸

- ① 200%の倍率で画用紙に拡大コピーする。
- ② ----- を切り抜く。底は切り離さない。
- ③ 折り合わせて重ねて、穴をあける。
- ④ カゴの部分をも糸でかがる。
イースターエッグを入れて持って帰る。



伝言板

イースター、おめでとうございます。

「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、ケファに現れその後十二人に現れたことです。」（コリント一 15:3-5）

今年は2002年の復活祭です。喜びをもって、大きな声で賛美できることを感謝します。

私たちは、毎週日曜日、復活のイエスさまをお祝いし礼拝するため教会に集まります。

「主イエスを復活させた神が、イエスと共にわたしたちをも復活させ、あなたがたと一緒に御前に立たせてくださると、わたしたちは知っています。」（コリント二 4:14）

これからも、主の日ごとの礼拝で、復活なさったイエスさまを仰いで、救いの確かさを喜んで、大きな声で賛美いたしましょう。ハレルヤ!!!

〈目標〉

救いの成就を心から喜ぶ。

〈指導上の心得〉

復活の主は今も生きて私たちと共にいてくださることを覚えて感謝をしつつ指導する。

〈展開例〉

以下のことをヒントにしつつ生徒と対話をしていきましょう。

- ・自分たちにとって嬉しいときや嬉しいことはどんなとき（こと）かを話し合ってみる。
- ・しかし、その喜び以上の喜びがあることを語る。その喜びは主が御復活なさり、私たちに完全な罪の赦しと救いが与えられたことである。
- ・復活の主は、主を信じる先生たちはもちろんのこと、子どもたちとも共にいてくださる方であることをしっかりと伝える。主が御復活なさったことが、この時代の自分にとっても喜びとなることを伝える。

〈ワーク〉

1. みんなの嬉しいこと、嬉しいときって何だろう。教えて！
2. その嬉しいことがなくなったらみんなはどんな気持ちになるかな？
3. いつも感じる喜びがなくても、もっと大きな喜び、嬉しいことがあります。それは何でしょう？ 下の文章のカッコをうめよう。イエス様が（ ）してくださり、（ ）のために今も（ ）いてくださること。
4. コリントー 15:5,6a を書いて覚えよう！

答え 3. 復活、私たち、そばに

〈目標〉

主の復活を祝う。

〈指導上の心得〉

本日のテキストにちなんでおやつとジュースを用意し、私たちも主にある食卓を囲みましょう。

〈展開例〉

(1) 聖書朗読 (ルカ 24:36-43)

なかなか信じられない弟子たちに注目しよう。復活は、神様に信じさせていただくもの。

(2) 復活の利益 (ハイデルベルク問 45)

- ① キリストの義がわたしたちのものになる。
- ② 罪を犯さない新しい人間になれる。
- ③ わたしたちも必ず復活することの証し。

(3) グループ対抗ゲーム (テーマ「卵」)

① 卵料理の種類を言ってみよう。ゆでたまご、スクランブルエッグ、オムレツ、目玉焼き……。

多く言えたグループに得点5。

② スリーヒント動物あてクイズ。※出題者は、答えとなる動物の誕生に関係するヒントを含め、三つのヒントを順番に示していく。一つ目で当たったら3点、二つ目なら2点、三つ目なら1点。わかりにくいヒントを先に示すのがコツ。

(例)

くち木・さなぎ・2本の角→くわがた

砂浜、穴、ピンボール→カメ

子育てババ・足の上・南極→皇帝ペンギン

③ ○×ゲーム。1月6日の展開例で紹介したものを応用して遊んでみよう。たとえば、ダチョウ、カエル、にわとり、うずら、モンシロチョウ、カメ、カマキリ、サケの卵の絵を各マスに描く。交互にマスを選び何の卵か言えたら○か×をつける。早く同じ印を三つそろえた方が勝ち。勝ったチームに5点。

〈目標〉

人の知識では信じがたい「よみがえり」を信じられるようにして下さる聖霊の働きに信頼し、イエス様と同じように私もよみがえる事ができることを信じ待望することを勧める。

〈展開例〉

今日はイースター。私たちの罪がゆるされるために十字架にかかってくださったイエス様がよみがえられたのをお祝いする日です。

○主イエスのよみがえりを受け入れる

みなさんは、一度は死んだイエス様がよみがえられた、ということを素直に信じる事ができますか？ 実は、私はなかなか素直に信じる事ができませんでした。本当はイエス様は氣絶していた、あるいは仮死状態だったのが、お墓に入れられてから息を吹き返したのではないのだろうか、などと何とか自分の知識で納得できるような理由はないかと考えたりしていました。しかし、大きくなるにつれて、聖書のお話を繰り返し聞くにつれて、やっぱりイエス様は本当に死んで葬られ、そして本当によみがえられたのだと信じる事ができるようになりました。でも、それは、けして私に知識がついてきたからではありません。私の知識だけでは、やはり死人のよみがえりなどということは理解できないのです。

私の心に聖霊なる神様が働いてくださってはいじめ、私はイエス様が私の救い主であることを受け入れることができます。その時はじめて、イエス様は私の罪のために、私の身代わりになって、私が味わうはずだった神様に見捨てられるような絶望的な死をむかえられたことを知ることができます。イエス様の死がなければ、私の罪がゆるされることはありません。

しかし、イエス様が死んだままであれば、私たちは希望を持つことができません。罪はない者としていただいたとしても、その後、どうなるかということがわからないままなのです。イエス様はよみがえられました。私たちの心に働いて、イエス様が私の罪のために死んでくださったことを信じさせてくださった聖霊なる神様は、私にイエス

様がよみがえられたことをも信じさせてくださいます。それは、ちょうど、よみがえられたイエス様が、信じようとする弟子たちのために魚を食べさせて見せ（ルカ 24:41-43）、トマスに傷口に触れるようおっしゃった（ヨハネ 20:27）のと同じであり、信じようとする私たちの心を作りかえ、信じる事が出来るようにして下さるのです。

○私のよみがえりを希望する

私の罪のために死なれたイエス様がよみがえられたということは、罪の結果である死に打ち勝たれたということです。その罪は私たちの罪でしたから、私たちも罪の結果である死から解放されたのです。イエス様がよみがえってくださったからこそ、私たちも同じようによみがえって神様のもとに行くことができます（Iテサロニケ 4:14）。イエス様のよみがえりを受け入れる事が出来るようにしてくださった聖霊は、私たちが自分もよみがえることができるという希望を与えて下さいます。残念ながら、私たちは、この世ではいつかは死んでしまいます。この体はなくなってしまいます。しかし、それは私たちににとっては「終り」ではありません。イエス様がよみがえられ、天の神様の所へのぼられたように、私たちにもよみがえりと天の御国に入ることが約束されているのです。

私たちは自分では神様の御国に入れるような善いことは何一つできない者ですが、イエス様が私の身代わりとして罪のために死に、その死に打ち勝ってよみがえられたからこそ、私たちもよみがえって神様の御国へと入ることができるという希望を持つことができます。私の心を神様のほうへ作り変えて下さる聖霊なる神様が、その希望をもたせてくださるのです。

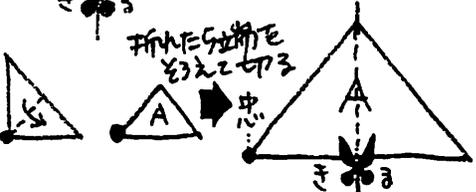
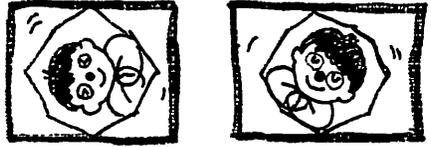
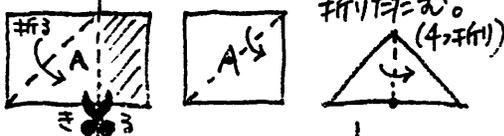
〈祈り〉

天の父なる神様。私たちの罪のために死んでくださったイエス様がよみがえられたことを受け入れ、私たちも同じように復活へと導かれているという希望を持つことが出来るように、私たちに聖霊なる神様がはたらいてくださいますように。主イエス・キリストの御名によって、アーメン。

◎「くるくるおいのりカード」◎

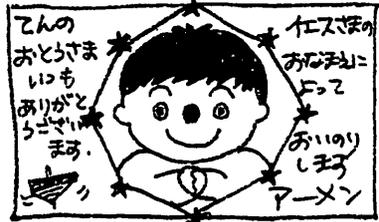
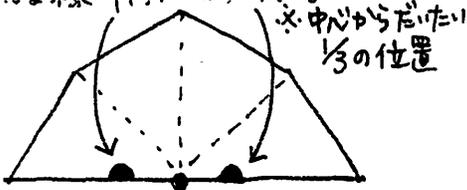
くるくるまわして
いっしょに
なるよ

1. 画用紙1枚(色画用紙の方)を正方形に切って



3. もう1枚の画用紙の中心とAの中心を
合わせて割りでとめる。Aの方に
クレヨンで顔を書く。(鼻が割りで)

2. Aを2つ折りの状態までひらいて、目の部分
には半円に切り抜く。



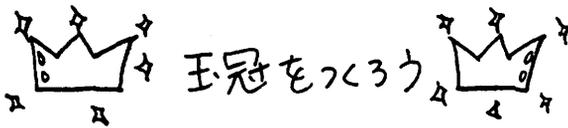
まわぐな状態で 8角形のかじに合わせて
下の画用紙に印をつけてあき、こずくらずらして
いっしょに目を書いていく。

ザリリエウ

画用紙2枚 (1枚は色画用紙でも)

クレヨン・はさみ・割ピン 1

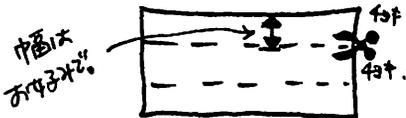
《1月13日分 幼稚科展開例（工作）》



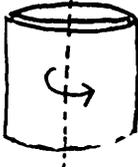
王冠をつくらう

💡 3ばんのきり方はいろいろやってみて下さい。意外な王冠が出来上がる。木の部分を残しておけば、どなたでもつくれます。

1. 色画用紙を横長に7センチに切り、



2. 6センチくらいに折る。



（はじめ3センチ）にし
それを更に
2つに折る。

3. 上下の1センチ

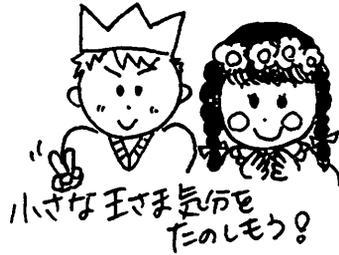
半分より下は
残しておいて方が
かぶりやすい。



またこの紙
先生に
てたつても
あう。

セロテープで
とめる前に、
クレヨンで
色を塗ったり
絵をかいてみよう

4. たがえて、子どものあたまの大きさに
長さを調節してセロテープの
輪にする。



ざいりょう

色画用紙、1枚。
はさみ、セロテープ
クレヨン

やさしい絵をかこう！何が出来るかな？



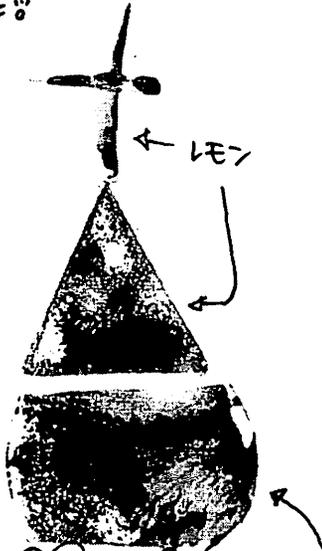
レンコンやレタ、
おくらや人参もオモシロいかな。



大判紙、はんぶん紙、表面紙、平らなもの（ちり紙や折り紙も可）、は、紙のじり、
星形や三角紙などに切り、おくとおもしろいよ。



玉ねぎ



レン



スポンジに絵の具を少しおき（水は、はかないでいい）スタンプ台にしませう。
へたのつやがにいい場合は、画用紙、厚紙などに持の部分を作れ、セロテープは、お
おくと、押しやすいよ。

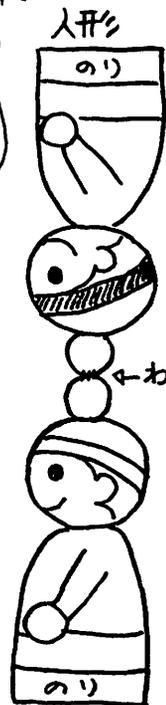
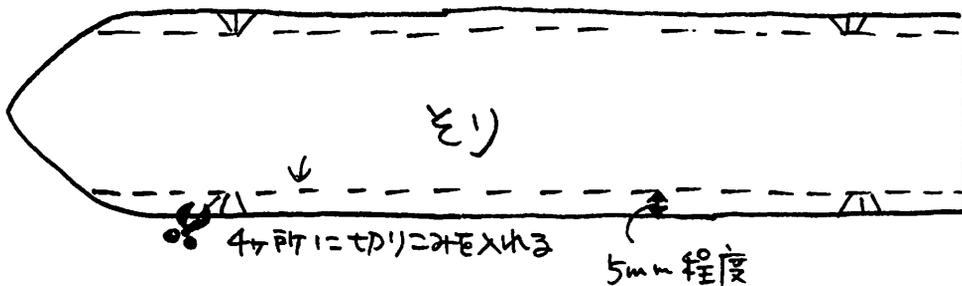
ざいりやく
うあいスポンジ
容器（スポンジが入る）
絵の具・水
やさしいへた。
画用紙。



《1月20日分 幼稚科展開例（工作）》

そりすべり

おしりすべり用のしし板（テーパー）に
そりをすべらべ、いっせいにスタートさせる。



糸をひく
一方をそりの先頭へ
もう一方を玉玉に
糸をひく



途中でとまってしまふ
指先でちねと
押しこめろ。
まて、まて、出せよ!

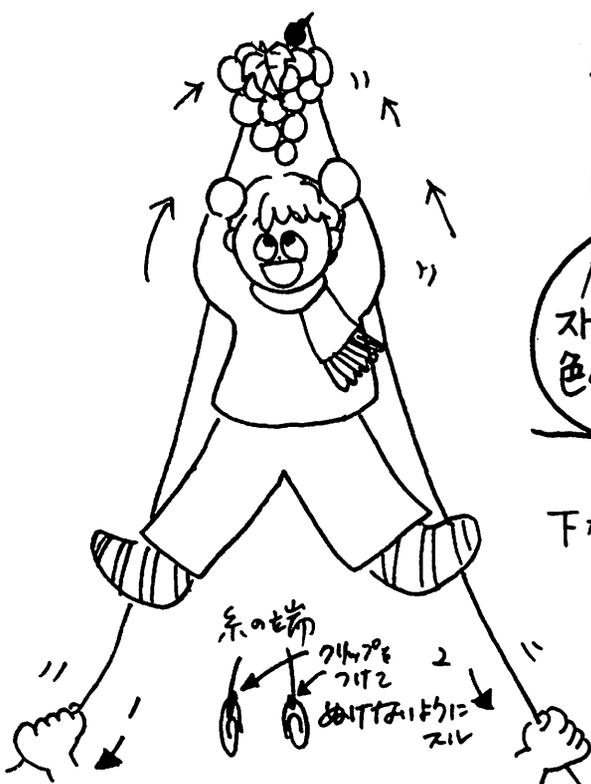
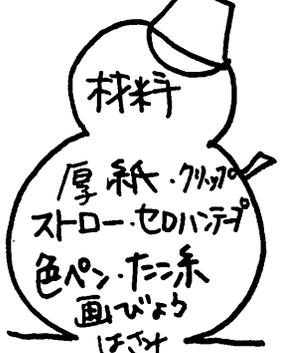
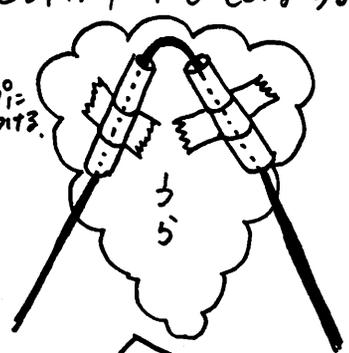
1. そりと人形を
画用紙でくさす。
2. そりのうら側には3つを
塗り、前と後ろを
えんぴつでまらぬ。
3. 糸をひく。
(はりてとまてかた)

ざいりゆ

画用紙・糸・針
のり・色えんぴつ
色ペン・3つ

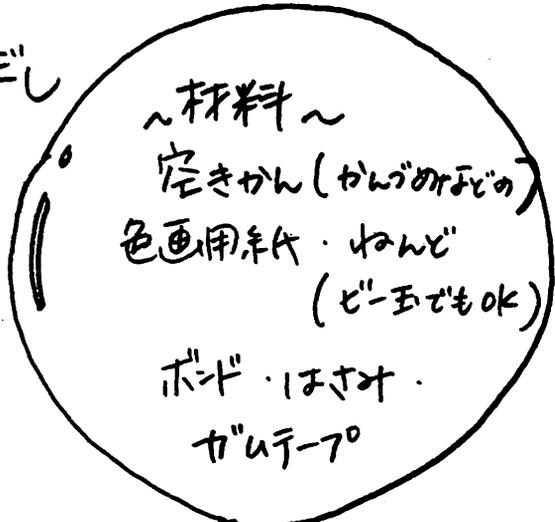
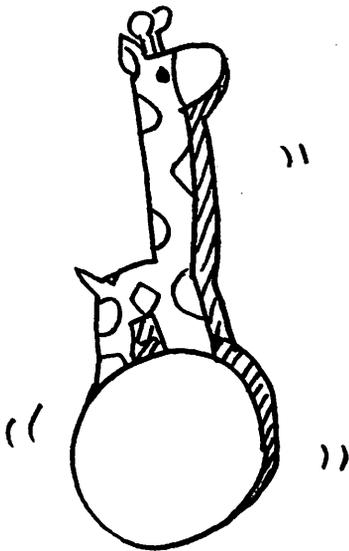
つながる つながる どんどん つながるよ

1. 太二糸を2mぐらい }
 ストローは、3cm" } の長さに切っておきます。
2. 厚紙に、ぶどうの絵と自分の絵を書いて切りとります。
 (8cm ~ 10cm 四方の大きさがめやす)
3. 裏側の上の方には「ハ」の字にセロハンテープでめめます。
4. ストローに太二糸を通し、^{端を}クワガタの ^{クワガタ} 壁か柱に画びょうをさして糸をひっかけます。

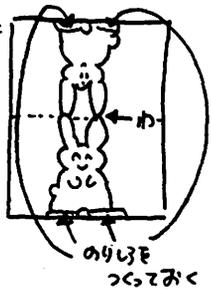


下から右左交互に
 きゅっきゅとひっぱると
 どんどん上の方に
 のぼっていくよ。

おきあがりニいまし



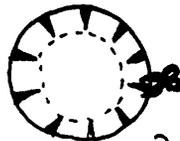
かんの内
に合わせて
かざりを
作って
おく。



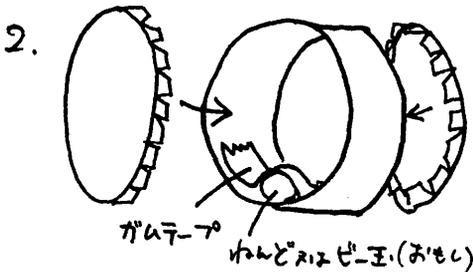
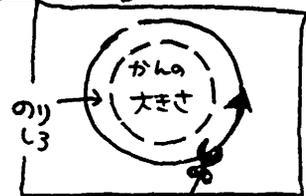
1. 空きかんを画用紙にあてて円をとる

その円より少し大きめにのりしろを
とって画用紙を切る。

外側には切り込みを
いれる。



2枚



かんの内側には重りとして
ねんどかビーズをガムテープで
つけ、よそと反対に1の
画用紙をボンドでつける。

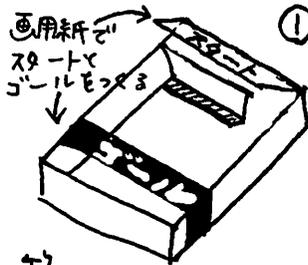
3. かんのす横の部分にも画用紙をのりつけ、重りとして反対側には

かざりをつける。ゆらして遊ぶ。たおかしで遊ぶ。たおかしだよ!!

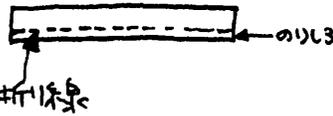
迷路をつくって遊ぶ

1. 箱を色画用紙で飾りつける。
2. 厚紙を使って壁をつくる

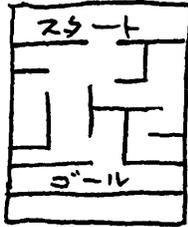
材料
菓子箱、色ペン
色画用紙、厚紙
ビー玉、ボンド、のり
はさみ。



① 箱の高さにあわせて厚紙を切る



箱の底に



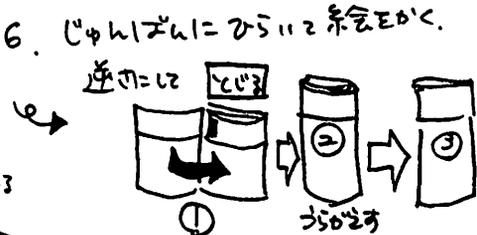
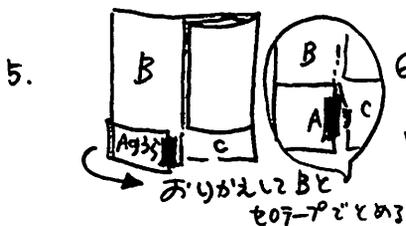
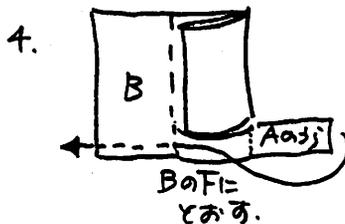
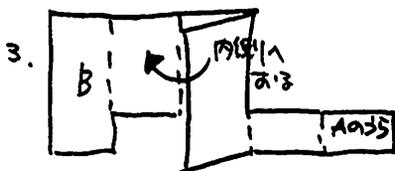
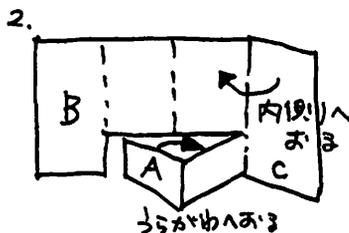
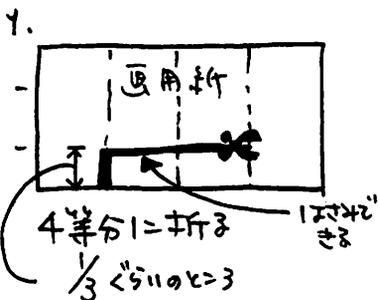
- ② 箱の底に迷路線を書く。その線に沿って①の厚紙を貼っていき。
- ③ ③ ビー玉が通る太さにはしておく。

スタートの

ふたをあげてビー玉を入れこらして遊ぶ

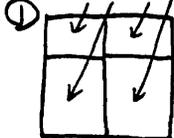
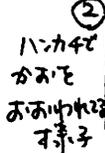
パラパラ絵本

材料 画用紙、はさみ、色ペン。
★厚紙のうす紙、銀紙(ステンレス紙、アルミ紙)

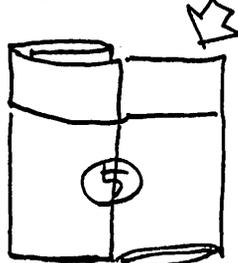
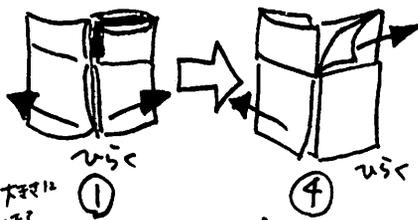


口音唱聖句の
ことばから、よさそうして
糸をきかいてみると
オモシロそうじや。

例



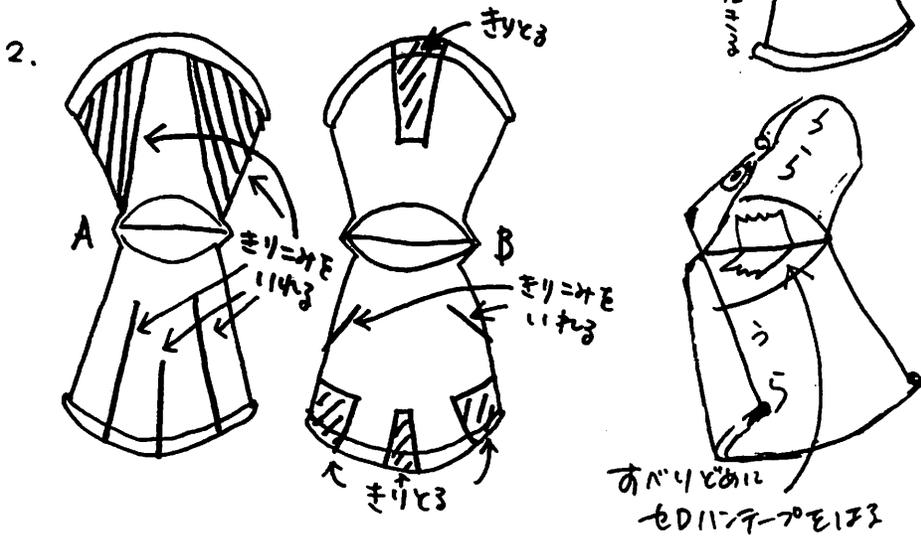
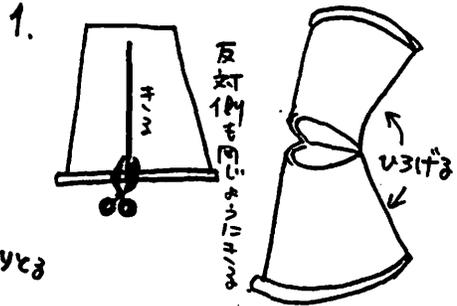
少し
キラキラ
と。



おもいっきりセカイ的なおまこ
かいてみよう。

ハクハクおしゃべり人形 (こどもかんたんデズ)

材料. 糸コップ・ハサミ
ペン・クレヨン
セロハンテープ



マラカスをつくってさびしよう 

材料

乳酸飲料の容器 (同じの2つ)
小豆・ビニールテープ・シール
(大豆でもOK)
はさみ・ボンド

→ 3-7とか
ちっちゃいのでもOK
大きすぎると、いりま
す。

1. 空の容器にあおきを半分くらいまで入る。



2. ボンドで2つの容器の口を合わせろ。
ビニールテープで、とけないうちにまいて、とめる。

3. シールで飾りをつける。(ビニールテープで飾りつけても良い)

リズムを打ってさびしよう。

わたしたちの
つみのため
38ばん

こどもさびし(黄色)
(日本基督教団音楽隊委員会編)

1. わたしたちのつみのため
十字架にかかった
主イエスさま。

2. わたしたちを
今もなお
あまもり
くださる
主
イエスさま

3. わたしたちにみ光を
あててください
主イエスさま



おてがみをかいて わいわいふうとウに入れて。

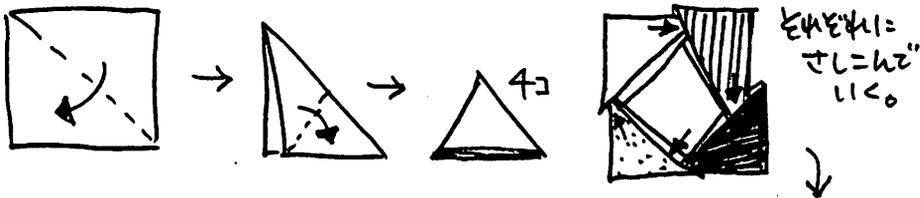
イースターに、おともだちをさそおう!



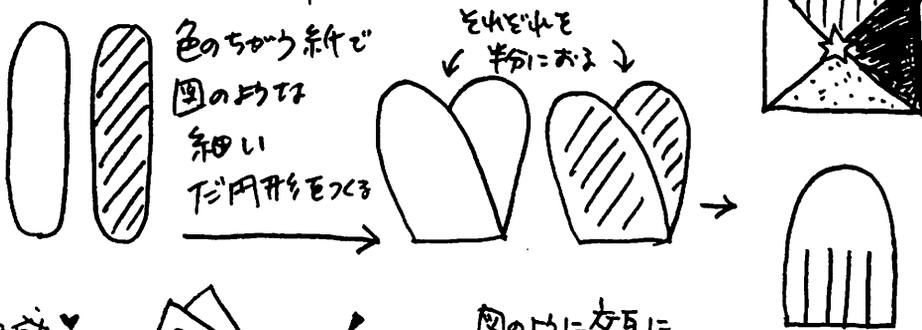
材料. 折り紙. ケーパ紙ぐらいの厚さの色紙
(色画用紙でも代用可)

はさみ.

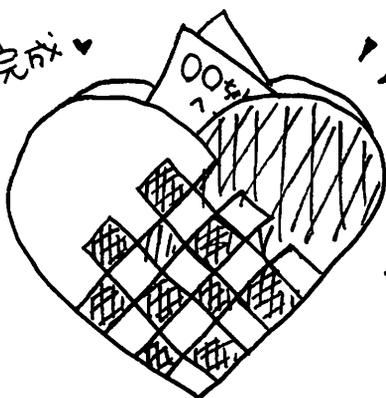
1. 折り紙 下記の様に4枚の折り紙を折る.



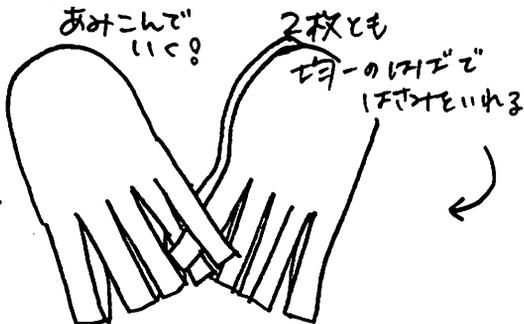
2. 厚い色紙. 色画用紙.



完成♡

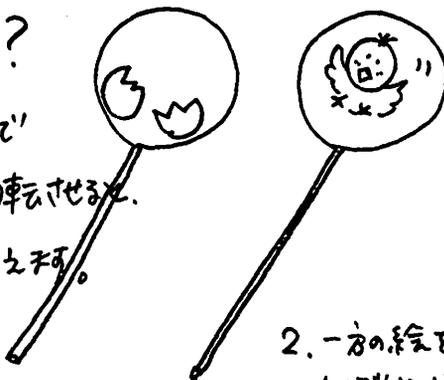


図のために交互に おみこんで いこ!



まわると何が見えるかな？

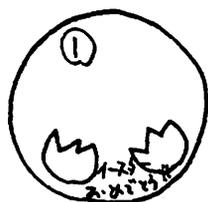
丸ぼうしを両手に持って
二回りあわせ、お早く回転させるよ。
2枚の絵が重なって見えるよ。



1. 適当な大きさで

画用紙に円をかき、2枚切りまわす。

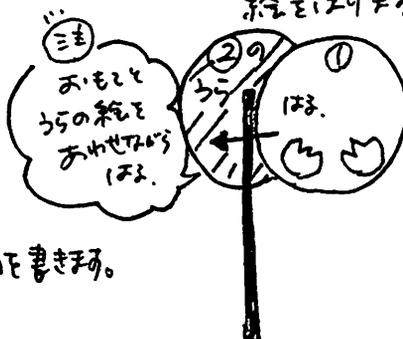
2. 一方の絵を
丸ぼうしに貼り、
うらみまわすもう一方の
絵を貼ります。



1枚にわかれた
たまごのから。



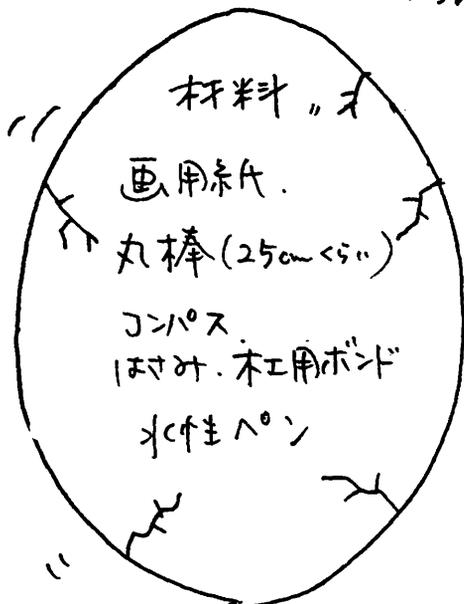
もう1枚は
うまけたこのヒヨコを貼ります。



※自分で絵をかいてもいい。

①の上にかまねておかしなから②をかきまわす。

いろいろな絵でためせますよ。

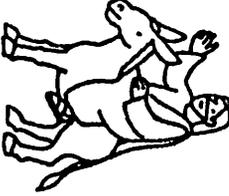
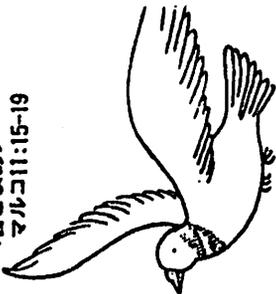
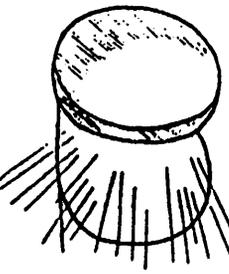
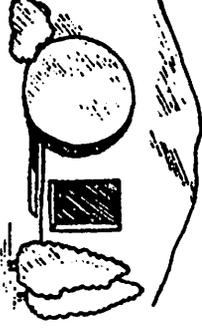
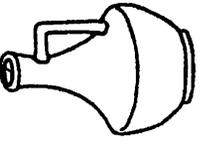
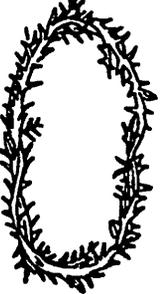


♪さんびしょう♪

ニどきさんびか (青色) 113
(日本基督教団 讚美歌季会編)

① くまめきのめか めをまし しまかやあか だしまし。	② たまごのなから ピョピョ かひいひよこ とびだせよ
(あやめし) うたいまし いけいまし うれいいうれい イースター	③ あはが おぼろい あかやかくさかた みせたまふ

《3月24日分 小学科下級展開例（工作）》

<p>「ホササ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。」</p>  <p><エルサレム入城> マルコ11:1-11</p> <p>3 / 2 4 日</p>	<p>「わたしの家は、すべての国の人の祈りの家と呼ばれるべきである。」</p>  <p><富きよめ> マルコ15:19</p> <p>3 2 5 月</p>
<p>「あの方は運活なさって、ここにはおられない。」</p>  <p><よろがえり> マルコ16:1-8</p> <p>3 / 3 1 日</p>	<p>「天地はほろびるが、わたしの言葉は決してほろびない。」</p>  <p><いちじくの木のおしえ> マルコ13:28-37</p> <p>3 2 6 月</p>
<p>「横人たちは、安息日には、おきてにしたがって休んだ。」 (ルカ23:56)</p>  <p><墓の中></p> <p>3 / 3 0 土</p>	<p>「この人はできるかぎりのことをした。」</p>  <p><香油をそぐ> マルコ14:3-9</p> <p>3 2 7 水</p>
<p>「父よ、彼らをおゆるしくください。自分が何をしているのかわからないのです。」</p>  <p><十字架> ルカ23:26-56</p> <p>3 / 2 9 金</p>	<p>「取りなさい。これはわたしの体である。」</p>  <p><最後のばんさん> マルコ14:22-26</p> <p>3 2 8 木</p>

日曜学校 2002年度カリキュラム (2002年4～6月分)

2年サイクル第2年 (子どもカテキズム問34～85)

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単元の目標			
4月7日 進級	神の民の祈りの家	問34	ウ小88、ウ告白25章、ハイ54,55
		使徒2:42-47	マルコ11:17b
信仰の歩み・救いは神の民と共なる歩み、教会に生きることなしに成立しない			
14日	キリストの体なる教会	問34	ウ大64-66、ウ告白25章
		エフェソ2:14-22	エフェソ1:23
キリストとの結合によって、お互いを感謝して受け入れ、共に生きる			
21日	再臨の約束	問35	ウ小28、ウ大56、ハイデ52
		マタイ24:29-31	使徒1:11
天に昇られた主イエスが再び来てくださる約束の確かさ、その希望に生きる			
28日	再臨に備える	問35	ウ小36、ウ大79-83、ハイデ52
		マタイ25:1-13	マタイ25:13
喜んで待つ者だけが、地上の生を大切に、的外れにならずに生きることができる			
5月5日	死のときの祝福	問36	ウ小教理37、ハイデ1
		ヨハネ11:17-27	ヨハネ11:25-26
主イエスと離れて死ぬことをこそ恐れ、主イエスに結ばれて死の恐れを克服する			
12日 母の日	復活のときの祝福	問36	ウ小教理38、ハイデ57-58
		ヨハネ黙示録21:1-8	ヨハネ黙示録14:13b
主イエスと完全に一つにされ、神共にいます幸いに入れられる約束を確信する			
19日 ペンテコステ	教会の誕生	聖霊降臨祭	ハイデ53,54
		使徒2:1-13	使徒1:5
聖霊によって教会が生み出され、今ここで子どもたちに聖霊が注がれている			
26日	感謝—神の求め	問37	ウ小39、ウ大91、ハイデ86,87
		ルカ17:11-19	テサロニケー5:18
律法的な生活ではなく、福音的な感謝の生活を生きる			
6月2日	感謝としての服従	問38	ウ小39,40、ウ大92、ハイデ90,91
		マタイ13:1-9,18-23	ヤコブ1:22a
御心に従うことが喜びに生きる唯一の道であることを、喜びをもって分かち合う			
9日 花の日	十戒—感謝の道標	問39	ウ小41、ウ大93-98、ハイデ92
		申命記6:16-25	申命記4:8
十戒は神から神の民への愛の贈り物、愛の言葉。熱情の愛に燃やされて生きる			
16日 父の日	神と人への愛	問40	ウ小42、ウ大98、ハイデ93
		マルコ12:28-34	ルカ10:27
神の愛の言語化が十戒。十戒が神と人への愛に生きることを呼び覚ます			
23日	賤いの御業—過越	問41,42	ウ小教理43,44、ウ大教理101
		出エジプト12:21-27	出エジプト20:2
十戒の根拠となる神の御業。十戒(律法)が主なる神の福音であることを明確に			
30日	過越の成就—キリスト	問41,42	ウ小教理43,44、ウ大教理101
		ヨハネ19:17-30	コリント一5:7c
主イエス・キリストの光を通して、私たちへの御言葉として十戒を受け取る			

日曜学校 2002年度カリキュラム 年間計画

2年サイクル第2年(子どもカテキズム問34～85)

月 日	教会暦・行事	主題(仮題)	子どもカテキズム
2002年		第二部 信仰の道 五 聖霊なる神さま	
4月7日	進級	神の民の祈りの家	問34
14日		キリストの体なる教会	問34
21日		再臨の約束	問35
28日		再臨に備える	問35
5月5日		死のときの祝福	問36
12日	母の日	復活のときの祝福	問36
19日	ペンテコステ	教会の誕生	聖霊降臨祭
26日		第三部 生活の道 一 感謝について 感謝—神の求め	問37
6月2日		感謝としての服従	問38
9日	花の日	第三部 生活の道 二 感謝に生きる道 十戒—感謝の道標	問39
16日	父の日	神と人への愛	問40
23日		贖いの御業—過越	問41,42
30日		過越の成就—キリスト	問41,42
7月7日		第一戒	問43,44
14日		第二戒	問45,46
21日		第三戒	問47,48
28日		第四戒	問49,50
8月4日		第五戒	問51,52
11日		第六戒	問53,54
18日		第七戒	問55,56
25日		第八戒	問57,58
9月1日		第九戒	問59,60
8日		第十戒	問61,62
15日	敬老の日		問63
22日			問64
29日			問64

月 日	教会暦・行事	主 題 (仮 題)	子どもカテキズム
		第三部 生活の道 三 教会に生きる道	
10月 6日		教会	問 65
13日			問 66
20日			問 67
27日	宗教改革記念日	恵みの手段	問 68
11月 3日		御言葉	問 69
10日			問 70
17日		礼典	問 71
24日		洗礼	問 72,73
12月 1日	アドベント	待降節	待降節
8日	アドベント	待降節	待降節
15日	アドベント	待降節	待降節
22日	クリスマス	降誕祭	降誕祭
29日	年末	一年の感謝	
2003年			
1月 5日	新年	聖餐	問 74,75
		第三部 生活の道 四 祈りに生きる道	
12日		祈り	問 76
29日			問 76
26日		主の祈り	問 77
2月 2日		呼びかけ	問 78
9日		第一の祈願	問 79
16日		第二の祈願	問 80
23日		第三の祈願	問 81
3月 2日		第四の祈願	問 82
9日		第五の祈願	問 83
16日		第六の祈願	問 84
23日		頌栄、アーメン	問 85
30日			問 85

編集後記

●みなさまのお祈りに感謝します。今回は簡単で楽しい工作に力を入れました。主の御名がほめたたえられますように。表紙について・・・父と子と聖霊なる神様にとり囲まれて生きる子供たちをイメージして。(弓矢容子、名古屋岩の上传道所日曜学校教師) ●つたない奉仕ですが、「多くの子どもに主イエスを伝えたい」との祈りをもって、当たらせていただきました。本誌によって、それぞれの日曜学校のお働きがますます祝福されますように。(相馬直子、名古屋岩の上传道所日曜学校教師) ●今回のほとんどの聖書箇所を通して主の十字架に注目させられ、祝福を沢山いただきました。(山口英俊、豊明教会日曜学校教師) ●中国出張中です。(伊藤治郎、四日市教会日曜学校教師) ●名古屋駅前の小さな喫茶店。昨年の今頃、木下牧師と「刊行」について話

し合いをしたことが思い出されます。素晴らしい奉仕者に支えられましたことを心から感謝しています。そして第二年目、新しい執筆者・協力者を広く求めます。(相馬伸郎、名古屋岩の上传道所宣教教師) ●子どもたちに福音の恵みと喜びが豊かに届くよう祈りつつ、今後もこの奉仕を続けていきたいと思えます。(木下裕也、豊明教会牧師)。●少しではありますが協力できて感謝です。(村手淳、太田伝道所宣教教師) ●多くの方が用いてくださっていることに励ましを与えられ嬉しく思い、この働きを導いて下さる神様に感謝を捧げます。(春名義行、津島伝道所宣教教師) ●皆様の働きが祝福され、主イエス・キリストの福音が花開き、豊かな実りをもたらしますように。その一助となれば幸いです。(望月信、高蔵寺伝道所協力牧師)。

執筆担当		編集部
聖書研究	分級	相馬伸郎(長)
前半・・・村手淳	幼稚科・・・弓矢容子	木下裕也
後半・・・春名義行	小学科下級・・・相馬直子	村手淳
カテキズム研究	小学科中級・・・春名義行	春名義行(会計、販売取次)
前半・・・木下裕也	小学科上級・・・山口英俊	望月信(書記、編集)
後半・・・望月信	中学科・・・伊藤治郎	
説教展開例・・・相馬伸郎	表紙イラスト・・・弓矢容子	

●編集部より

今号も守られて、皆様のお手元に教案誌をお届けすることが許され、心から感謝しています。皆様からの励ましとご批判の声をいただきながら、より良い教案誌として成長させられたいと願っております。

今年度は、分級展開例の執筆を何人かの個人の方にお委ねして参りました。それぞれに素晴らしい展開例をお寄せいただきましたことに感謝しています。来年度については、教会単位で分級展開例を執筆していただくようにと計画しています。個人の負担を減らすと同時に、教案誌の執筆そのものが教会の業となるようにと願うのであります。分級は決して教師個人の業ではなく、教会全体の業なのです。それぞれの教会のカラーが表れる展開例になるであろうと、楽しみにしています。それらを参考にしながら、それぞれの教会の分級に取り組んでいただきたいと願っています。

次号より、教会史についての連載を始める予定です。そのほかにも、日曜学校紹介や論文など、日曜学校教師の学びの益となることを願って掲載して参ります。また、ご感想やご意見、ご批判の声をお寄せください。今年度に引き続き、来年度もよろしくお願い申し上げます。

日本キリスト改革派教会 中部中会 『日曜学校教案誌』

2002年1・2・3月号(季刊)

第4号

2001年12月16日発行

発行 日本キリスト改革派教会 中部中会 教育委員会
編集・発行所 日本キリスト改革派教会 中部中会 日曜学校教案誌編集部
名古屋岩の上伝道所 宣教師 相馬伸郎
〒458-0008 愛知県名古屋市緑区平手北2-1701 協英ビル3F
Tel/Fax. 052-877-8962
頒布取り次ぎ 津島伝道所 宣教師 春名義行
〒496-0038 愛知県津島市橋町2-30
Tel/Fax. 0567-26-4221
印刷 株式会社あるむ
頒価 900円(本体価格)
